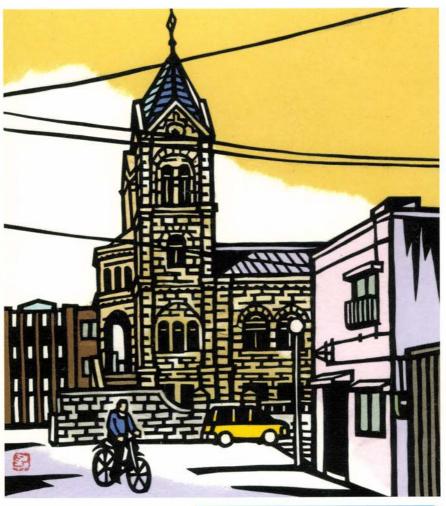
川柳杨



No. 1014

第17回 川柳塔まつり特集

十一月号

## 年賀広告募集

ます。 ★個 みのほど、 スと掲載料は、 アピール及び誌上名刺交換の場として、積極的 にご利用をお願いする次第です。広告のスペー 本誌一月号に掲載する年賀広告を募集いたし 同人・誌友ならびに各句会 よろしくお願い申し上げます。 左記のとおりですので、 (川柳会)の お申込

一口
り
頁 %頁 二、〇〇〇円 三、000円

次の四種といたします。 氏名・住所・電話番号など掲載

★団

体

②半頁 ① ½ 頁 九、〇〇〇円 六、〇〇〇円 ③%頁 一二、〇〇〇円 ④一頁 一八、〇〇〇円

原稿締切

11 月 23 日

∓ 543-0052 大阪市天王寺区大道一— TEL 06 花野ビル -6779 - 3一四一一七 20 1号室 4 90

111 柳 塔 社

## 第一回 春の川柳塔まつり誌上大会募集

ました。是非皆様のご参加をお待ち申 だく機会として誌上大会を企画いたし 結社を越えて広く川柳をお楽しみいた どにお出掛けになれない方々を含め、 し上げます。 このたび川柳塔社では、日頃句会な

(一二三頁参照)

Ш 柳 塔

社

川柳塔社同人参加(一人一句)

★新年号特集★

私の一句\_

■今年中に発表された句に限ります。 締切 11月23日(本社事務所宛

# 第一回春の川柳塔まつり誌上大会

### 小島蘭幸

毎年、10月に開催される川柳塔まつりも、早いもので今年、第十七回を迎えました。同人総会、路郎ので今年、第十七回を迎えました。同人総会、路郎ので今年、第十七回を迎えました。同人総会、路郎ので今年、第十七回を迎えました。同人総会、路郎ので今年、第十七回を迎えました。同人総会、路郎ので今年、第十七回を迎えました。同人総会、路郎ので今年、第十七回を迎えました。同人総会、路郎ので今年、10月に開催される川柳塔まつりも、早いもと題しておはなしをされました。

か、春の川柳塔まつりとして…。」という提案があ人にも光を!! 誌上大会を開催してはどうでしょうておりました。先般の常任理事会で「出席出来ないすが、その陰で、出席したくても出来ない柳友も多すが、その陰で、出席したくても出来ない柳友も多すが、その陰で、出席したくても出来ない柳塔まつりでこのように順調に回を重ねてきた川柳塔まつりで

面白いのです。

一、選者は川柳塔社だけでなく他社からもお願りました。これは正に天の声だったのです。

、課題を少なくして共選とすること

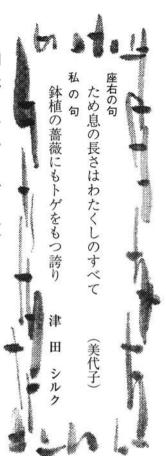
一、結社を越えて広く応募をして頂くこと

いろいろと協議を重ねて、ここに第一回春の川柳

も選こつっては、前月号で入た子代ないでも選をすよう、よろしくお願い申し上げます。 綱が掲載されています。是非とも参加して下さいま塔まつり誌上大会が誕生したのです。本号に募集要

あると思います。もう一つは貴方自身が三人目の共なんといっても一題で二度選句を楽しめるところにした思い出を書かせて頂きましたが、共選の魅力は、共選については、前月号で八木千代さんと共選を

句の入選が少ないことを祈ります。その方が共選はから私も胸をわくわくさせています。願わくば同一今回は他社からの選者として、雫石隆子氏と田中自分自身の選句力を高める良い機会だと思います。選者になれることです。二人の選句を楽しみながら選者になれることです。二人の選句を楽しみながら



#### 川 柳塔 十一月号目次

題字・中島生々庵/表紙きり絵 ・前田 尋 「宇都宮

あかつき川柳会次の10年へ………………… 川

端 島

2

蘭

選

: : : 1

4

第一回春の川柳塔まつり誌上大会……… 小

■巻頭言

柳塔

(同人吟)

水煙抄 自選 温故知新 柳塔の川 集 柳讃歌 (83) 木津川 計 : 52 51 47 48

回想の「俺に似よ」』 ...... 渡 辺 隆 夫 選 : :

|路郎句抄 ..... 同人総会・おはなし・各賞表彰・記念句会・懇親宴 家完 司 選

:

90 89

94

誹風柳多留一一篇研究 75 ......

愛染帖 麻生

第17

寄

## あかつき川柳会次の10年

Ш 端 歩

ました。 ホールで開催し、 鶴彬忌記念川柳大会は、大阪健康福祉大学 あらためて皆様方のご協力を心からお礼 9月11日、あかつき川柳会創立10周 162名の参加で成功し

きます。 ないことに、もどかしさと怒りさえ沸い とたたかっておられます。政治の力が届か い、その上に原発事故、二重三重の苦しみ 近い方々の避難生活、家族も家も仕事も失 ヶ月になります。2万人の犠牲者、9万人 9月11日は「東日本大震災」から丁度6 T

記念講演は、 っている困難の中での大会でありました。 意見ご感想が寄せられています。こまやか きる鶴彬」を話して頂きました。 三重を中心に襲った爪痕がまだ生々しく残 また、この日は台風12号が和歌山、奈良、 大会を終えてご出席の皆様から多くのご 評論家の中田進氏に「今に生

72

74

なお心遣いの進言から叱咤激励まで、 なご意見を今後に生かしたいと思います。

	ふる里は普通電車で駅三つ	私の句	充電をしておりますと動かない	※ 座右の句		■編集後記(ひとこと/山口光久)	柳界展望	十一月各地句会案内	各地柳壇(佳句地十選/山本義子)	津軽発おもしろ景色 ⑥	せんりゅう飛行船 ⑴	竹原川柳会創立55周年 記念大会に参加して	<b>                                      </b>	秀可監賞   同人吟	初歩教室「にぶい」	/「つくづく」	一路集   「退 屈」	/「渋 い」	■エッセー『一枚の写真』	<b>樗榜抄一支える」 福士慕情</b>
	俣 野 登志子	9.	(瑠美子)	eres.		朱夏·能子 (28	126	124		髙瀬霜石…(109	新家完司…(108	…山本希久子…(河	武本 碧…(106	山本蛙城…(104	鈴木公弘 (102	…加川靖鬼選…(回	···· 松本知恵子選 ··· (100	白根ふみ選… (100	久保田千代 (99	1. 池 森子共選 … (96
今更に神や仏の		反戦歌時代の決		新しい私が待つ	んな希望を思わせる	(へすすむことがでも		_				1)     こ次世界大戦のある		) た	(税) 柳人は「戦後の惨点	)	(8) 後進むべき方向でも			3()   6月12日開催され

3代き方向であります。
は別権された全日本川柳界の今の句を詠んでこれからの川柳を語ろの句を詠んでこれからの川柳を語ろい大会で、日川協会長の大野風柳氏は72日開催された全日本川柳2011

柳人は「戦後の惨状と同じだ」と訴えまし後進むべき方向であります。

私たち人類の歴史は「戦いのあとに道を私たち人類の歴史は「戦いのあとに道を、こ次世界大戦のあの苦い犠牲を経て「新憲二次世界大戦のあの苦い犠牲を経て「新憲ニ次世界大戦のあの苦い犠牲を経て「新憲ニ次世界大戦の方です。戦争と震災とは質的に政革」等などです。戦争と震災とは質的に政革」等などです。戦争と震災とは質的に改革」等などです。戦争と震災とは質的に改革」がある。第

い私が待っているゴール

(戦歌時代の波を越えてゆく

田中新一

の手に負へず

井上剣花坊



島

蘭

幸

選

弘前市 髙 瀨 霜 石

ご先祖も縁がなかったろう小判 本心にいちばん近い喉仏 哲学と言えなくもないわが歩幅

おばちゃんの財布なかなか出てこない 友だちがある日突然光り出す

舐めるのは得意だ舌が二枚ある

札幌市 Ξ 浦 強

検査値と握手晩酌が旨い 背番号付け台風の威丈高

子供には反面教師ですわたし 日本の四季を安近短で愛で

その由来問えば神代に遡り 自分史に後の祭りの笛太鼓

脳味噌も貯金も残が減るばかり 政界に関わりたくはないどじょう 松山市

ぼけたんちゃう孫に言われたら笑う

怒るのもメール謝るのもメール

原形は不明似顔絵コンテスト 人を恋う背なの形になって来た

光

気がつけば韓流という渦の中 絶頂の顔には少し癖が有る

古手川

一歩前へ 男子トイレに書いてある

河鹿ほろほろ いのち洗たくしてくれる 生きなさい生きろと点滴が落ちる

和歌山市

木

本

朱

夏

ペアカップのひとつと秋を暮れてゆく 透明になるまで歌うアヴェマリア

ケータイも時計もすてる秋の天

野仏を包囲してゆく彼岸花 風鈴の音色も秋を告げている インク色の闇をさ迷う銀のペ >

鳥取市

国民を宥める日本語の全て

森 Ш

盛

桜

骨董も埋蔵金もない暮し ひこにゃんと握手近江路秋うらら 風上の火事年金がきな臭い 今はもう破れ太鼓の八十歳 満遍に手を差し伸べる百度石 ノーと言う訓練をする無理をせず 出欠に詫びばかり書く羽目となり 絵葉書に親離れする心意気 初恋はまだ健在で年賀状 忘れたい忘れたくない日の記憶 やせ蛙昭和残像かたくなに 一言が心にカギをかけさせた リハビリの心が和むあかね雲 青い空は青 老人になり美しくなってくる 笑顔だけ攫ってみたい他所の孫 疑問符と喧嘩しないで生きている 辛抱を続けて山葵辛くなる まだ生きていると事務所に顔を出 動物愛護人間もいじめるな いつかまじわる酒の 色の虹である 席 堺 松江市 倉吉市 豊中 市 市 水 Ш 津 牧 野 本 III 野 黒 半 紫 芳 兔 錢 晃 光 野の花の一輪蹲に活け 職退い 睡眠薬のいらない温い人とい 信心と縁なき人も朱印帖 参加との返事に替えて来た訃報 坂道のお喋り息切れで終る 旅順での八月を父語らずに 福を呼ぶまじないならばしておこう 価値観が宣戦布告して困る 外国の天気予報が出てる過疎 故里は妻子の笑顔かも知れぬ 消去法そこに残っただけのこと 腰に手をやって河口を見ています 夢の中でしんみり餌をやっていた 似顔絵が似過ぎ困っている黒板 自分史の華猫の章犬の章 団欒や音符のようなスプーンたち 棒振り回す少年も見なくなり 原色の怒りは水に流す老い いわし雲故郷の空にハイタッチ つずつ紙にくるんである魂 て今が付録の幸と知る る 豊中市 雲市 市 江 竹 桒 見 治 原 ちかし 見 道

夫

清

吹田市 Ш 本

わたしの昭和思い出のど真ん中 時刻表ばかり追ってる秋の天

返事をしますもう一度呼ばれたら

生きんとす茶碗もペンも味方なり 花占い迷路抜けたら信じよう

聞き耳をたてるとかすか冬の音

藤井寺市 太 田 扶美代

アンパンが急に食べたくなって秋 女の手いつも何かを育ててる

さすがマドンナ白髪さえも美しい メダカの餌を買いに行く日の残暑

わたくしの有るや無きやのこころざし

この街の自慢バリヤフリーの駅がある

大阪市

古今堂

蕉

子

秋風の中で真夏の忘れ物

学校が潰れて介護施設建つ

石庭で今までの事先の事

ローン完済やっとしつけ糸はずす

我が初恋と同じ齢になった孫

一田市

久保田

Ŧ.

代

千手観音介護に御手を借り申す

気まじめを捨てなさいねと亡母の声 今日の鬱とうとう食事受けつけぬ

お母さん そこから私見えますか

受付の笑顔会社の好感度

復興は仮縫いのまま震災地

亡き人へ笑顔見せる日きっと来る 居酒屋が好きな女なら脈がある デッサンに自分の好きな色を載せ

庭の隅老母ドクダミの効き目説く ペアルックきっと仲良い嫁姑

エアコンを止めるとビール欲しくなる 只今もお帰りも言う独り者

米子市

竹

村

リバウンドそれも嬉しい祝い膳

運ばれる担架も笑う訓練日

今のうち家族葬など決めておく

大型のテレビが威張る四畳半

旨い物連れてくるから秋は好き

大阪市

村

風

階段を降りる米寿のリズム組む 雨宿りしたおでん屋で酒をくむ

明日も予定あるから今日も元気いい 何もかも許して生きている積

人恋し秋は鉛筆よう削る

空気にはなれぬ夫婦と思い知る 許すことばかりで海は涸れていく

尼崎

市 藤

n

紀の治

能率は言うまい根気なら負けぬ 喜寿傘寿金と智恵とは持ってます チョロチョロと蜥蜴が僕をからこうて 待ちくたびれて病院の椅子の熱 運動会駐車違反も三時まで 見つかってたまるか探し物笑う 独身で趣味は料理と言うご仁 晩年を愛す碁友と菊作り しくじりを攫ってくれた秋の 立秋も本音立前乗せて来る 向日葵もこっそり飲んだ缶ビール 人情もだんだん薄れロボット化 ピカピカの未来が見えぬサングラス 手毬唄ころがる先の終の駅 ほぐれるまで水に浸けておく縺れ 手を洗う秋の匂いのする水で 自信たっぷり満水の琵琶湖 飛び火する話へ水を掛けている 風穴を開けるひとつのヒントから 充電も放電もさせ孫帰る 天高く皮下脂肪恋う肋骨 風 鳥取市 堺 京都 三田市 市 市 北 武 西 高 野 田 村 島 啓 帆 哲 りつえ 子 男 雀 パン焼く匂いも少し生きていいかしら ジルバ踊った脚が他愛なく転ぶ 誰に見しょとて卒寿の鏡 充電をしても古希にも戻れな 寿命などふと考えるLED 分らないネジが落ちてるボクのかも 駅弁のついでに買ってくる地酒 うちの子と言うマルチーズ飼っている 吊り橋は怖い高さにある値打ち コーヒーの半額ほどの発泡酒 敬老日独りの家に寝に帰る 泣かなくなった私を濡らす秋の雨 大事なことは親の背中に書いてある 祈り続ける私がわたしであるように 追いかける季節追いかけられている 打ち揚げ花火の名残りと帰る高瀬川 またひとつ薬増やして秋となる 機械に囲まれ今朝もアラーム鳴っている ふところの軽さとは別 空を見る 一週間のけじめをつけに美容室 黄昏」という茶房の窓で人を待つ 松江市 尼崎市 田 市 堀 松 春 本 城 文 IE. 年

代

和

終着駅せめてトイレを拭いている 子に見せる背中アイロンかけておく 評判を気にするほどの元気です 浅い眠りの中で貴方に逢うている まだ桜色のこころは無くさない あの時の花火の音が耳にある ハンバーグこねる色恋沙汰みたい 好きだとは言えぬ手紙を書いて秋 長命へおひとり様という孤独 しあわせかと問えば弱々しく笑う アイスクリーム溶けて終わりだなと思う よさこいと花火で土佐の夏終る ご養子と聞けばなる程とも思う 自分の足で築いた城は崩れない 女まださらりと捨てたわけでない 働ける手だ公園でただ撫でる 旗立てているがいつでもひとりぼち 自主避難軽い話のように言う 言い勝って今包まれていたと知る 余裕などないがひっそり義援金 五体みな声かけひたすらに歩く 和歌山市 岸和田市 高知市 伊 岩 柏 小 達 佐 原 III 郁 Ŋ ダン吉 てるみ 夫 胡 忙しいからまだ当分は死なないよ 幸せはいつでも一歩先にある 惚れた腫れたを越えてホントの恋になる 障害者手帳をゲットした手術 お酒って悲しい時も飲めるんですね 惚れるのに理由なんかが要るものか 何時だって心の駅に亡母が居る 生き方をいろいろ問うてみる夕日 お返しの文化を生きて恙無い ポジティブに生きる呪文を忘れない 待ち焦れ一喜一憂する塔誌 しなやかに今日吹く風と手を繋ぐ 波被る覚悟言いたいことは言う 長老も経験ないという豪雨 今のうちきれいな空気吸っておく 子の瞳トリックなどはありません 記念日は三日前ですでも感謝 もっと背を伸ばせと影に叱られる 花束が作り笑いを連れて来る 一 三歳までは天才だった孫 呼吸置いた返事だ信じよう 枚方市 鳥取市 香芝市 大 寺 岸 III 内 本

朝

子

宏

章

弘

ぴったりの秋を探している踵 雷の多い町にも住みなれる カラオケの八分音符に励まされ 青リンゴ偏差値だけで間引かれる 気くばりに少し疲れた真珠婚 積み上げた友垣だけど棘もあ 生たまご何が出来るか問うてみる 清らかな水吸った米美味である グリーンカーテン副産物があり嬉し 情けないことばっかりが続く日々 婆さんは孫におもちゃにされてい 猿が出て西瓜の試食して呉れる 大屋根に上りたばこを吸っている 介護用腕のふうとい嫁もらえ 腕相撲孫が年金賭けと言う 万歩計綺麗な虹とすれちがう 名月にふと思い出す亡夫の癖 波のりの上手な八重歯に負けてい 月走る何かが起こる予感して お月様まだまだ女盛りです いい仲間バックアップを忘れない 富田林市 る 鳥取県 鳥取市 芦市 る 細 Ш 土 中 橋 田 井 﨑 裕 武 は 7 るお 花 丰 彦 サプリメント不老長寿の夢を追う メタボ腹血を吸い過ぎた蚊の末路 血が騒ぐこともめっきり減りました 原発終東二十年後と言われても 後期とは言わず好機と受け止める カラフルに咲かす花園持っている 巻き戻しはかる男の安来節 世の動き把むアンテナ錆びてくる 列島の沈下へどじょう腕まくり 体力測定だけで疲れて帰路に着く 教え子も還暦招かれたうたげ 鶏頭の花地味なりにそれなりに 枝豆を買ったビールを買い足そう 彼岸会にお久し振りと人招く 風そより今年の秋に巡り合う 子の帰る故里守るのが仕事 アイディアが発芽するまで水を遣る 絶妙のバランスだろう黄身白身 あれやこれサプリメントも食卓に 人ひとり許して肩の凝り消える 一枚のはがき家中揺れ動 池 ||槻市 田市 渡 栗 峯 辺 田 村 勲 富 久

子

子

弘

突然の雨がサヨナラ早くする 指切りの指は別れを知っていた 機市 島  $\mathbb{H}$ 千鶴子 苦を楽へ変える汗ならかいてみる 気まぐれでじっとしてない風見鶏 ゆるりでも一人歩けるうちは華

ぐうだらと過した夏が癖になる

内証事入れたポケット破れてた コスモスの中でパラソルよく回る

私の鏡に魔女は住んでない

南市 堂 E

ぬ

泰 女

津 守 なぎさ

大阪市

動じぬと信じた自分まだ揺れる バラー輪咲いた女の子が生まれ 神様のカルテ息子も堪えている 意地張りの娘素直にさせた婿 染み込んだ育ち今更変えられ

過秋天に澄む白鳥座

イケメンに頼るリハビリ苦闘 ペン持てぬ辛さ左手特訓中 中

支え合う傘寿同士の糸電話 へ卒寿の友は喜々として

人混みは避け外出のリフレッシュ 大台に乗り大台を過す知恵

聞こえてはいるが聴きたくない自慢 聞こえてはいるが聴いてはいない愚痴

誘われて行ける倖せ赤い靴 うす味に馴れて血圧上機嫌 雑草のように育った子の優し

時間だけ過ぎて余生はままならず

昌 鼓

鳥取市

永

原

諦めたバスを見送る炎天下 ひと溢れ話せる人の無い都会

いのちをつなぐ水に生命を奪われる 米寿さえ想定外という豪雨

血圧測定深呼吸したの内緒 わたくしの場合食欲の四季です 洗濯の応援にきた法師蝉

ちぢんだらあかん背伸びをもう一度 地デジになってテレビ何故だかつまらない 吹田市

下 子

生き方は雨が降ったら羽根休め まだやる気大根蒔いて葱も植え

よいしょっと言わねば脳も動かない 安穏な時間うばいに来る電話 亡母の声に似てなつかしい波の音 くるくると疲れ知らないハムスター 八尾市 大阪市 村 大 上 JII

桃

花

ミツ子

気の遠くなる残滓がなんと十万年	末代に禍根を残す核使用	残り時間そっと数えているのかナ	陸前の松は悲しい煙して	奈良市 加 門 萌 子	スポーツしか明るい話題ない日本	一日中見ないテレビがついている	退屈な男と言われ凹んでる	高級食器は洗わないでと妻が言う	コラムだけ読めば時代に遅れない	奈良市 辻内 げんえい	病みつづけ日にち曜日も忘れてい	長病みも自然の摂理か甘んじる	五十年川柳作り嬉しかり	若いのに重い十字架背おている	神さまは公平でない事を知り	奈良市 天 正 千 梢	月朧手話が奏でるラブソング	単身赴任パパ水を得た魚	防災グッズ集めていつも家に居ず	玄界灘に防人のよぶ声がする	また今年もグランドゼロに立つ老婆	奈良市 米 田 恭 昌	
目の前の疑似餌わたしの泣きどころ	こんな日も花屋に花があふれてる	囮だと思うひらひらと金魚	生き恥のついで告白しておこう	橿原市 安 土 理 恵	しんどさを支える五臓悲鳴吐く	淋しいとはっきり言えるのも強さ	やせたわね一言欲しくダイエット	秋の雲うさんくささもポンと飲み	思いきりもぐら叩きに叫び入れ	生駒市 飛 永 ふりこ	惜しいけど断捨離しますお引越し	食べ惜しみして賞味期限を切らせてる	はったりを本気にされて狼狽える	ときめきを覚える未だ枯れてない	孫八つ既に女の武器を知る	奈良市 岩 本 浩 二	フェルメールブルーの服の静謐さ	イクメンの孤軍奮闘もらい泣き	絵筆一本息子育てた松園師	熱帯魚優美は神の贈り物	曼珠沙華明日香の畦に咲き乱れ	奈良市 阿 部 紀 子	

誰だって悔いはあるけど国の悔い

満月の磁力におびき寄せられる

閉店をしてから愛想よい店主ご機嫌で肩半分を濡れてくるご機嫌で肩半分を濡れてくる変込めて贈って転居先不明	日めくりが明日に居た父と母	和歌山市 牛 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	大和郡山市 坊 かんなから踏まれる尻尾のない影は 私に紅 男には喉仏 男には喉仏	橿原市 居
	本	尾	農	谷
	英	緑	柳	真理子
	子	良	弘	子
試着室小さな夢も消えて秋 でかような笑顔で針を刺してくる でがいつおりるのか介護の手 がいつおりるのか介護の手 でする。	市い鳥曲がりくねった場所に棲む 個相へ調和のとれた丸い鼻 福相へ調和のとれた丸い鼻 のんびりといこう明日も日が昇る	古稀には古稀の燃えるものありルージュ引く 古稀には古稀の燃えるものありルージュ引く 古稀には古稀の燃えるものありルージュ引く	田 でイディア料理にヒットも三振も 手鏡がシワだシミだと小煩い 手の更地に群れる赤トンボ	和歌山市 古久保
				/
	原	本	中	保

ね

子

碧

さんま焼くけむり東北思い馳せそろそろと散りたいのです水中花年中力切れて崩れていく和音様での絵引っ提げ八十路まだ途中	<ul><li>助け解出さぬ娘の冷たい目</li><li>急ぐなと言われ娘の後を行く</li><li>熱中症心に刻む外出日</li><li>熱中症心に刻む外出日</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している。</li><li>対している</li></ul>	程草も枯れる猛暑に立ちくらむ 対きに来た母の懐寒すぎる に持ってくる では鎌倉妻の度胸に惚れなおす に持ってくる では、なおす では、なおす。 では、ないで、おいで、おいで、おいで、また母の、で、また母の、で、また母の、で、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、な	でいる情れ不可にも慣れて立泳ぎ での辺でひと言意見いいですか はを打って貰ってから元気 でひと言意見いいですか にの辺でひと言意見いいですか	和歌山市
	坂	松	玉	喜
	部	尾	置	田
	紀 久 子	和	当	准
	字	香	代	_
生者と死者のまつりか花火盆おど甘い話に耳は誘惑されやすいず昏のハートに波を立てないで東昏のハートに波を立てないではい話に乗るチャンス待ってる花の種	高飛びをするならどんと宇 ・ の年に輝く人となればよい ・ の年に輝く人となればよい ・ でするならどんと宇 ・ でするならどんと宇	朝の香と夕陽ストレス置いて何と遊ぶ時間私を解き放つ何と遊ぶ時間私を解き放つのんびりとさせぬ歳時記また	雑音を消してラストの鈴を煩悩を払拭させた手術台煩悩を払拭させた手術台地についた足が明日を見据	
生者と死者のまつりか花火盆おどり甘い話に耳は誘惑されやすい黄昏のハートに波を立てないで黄昏のハートに波を立てないで	ロがある 自事で 倉	大 くる 用辺市 岡	和 歌 山市 上	和歌山市 堀
のか花火盆おどりがた火盆おどりが花火盆おんで	т	天 天 巡り 日辺市	和 歌 山市 上 田	巾掘
りか花火盆おどり似を立てないで、はに決められる。	倉	大 くる 用辺市 岡	和 歌 山市 上	ф

<u></u> 郎

道

子

ひかり

菜

美

風止んで本当の自分取り戻す落ちこぼれの中で大きな夢を描いている落ちこぼれの中で大きな夢を描いている	三十五度そうかと猛暑にも慣れる 中村 金 祥 三十五度そうかと猛暑にも慣れる はないたくさ お 関子供会へと溜めておく	島取市 有 川 無 で せつ	鳥取市 福 西 茶 子
過疎に居て建設の音いい響きリモコンのような妻ではつまらない深呼吸胸に治める腹の虫不凡を口に出すまい壊れそう	夏まつり血が騒がない加齢症 島取市 吉 田 弘 子 とじょう良し真のリーダー待つ日本 散骨だ墓仏壇の金がない り し い か に い に 死んでも見せぬ弱いとこ	をつ添えとつ添えとつ添えとの添えとの添えられ 中宇地 秀 鳥取市 中宇地 秀	鳥取市 加 藤 茶 人

昼の月飛行機で見る切絵似る 悲しみが絆をつなぎ励まさる 闇の底果てなく続く夢灯 おのぼりさん駅乗りかえでくたぶれた 台風をテレビで見たと見舞くる 手術受く不孝のはじめ喜寿すぎた 竜神に近づいている予報官 原発は必要なのか天に聞く 夏まつりガラスの靴で娘ら踊る ふる里の米が食えぬかうらめしや 摘み草をごま味噌合えにして夕餉 車前草煎じて咳を軽くする 蕺草のお茶で大病まだ知らず 真夏日の草に私は笑われる 僕の都合で草の命をむしり取る 面倒なことには逃げの一手あ 大丈夫信じた言葉陽がのぼる 子供らに残す言葉が見つからぬ 気がついてみれば亡父にもあった癖 デジタルは好きになれない戦中派 鳥取市 鳥 和市 取市 市 池 鈴 西  $\mathbb{H}$ 木 原 III 村 天 和 邦 馬 弘 子 昭 ありのまま喋ると言葉角が立つ 横にいる人が一番わからない いい時はどう転んでもうまくい 井戸端のこぼれ話にはじけてる ランク付けされ 狸穴昼間寝込んでいるはずだ 穴場なら地元の人が知ってい ときどきは脳に穴あり物忘れ 似せた穴体もそれに合ってくる 潮まねき穴は地水に届いてる 距離を置く人には本音明かせない 流す汗見えぬ所でそっと拭く 節電でやっと解った使い過ぎ 慰めに黙ってつなぐ手が熱い 形見の壺芒を活けて友偲ぶ 失言と年数立って気が付い 純情がそっと顔出す同窓会 弁舌はさわやか誠意宙に浮く 緑陰のつもり悩みをそっと聞く 大好きな私の着物孫が着る ては困る母の愛 た 鳥取市 鳥取市 鳥取市 取市 前 池 深 構 澤 澤 田  $\mathbb{H}$ 大 春

名

鯰

詮索をされてご用はなんですか 新ジャガを丸ごと茹でて友を呼ぶ 体験で覚えたことにミスはせぬ 握手して何十年を呼び戻す 被災地へご免ねテレビ綺麗です すったもんだ子ども手当にゃダマされる よく替わる総理で日本格下げに 忘れちゃならぬ避難所暮らしまだ多い 帳消しにする仏力の有り難さ 亡姑の歳越えてうなずく痛み知る ブレーキが効かぬ五感の勇み足 やっと替った総理へ期待チョットだけ 川柳の裾野にやっと辿りつく 台風へ必死で挑む百日紅 妥協する嫁も娘も大事な子 失望は叶わないこと望むから 叶わない夢でもみんと生きられぬ 考えるだけで叶わぬことばかり 朝刊も待つと来るのが遅くなる 節電と言う名を借りてする早寝 倉吉市 倉吉市 倉吉市 、取市 Ш 猪 Ш 竹 本 Ш 中 玲 康 清 由美子 子 子 信 喋るより涙が先にでて困る 念入れて言葉の角をとる敬語 恩ひとつ返せぬままに遠く住み 暦では秋 平和だなトンボと遊ぶ案山子くん 楢山のひとつ手前でまたもがく 百年の井戸水父の声がする 台風通過一期一会の花に逢う お気持で経営します無人市 私がかたくなにした足の胼 皺の数面と向かって言う鏡 かなづちの遺伝子血の中泳いでる まず血止めそれから打つ手考える 風呂敷を空しく畳むあてはずれ 触れない妻に代って海鼠切る 忍ぶ恋ヘッドライトが照らし出す 晩酌を写真の父が睨んでる 流行の波に乗らずに蚊帳の外 一丁の鍬で自分史書いていく 体感はまだ夏日 胝 鳥取県 鳥取県 米子市 米子市 石 佐 吉 成 谷 伯  $\mathbb{H}$ 田 陽 P 公 え 子

人間らしく訂正をしたいい笑顔

吸うだけは吸ったたばこだ さようなら灯時死んでもいいと薬一かかえが時死んでもいいと薬一かかえがいと薬ーがかえが明明実際を表している。	島取県 深 田 倶路の高価な方へ足止まる 明く雨物干台がゴールです のく雨物干台がゴールです	鳥取県 松 川 行病む人の中で気弱になってくる検査待ち居眠りで待つ肝がある検査待ち居眠りで待つ肝がある	東郷池溢れた水が海へ出ぬ 鳥取県 田 中 一政治家の妄言民に降りかかる 県郷池溢れた水が海へ出ぬ 東郷池溢れた水が海へ出ぬ	鳥取県竹信照
	久	男	眸	彦
重いけどドアを開けると光年期場の匂い今日の匂いのバスタオル陽の匂い今日の匂いのバスタオル	を は は は は は は は に 刺激を もらい 元気です で は は は に 刺激を もらい 元気です ま の で は の が ある 長 持 ち の あい に も に が ある に も に も に に も に に も に に に も に に に に に に に に に に に に に	馬取県 西東市では調子はずれの唄がよいでは調子はずれの唄がよいでは調子はずれの唄がよいではまったができまっとうに生きて喜劇のなかにいるとじょう今大河目指して泳ぎだす	原いた金のスプーンで飲むコーヒー 頂いた金のスプーンで飲むコーヒー 真取県 山なつかしの歌謡番組年重ね なつかしの歌謡番組年重ね まつかしの歌話番組年重ね しまり しょうしょう しょうしょう しょうしょう はいた 金のスプーンで飲むコーヒー はいた金のスプーンで飲むコーヒー	鳥取県 岩
	尾	谷	本	崎
				20.00
	<u> </u>	悦	正	和

子

光

出雲市 小白金 房 子

棚田にも秋の喜び鎌を研ぐ

道端の地蔵香焚く秋彼岸

思考力失せないように鶴を折る

百歳の姿を写す祝い膳

此の夏を祭り花火で締めくくる(斐伊川祭り)

出雲市 多久和 敬

子

旅先で出雲弁聞きホッとする

影法師小さくなって寂しそう

ゆっくりと私の影が従いてくる

手土産に孫の喜ぶ顔を見る ぐつぐつと家伝の味を煮込んでる

富  $\mathbb{H}$ 

出

雲市

蘭

水

子

岸 桂

雲市

忘れずにルールの通りゴミを出す 目の高さ揃えて生きる生き上手

赤い服似合う老女になりたいな 水を飲む時間キッチリ取っておく

お隣のピアノ心地のいいひびき

ハダシのゲン尚原爆を語り継ぐ 原爆忌井伏鱒二を読み返す

溜息を入れた袋が破裂した

平均寿命まで七年を如何にせん これからは子の振る旗に従いてゆく

母さんのなんばん漬けはお手のもの 阿国像建設止めになりそうだ

島根県

做持

田

長刀をつけた遺影の肩の星

分家して改め手植大銀杏

きもったますわった人望頼もしい

改める人も草木も明日がある 愛と憎迷う女の乱れ髪

迷い道今凛と聞く忘父の声 孫帰る慌てバイバイさみ

傘寿すぎ哲学が持つ読みごたえ 凡夫には大事な今を無駄にする 生涯を荷なった肩を癒してる

赤い糸今はボロボロ弱くなり 人智では台風一つ防がれぬ

しいね

一歩ずつジグザグしながら前進す

生きるのが精一杯のこの羽

Ш 本 玉 恵

美作市

それからを語れば数珠がすすり泣く 俯いて爪かむ女の過去未来 遠巻きの原発の事故心が痛む 握り合う両手に通い合う誠

> 伊 藤 寿

> > 美

-20

美作市

福

原

悦

美作市 大石 あすなろ

余るほどないが暮らしはそこそこに

冷凍保存するべきだった若い日々 不器用な老父は愉快な釘を打つ

振ることの下手な尻尾は巻いたまま

晩学へ修正液とうちとける

竹原市 岩 本 笑

子

出合いとや人はいつかは一人なり

何急かす虫の音命繋ぐ闇

彼岸花一列園児一列の声よ 生かされて朝の薬を飲んでいる

元気になりたいゴーヤしっかり食べている

子

原 淑

竹原市

災害に負けぬ魂孫育て

竹の街卒業証書も竹の紙 あの日から十年止まぬ自爆テロ

観光地見せたいところだけを観た

放射線量添えて真心梨届く

中市 馬 場 利

子

府

ちぎり絵に舟を浮かべる母の海

庭に咲く赤バラ二輪添い遂げる 紙すきの上手な祖母が蘇る

畑の余白を秋野菜が埋めてゆく 喪が明けてわたしに戻る深呼吸

三世代個々のリズムの時計持つ

ノロノロの台風傷を倍にする こだわりは持たず味噌汁性に合う

少しずつ迷惑かけて生きのびる

リフレッシュー夜のうちに出来た頃

宇部市

平

田

実

直ぐかっとなった昔を懐かしむ

皺かくすネッカチーフが離せない

妻の目を盗むことない老いの日々

腹八分では鳴き止まぬ腹の虫 机上論想定外は考えず

神のせいにすればどちらも気が済むか 美祢市 安平次

貼替えた穴から過去がよみがえり 断腸の思い男が試される

仕草まですてきな夢を有難う

くるくると自分探しの舟を出し

東かがわ市

伊

聞き耳がくせになりそう同居して 遠慮ない仲にも欲しい車間距離

彼岸花途切れた先に父母の墓 忍の字を抱いて女は城守る

言葉では足りず真心添えておく

府中 市 藤 岡 ヒデコ

-21

弘

道

真実を六十六年目に知らされる	一日に米二合炊き恙し	休もうと思えど意地が許さない	脚の斑蚊と間違えてまた叩き	お教えのすぐこの先が見当らず	熊本県 岩	鉦を打つたびに亡父が叱言いう	おぼろなる月に悪人美しい	君想う一途に燃える登り窯	満ち欠ける月に生死を見つめてる	石地蔵澄んだ青空過疎が合う	唐津市 井	余所の児に通用しない睨み顔	腹の中見せてやりたい恋でした	回り道何だか得をした気分	いい思いした雪国の熱い酒	左遷地がなにせ名代の酒処	唐津市 坂	芯の無いエンピツなんよまだ十五	悪ぶったポーズしたがる反抗期	相談があると電話の声ひそめ	山門を護る仁王の目が柔和	淋しくて反魂香を焚いて見る	唐津市 山
					切						上.						本						П
					康						勝						蜂						高
					子						視						朗						明
大根もゴボウも気取るコンテスト	美女見ると尻尾みたいな紐の影	袖引きに案内されて行く奈落	裏口に欲しいショーツが翻る	犬猫の鬘はついぞ見かけない	黒石市 相 馬 一	怪我しないうちに見切りをつけておく	お供えの梨を剥いてるお婆さん	どこをどう歩いて来たか風の街	よたよたと歩く老人そのひとり	床下浸水爺と婆との現在地	砂川市 大 橋 政	冗句冗句好きな友とは軽く出る	地に地震天に台風おわす国	思い切り剪定をして陽の光	自縄自縛渡る世間を狭くする	生々流転辞令一つの小旅行	札幌市 小 沢	誤解だったと詫びたグラスで親友となる	それぞれの自分に戻す陽が暮れる	握る手を振りきる児等の好奇心	根気よく年齢に逆らう三面鏡	節電の窓閉めまわる俄雨	熊本県 髙 野 宵
					花						良良						淳						草草
											-												

母の声朝 戦中の疎開いままた蘇る たんぽぽの笑顔はピエロ強さ 陽が沈む影を大きくする猫背 OB会訃報ニュースで幕が明け 近道を選んで遠い道になり 近所から新聞よりも大ニュー 深呼吸今日の酸素を補給する 吾亦紅秋は静かに忍び寄る 扇風機が横座を占めるエコライフ ひまわりの名誉セシウム吸うてくれ 障子張り亡父の手練を偲びつつ 身の丈の倖せでした現住所 包丁を磨く砥石はこころ汲む マニフェスト誠の汗の実を執れ 向日葵と夕陽赤々競い合う 偏差値の底上げで泣く遊園 熱燗が喉を嫌っている残暑 二年で三人総理の短命如何せん 人生の苦にならぬ汗泥臭さ 番のネジを巻く 地 ス 弘前市 弘前市 弘前市 平川 市 須 今 岡 小 郷 本 寺 井 愁 花 花 峯 蛙 女 斤 きっともう人は住めない原発禍 うわべだけわかってるふりなら出来る 駅前でゴミ捨てる人拾う人 この街を出たことがないカタツムリ 秋風に心 母妻子伝わる指環誰の手に 老姉妹寄ればそっくり腕の皺 朗読を聞きつつ料理も捗る 模様替えをして増えている探し物 建前と本音を分ける世間体 登山口辺り一 累累と盛り上ってる負の思い 想い出を重ねかさねて雲に乗る 幽霊の足を捜してから迷う 夕焼けが海の鱗を紡ぎだす 綾取りの川から前へ進めない 葉の裏で空蝉爪を立てている 爽やかな日だ風鈴が鳴ってい 矢印へ素直になれぬ老いの坂 震災の記憶薄らぐ街の彩 晒して老いてゆく 面排気ガス さいたま市 る 弘前市 東京都 青森県 岸 星 松 福 野 野 Ш ± あやめ 育 芳 慕 情 生

	渡市	川崎市 三 大会の門くぐらねば来ない旅 東結の冬を取り出すカキ氷 大会の門くぐらねば来ない旅 大会の門くぐらねば来ない旅 大会の門くぐらねば来ない旅 大会の門くぐらねば来ない旅	でンネリの流れを変える処世術パソコンも知らず時代に流される がソコンも知らず時代に流される 二段階飛んだ男の怒り肩
	野	浦	野
F 3	不	き	句 多 留
	_	ぬ	留
駅裏に勝てぬ駅前のラーメント間が自然に勝てる訳がない人間が自然に勝てる訳がない	を加集に一度も礼を言ってない をが触れて五感にピッとくる をが触れて五感にピッとくる ではのもの言いたげな兵馬俑	放射能十五夜だとて遠慮せず 放射能十五夜だとて遠慮せず	百歳へ元気に生きるスクワット で関連の悲惨伝えるカメラアイ を受地の悲惨伝えるカメラアイ でいる夫婦 でいる夫婦
	遡	獏	ま み 子
		374	-

横浜市

菊

地

政

勝

富山市

島

ひかる

犬山市 関 本 か つ子

仰向けの蝉ちりとりでご臨終 お手本のような笑顔で友は逝き

帰りにも忘れてポスト通り過ぎ

生きている証のようなクラス会

情報は半分以下で聞く近所 犬山市 吉

田

幸

子

かかりつけ名医と聞くとホッとする

恥ることないさ私のありったけ

旅予定キャンセルせまる膝小僧

懐しいドラマに見入る過去の人 跳躍も正座も愛し夢の跡

個性派が揃い愉快な趣味の会

犬山市

金

子

美千代

ご近所の絆選んだブーメラン

思い出の中に生きてるペアカップ

狙われている大甘の日本丸 偶然に手にした本に導かれ

欲ばらずゆっくり生きる七十路

京都市

四

村

益

子

スニーカーもへこたれているこの猛暑 ここに来て頼み事する墓参り

蛍光灯一本替えて別世界 秋来れば夏が恋しいアマノジャク

生ぬるい風が私を無気力に

京都市

藤

井

文

代

顔馴染みなったばかりに値切る主婦 平凡も力みすぎたら蛇行する

ゆっくりと歩めば解るタイミング

ゆったりを今日もいただくマイペース

ミス多い人生ロマン確と抱く 京都市

坪

井

酎ハイはいつも昔を連れて来る 平凡でぼちぼちそれで陽は昇る

さりげなく余白に愛を匂わせる マンションの隣り知らない六年目

三十品毎日食べて長寿です 挑むより守りに入る古希の 坂

長い道許し許され朝のお茶 歯が二本生えて乾杯パパとママ バーゲンに朝から並ぶ蟻の列

家庭菜園自給自足のはずだつた 京都市

もみじの手が手伝いたいと邪魔をする サプリのためお腹半分空けてお

男かないえ足の大きな女の子 衣食を我慢ランク上目の車買う

> 桝 本 宏 子

子 - 26

京都市

Ξ

宅

満

#### 井 E 森 生 大阪市

津

村

日本中今なでしこの花ざかり

岡市

生き方に自分を上手く使うコ 原発は迷わず地震の無い国で いつまでも和んで支え合う仲間 "

悟ろうよ戦火も震災もある地球 大臣も原発無知の平和ボケ

長岡京市 Ш

 $\mathbb{H}$ 

葉

子

引き算は苦手断捨離すすまない 捨てられぬものに囲まれ置く生身 階段を上るスタミナ残しとく

身を置いたとこの出会いにのってゆく

トップとは一周遅れでよしとする

イエスマンふえて会社のパワー落ち すぐ怒る固い頭をでんと乗せ 大阪市 崎

公

誠

デパートは店を拡げて潰しあい くたくたに疲れていると靴の音

呟きが聞えるように繰り返す 大阪市

澤

田

定

子

す

親の欲目きっと天才学童期 満たされた積りの欲が首を出 幼子の無欲の顔に癒される 孫成長次第に話題離れゆく

工夫して作った料理箸が出ぬ

天災に物悲しげな蒼い月 人情が干涸び風が吹き抜ける

老年の詩はしんどい どっこいしょ

和解した息子とつまむ時価のトロ お疲れ様待ってくれてる九官鳥 天高く新たに挑むダイエット

許すとは言えぬ母からベビー

昭和の常識通用しなくなる時代 介護八年私は齢をとってない

気がつけば矢も折れ骨も折れていた 人生の半分夫と川柳と

あと少し趣味に命を燃やさんか 缶ビール一本今日の涙吸う

暇なのにお風呂も歯磨きも早 U

大阪市

谷

口

義

鰯雲夫婦にも守秘義務があり

税込みの後期高齢者になった 暗算は正しかったかレジの前 くじ運の悪いぐらいは良しとする

窓開けて陰と陽とを入れ替える

大阪市

寺 井 弘

子

大阪市 神夏磯

典 子

27

日程表書いて三割打者めざす これからの歳は束ねて神棚に 大阪市 III 端 歩 上げ足を取られぬように子を叱る 大阪市 小 谷 集

好奇心旺盛スイッチオンのまま ゆっくりとやれば何でもまだ出来る

幸せにどっぷり漬かり不感症

野 省エネの暮らしに生きている昭和

絶景だけど海沿いなので越しました 波風を立てて我慢もする男 桃青忌おくのほそ道書き祈る 死んだなら末期の水は酒でよい スランプも今日のお菜にして飲もう

大阪市

鶴

 $\mathbb{H}$ 

遠

母子手帖持って実家に許し乞う

鬼の誘い拒む心を磨いとく 永田町舌禍で萎む男たち

大阪市 小 泉 ひさ乃

誤解とけたのかお世辞を言いはじめ すばらしい笑顔に会えて元気湧く ふたりの子なぜかペーパードライバー

だとしてもやっぱり夫の私用物 迂闊にも心許して終身刑

大阪市 榎 本 日 の出

感謝状あげたい人が目の前

足して二で割るのもきっと生きる知恵 七光りなくてがめつい子に育ち

苦労したらしく顔から欲が消え どの風の色にも溶けて老いてゆく

> 吹けばすぐ童謡になるハーモニカ 日本の音がしている祭笛

大阪市

升

成

好

軽量の比較にいつも一円貨

黙っとこ喋ると軽く見られそう 自尊心失くすときっと背は曲がる

悲しみの向こうは青い青い空 裏切りのようにクーラーそっとつけ 孔孟の教えの国の無法ぶり

悲しみがはじけたような村祭り ゴルフ場ここは緑の風が吹く

大阪市

伏

見

雅

明

人前は私を立ててくれる妻

順調に育ってほしい母子手帳 かあちゃんは敵に回すと怖い 門限を破った頃に彼氏でき 人

母親が見上げて叱る子に育ち

大阪市

板

東

倫

大阪市 平 嶋

連休も敬老の日も気がつかず

あきあかねラジオ体操ぬって翔び 敬老の日暮しいつもと変わらない

この残暑エコ対策にまたもどり エコ対策うまくいったと電気代

大阪市

井

丸

昌

紀

あの時にノーと答えたばっかりに

チャンスかな実はピンチを招いてた ルール無視している奴が威張ってる

人間に化けたタヌキが悔やんでる

アスファルト土の恵みを閉じ込める

九・一一テロ十年経って闇 の中

大阪市

近

藤

正

人間の知恵を測定放射能

転けた子を助けて二人ゴー 日本中地震台風包囲網

十年のあゆみの証し彬の碑 ルイン

华 嶋 惠

美

大阪市

興味津津自慢の話聞いたげる

お知らせは電話手紙と気を配る 集金に愛想無い人よう続く

川柳塔私のいのち抱き給う 満点の受勲の夫婦居たはった

なまけもの君の動作に憧れる

大阪市

江島谷

勝

弘

追うことが無くなったケイタイがある

雅とは吉永小百合だと思う

福耳と言われつくづく鏡見る

早耳が自分の左遷気付かない

台風が予測外れてほしい旅

円相場予測外れに泣く企業 耳寄りな話人には話すまい

迎え雨いつもの妻が若く見え 大阪市

買いものの迷い楽しむマイワイフ どうせ手ぶら欲まで連れて行けません

北国街道実家の前を生きている 大仏さま道は無限と励まれ

夏風邪に落ち着き読書出来る日々

大阪市

松

尾

柳右子

集金の頭下げ下げ稼いでる 夫のする下手の長糸絡んでる ポリさんも信号待ちのこの暑さ テレビ欄見て一日の計立てる

畳派も今はベッドの世話になる 青春はなんでも燃えて粋がった

池 上 清

治

實

田

浦

聞くだけの会話夫婦モカが好き 悔いの無い日々に欠かせぬ万歩計 早起きの旨き空気で日を計る 饒舌になると女房が目で制 趣味大事私夫婦の知恵比べ パッチワーク指が元気で時忘れ 堺 大阪市 市 吉 村 内 上 玄 タカ子 也 空に雲がなくて退屈しています 短めのお悔やみだけど通じてる なでしこに茶の間でエール送ってる 長雨に友の電話も長くなり 本気にはされぬ弱音を吐いてい 子の家でお客扱いされている 堺 堺 る 市 市 志 齋 藤 田 千

加 家族葬すんで回覧まわされる 私をとばし噂がとび回る 百円で売るカラクリはきっとある 古里の田を捨て花の土を買う

災害の最中にいくつもの美談

矛盾だと喋ってるうち気付きだし

老醜は晒したくない喜寿の意地 何もせぬうちに一日またも過ぎ

堺

市

島

由

煩悩が多くて呆ける暇がない 素顔では太刀打ちできぬ妻である 蝉が逝き蜻蛉が風を連れてくる

老いふたり米一合を持て余す

初優勝それ以後のめり込むテニス

市

源

田

八千代

戸締りが勿体ないよな満月 残暑にも集く虫の音小さい秋

異常気象続く残暑とゲリラ雨 十三回忌叔父叔母母と巡り来る 三月・九月

11日は忘られぬ

三陸の鳶はあの日を忘れてる

癌告知医師は努めて軽く言う

塗りものの椀で料理の値が上がり 抜けぬよう祈る姿勢で髪洗う

いざとなるとできないクーリングオフ

朝顔と金魚に話しかけ平和 昔から使わぬ電気消していた 年金で医者に行かずに生きている けったいな大臣出ては消え出ては 散髪に行って帰ってうがいする

堺

市

奥

時

雄

代

市

遠

山

唯

教

堺 市 大久保 のん子

志つなぐ一歩が明日にある 人間 の驕りを神は見逃さぬ

他人には決して見えぬ虹を抱く いつの日か凪ぐ日もあろう風 の坂

身の底にしっかと生きているあなた

市

荻

野

像

Ш

息してるうちはお世話をい たします

治っても患者は何も言って来ぬ わしだけは不滅の奇跡起こらんか

山鉾巡行無事に曲がって沸く歓喜 補聴器を外して自分取り戻す

市 大

隅 克 博

朝の珈琲リズムが狂う休刊日 子の靴は明日へちゃんと向けて置

<

オクターブ上げてお客を迎え入れ 俺は俺妻は妻だと割り切れ ぬ 考えて考えぬいて定食に 夏物は夏の終りに買いにい

タレントか政治家なのか解らない

燃えるもの些かあって邪魔になる 地獄に浸ってみたい曼珠沙華

ネット社会の死角ではねるキリギリス

帰省して息吹き返す土踏まず

たっぷりと汗を含んだ抗議文

花

堺

市

柿

和 夫

は身ぶりで通す英会話

派手な過去誰も知らない車椅子 許し合う事も出てきた恋二章 泳がない水着が誇る胸の線

結局

DMでポストも喘ぐ金曜日

外れ券買うた話は妻にせず 養生訓顔色悪い医者に受け

順調に呆け出してると笑い合う

帰省する孫も居なくて盆静 か

和泉市

横

Ш

捷

也

横文字の街で娘に歩を合わす カラフルな服でデパ地下 ボランティアに活路見つけて老い達者 試食する

丸洗いすればいさかい無い地球

ベランダで花に俗臭脱ぎ捨 てる 泉佐野市

Ш

本

蛙

城

遺したら恥ずかしい物捨て始め

脳活のシーソーゲーム日日続く 言い過ぎて帰る地下街生臭い

転んではならぬとスクワット日に三度

茨木市 藤 井

IF.

逆さ富士鏡のように凪いだ朝炎天下青空めざし百日紅炎天下青空めざし百日紅水が、大下青空めざし百日紅	があさんの教えに無駄も無理もない 対治家の放言癖や秋暑し があさんの教えに無駄も無理もない	断捨離は駄目だと嘆く勿体ない 老い二人日にち間違え笑い合う なでしこに期待膨らむテレビ見る 古日記燃やして過去を消している 河内長野市・ 河内長野市・	を野市 大阪狭山市 が 「協み事さらりと流し鰯雲 を刻む音にも秋の気配して がしなしタイミング良く出る料理 がの話が妙に絡みつく のえばの話が妙に絡みつく
	黒	Щ	森 矢
	岩	岡	本野
	靖	富 美 子	弘
	博	子	風 梓
とぼけてる方が楽です第三者別な顔カラオケで主婦盛り上薬局がくすりの出前してくれ薬顔から色気が抜いていく八	受燦燦 病魔 大時間祈り結	台風も宇宙 をれないよ でえなら来 で気なら来	退院を喜び 外国に笑わ が り と と と と と と と と と と と と と と と と と と
とぼけてる方が楽です第三者コーヒーが美味い夜明けの磯の上別な顔カラオケで主婦盛り上がり別な顔から色気が抜いていく八十路薬顔から色気が抜いていく八十路	愛燦燦 病魔の妻にふりそそぐ丸坊主ガンと闘う妻いとしれ坊主ガンと闘う妻いとし手術終え握る手のひら力有り	執刀医神よ仏よ後光さす 執刀医神よ仏よ後光さす	河内長野市 退院を喜び猫が啼きわめく 外国に笑われぬよう総理殿 外国に笑われぬよう総理殿 が国に笑われぬよう総理殿 が国に笑われぬよう総理殿
楽です第三者 い 夜明けの磯の上がり で主婦盛り上がり		がら移動出来ないか 言って日が過ぎて来た 言って日が過ぎて来た ないから生きている 河内長野市 山 河内長野市 山	
を 、 、 、 、 で 主 が の と が り と が り と が り と が り と り と り と り と り	河内長野市	市	河内長野市
<ul><li>楽です第三者</li><li>出前してくれる</li><li>出前してくれる</li></ul>	河内長野市井	市山	河内長野市 植

失敗をバネに人生模様替えこだわりを捨てたら視野が広くなりこだわりを捨てたら視野が広くなり日の温み背中にためて草を引く日の温み背中にためて草を引く	テ唱婦随矛盾感じる倦怠期 大唱婦随矛盾感じる倦怠期 大唱婦随矛盾感じる倦怠期	学日もまた妻の手裏剣避け損ね がくびくとせずに胸張れ野良の犬 びくびくとせずに胸張れ野良の犬 がらなくとせずに胸張れ野良の犬	河内長野市 1
		<b></b>	坂上
		v	
		2	淳一
	子	子	司
ア唇渇寿冷	節夏安夏コ	ツーナ 百 ム	
アングルの隅に行く末見てしまう唇が乾いて嘘をかくせない渇いたら酒や一番いい答寿限無寿限無こだわったのも親心冷えきった心の窓にノック来た	節電にお疲れさんの扇風機 四條畷市 吉 岡夏休みドリルの答違う親安らぎを覚える虫の協奏曲安らぎを覚える虫の協奏曲コンビニの花火半額夏終る	<ul><li>満流を見ているだけで恐くなり</li><li>夏ぶとんすっぽりかぶる涼し朝夏ぶとんすっぽりかぶる涼し朝</li></ul>	岸和田市 堤
ングルの隅に行く末見てしまうが乾いて嘘をかくせないにら酒や一番いい答に無寿限無こだわったのも親心	四條畷市 吉	岸和田市 森 かかとう	
岸和田市 雪 本 珠 子			帯 原 さよ子

呼び捨てで敬語もいらぬ同期会 敬老の日生きているかと案内くる 独り言増えて歳だと冷やかされ 妻より先に逝くと決めてる遺言書 吹田 市 太 田 昭 父さんはノンアルコールに躾られ 女房が江姫でなく幸せだ 台風も何で日本が好きなんだ 吹田市 野 F 之

男

なでしこ」にパンチ貰うた男達

鳴き終えて蝉は静かに天を見る

高石市

浅

野

房

子

幸せのデッサン墨で塗りつぶ 何となく結ばれ何となく別れ ジェラシーも激しすぎると興醒めだ す

足裏のしびれ揉んでもさすっても

改めて運があったと今傘寿

戦中の苦労話の種尽きず

枚のハガキの映画老い二人

イエスマン従順と言う口を持ち

吹田市

瀬

戸

まさよ

梨届くただそれだけのお付き合い

ときどきは言い寄られますどうしましょう

吹田市

須

磨

活

恵

携帯は持たず電話も鳴らぬ日日 つらい日もらくな日もあり海の青 高槻市 指

ストレスが溜まると喧嘩したくなる つらさにもなでしこジャパン煌めいて

秋の月すすきに一句絡ませる 鬼灯を鳴らすと郷愁がいっぱい 断ち切れぬ未練抱えて蹲る

神無月霜月そして冬支度 春夏秋冬月はいつでも美しい

吹田市

大

谷

篤

子

他人さまの後ろに回り背くらべ 今日の予定好きなことから始めます

脱皮して本物見抜く目が育ち 高槻市

佐

甲

昭

ライブからの帰り余韻が止まらない ガブ呑みのラムネ遠くで聞いた音 言葉ひとつ飲み込み空気和らげる

汚れた仮面ゆっくり洗う里帰り

売り言葉すぐに買うのはやめました この猛暑無事に過ぎたい仏様 デパートヘリハビリに行く避暑地です

片足立ち生きる筋力つけてます 好奇心持っているのでまだ若い

宿

倖せの星を求めて遠回り片言のイングリッシュで握手するけ言のイングリッシュで握手する対念の炎がやる気呼びさます。	気は若い韓流スターに嵌まる妻まだ夏を主張しているカンナの朱顔の手入れに較べて家事は省力化顔の手入れに較べて家事は省力化	自然治癒神の恵みを信じてる 自然治癒神の恵みを信じてる 自然治癒神の恵みを信じてる 高槻市	要の母通らぬように門しめる をとひとつ言えばどちらも傷がつく をとひとつ言えばどちらも傷がつく をではいまだ捨てられず墨を摺る ではないで疎遠の辛さ思い知る をでした。	高槻市
	左右田	片	乙	井
	田	山	倉	上
	泰	かずお	武	照
	雄	お	史	子
音 お 体 じ 莫 痴 返 型 っ 山	こ手堂パ地産	聞 元 サ 猛 欲	無妥修も飽	
音痴にもお次の番とマイク来るお返事はいいがお腰が上らない体型も親にそっくりガンコまでじっくりと差しで話そう妥協点	き中市 松 村に近も手当の当てが外れた塾費用 学位った宿題孫に褒められる がソコンも予測しかねるポックリ死 がソコンも予測しかねるポックリ死	<ul><li>豊中市 藤 井 間かぬのに家族のことを自慢され</li><li>近気よく爪だけはすぐ伸びてくる</li><li>元気よく爪だけはすぐ伸びてくる</li><li>は得で投資信託する誤算</li></ul>	無に還るまでの錯覚よしとする修羅あまた二人の旅にある余情修羅あまた二人の旅にある余情を組みてから	高槻市 富田
にもお次の番とマイク来るも親にそっくりがンコまでも親にそっくりがンコまでも親にそっくりがとうな協点	豊中市 収 化	中市 る藤	高槻市 安	富
にもお次の番とマイク来る事はいいがお腰が上らないも親にそっくりガンコまでも親にそっくりガンコまで	豊中市 松 村	帯藤井	高槻市 安 田	富田

豊中市 松 尾 美智代

友と行くリッチな気分二人旅 朝歩き一年二キロやせました

旅の途中富士山を見て気が和む

上高地初秋の風が歩かせる

日本に生まれ日本を満喫す

雲間から喪中葉書がやってくる

富田林市 井 Ŀ. じろう

打ち水の家の子だから嫁にやる

機内から見る街の灯にほっとする

文言葉下手は下手なりていねいに 道半ば地獄極楽知らぬまま

富田林市 片 出 智恵子

節電へ消し魔になっていたわたし

マイナスをプラスに変えるレッツゴー

異状なし医師の一語で若返り

オール電化すすめた人が来なくなり

空にも海にも信号が欲しくなり

寝屋川 森

茜

牧水の白鳥に会う旅 鎮魂の花火に希望と静謐と の空

うとうとと眠りに祖母の法蓮華経 外人さんに席ゆずられるロー あり余る自由に溺れそうになる カル線

> 金魚一 匹残り猛暑乗り越える

早すぎる縁を残し黄泉の旅(義妹逝く) 人居の朝のテーブル仏飯と

被災松護摩木の祈り大文字

迎えた犬が疑うように匂い出 す

寝屋川

市

平

かすみ

ふるさとへやっと傘寿の声が聴け 通じない電話睨んでいた長さ

夫には忘れず眼ぐすり飲みぐすり

犬猫もスターになれる国平和 内科歯科眼科もあって二十四時

満月へ月見ダンゴは外せな 11 寝屋川

さるすべり今年も君は元気だね 今年また夏椿見にゆく菓子屋

ひまわりが首を出してる一軒家 赤飯を近頃食べて無いと言う

充分な介護姉妹の仲の良さ

寝屋川

市

富

Ш

ルイ子

不自由な右手日にち薬直す お見舞は気持を込めてお二人に

言わずとも以心伝心の仲です 顔の皺生きた証の勲章だ

> 市 森 田

屋川

麗

市

籠

島

恵

子

大甍あきれたように蝉が鳴き	本当に日本沈没はじめます	ぼろぼろの歳時記にある季節感	蟹を食うすべにも馴れて利尻去る	原発のこわさを嘘でぬりかため	羽曳野市 三	大漁旗サンマの詩をつれて秋	口下手の焦り応援届かない	第九聞く秋がだんだん深くなり	手のひらに残る祈りの亡母がいる	鯛鮃仲間に入れて雑魚もいる	羽曳野市 福	富士映し僕を映して湖静か	日本を洗濯してもすぐ汚れ	火の酒を飲んで火の鳥目覚めさせ	捨て身にはまだ早すぎる道半ば	言い過ぎてもう正論が届かない	羽曳野市 吉	鈴虫の恋の音です眠れない	独り身の義姉へ定時の電話ベル	とろりんと豆腐がすべる秋の膳	まだジョークいえるこの口宝です	列島を蒲の穂綿でくるまねば	羽曳野市 徳
					好						田						村						Щ
					専						悦						久仁雄						みつこ
					平						子						雄						٤
借	144																						
しまれる人になかなかなれません	惜しい友なくし面影探してる	惜し気なくなでしこ力発揮する	終戦日ご飯一粒かみしめる	ゆらぐ天地すました顔のお月さま	東大阪市	海の見える家です坂に泣いてます	嫁の目が痛い孫との喧嘩の日	でかい声空気読めない人と住む	やわらかい空気を吸いに行く隣り	白樺湖息子と散歩した至福	阪南市	独裁者支えた基盤液状化	揺籃が揺れなくなった税不足	円高は他国が播いた種のせい	なでしこの活躍男子影うすい	金を貸し竹馬の友と縁を切る	羽曳野市	テレビ電話だったら困る風呂あがり	少子化で住みよくなった蝉しぐれ	働かぬ手にやわらかな爪が伸び	年寄りを置き去りにする新製品	来年はわからないけど花の種	羽曳野市
しまれる人になかなかなれません	しい友なくし面影探し	惜し気なくなでしこ力発揮する	終戦日ご飯一粒かみしめる	ゆらぐ天地すました顔のお月さま	東大阪市 米	海の見える家です坂に泣いてます	嫁の目が痛い孫との喧嘩の日	でかい声空気読めない人と住む	やわらかい空気を吸いに行く隣り	白樺湖息子と散歩した至福	阪南市 森	独裁者支えた基盤液状化	揺籃が揺れなくなった税不足	は他国が播	なでしこの活躍男子影うすい	金を貸し竹馬の友と縁を切る	羽曳野市、永	テレビ電話だったら困る風呂あがり	少子化で住みよくなった蝉しぐれ	働かぬ手にやわらかな爪が伸び	年寄りを置き去りにする新製品	来年はわからないけど花の種	
しまれる人になかなかなれません	しい友なくし面影探し	惜し気なくなでしこ力発揮する	終戦日ご飯一粒かみしめる	ゆらぐ天地すました顔のお月さま		海の見える家です坂に泣いてます	嫁の目が痛い孫との喧嘩の日	でかい声空気読めない人と住む	やわらかい空気を吸いに行く隣り	白樺湖息子と散歩した至福	市	独裁者支えた基盤液状化	揺籃が揺れなくなった税不足	は他国が播	なでしこの活躍男子影うすい	金を貸し竹馬の友と縁を切る		テレビ電話だったら困る風呂あがり	少子化で住みよくなった蝉しぐれ	働かぬ手にやわらかな爪が伸び	年寄りを置き去りにする新製品	来年はわからないけど花の種	羽曳野市 安芸田
しまれる人になかなかなれません	しい友なくし面影探し	惜し気なくなでしこ力発揮する	終戦日ご飯一粒かみしめる	ゆらぐ天地すました顔のお月さま	米		嫁の目が痛い孫との喧嘩の日	でかい声空気読めない人と住む	やわらかい空気を吸いに行く隣り	白樺湖息子と散歩した至福	市森		揺籃が揺れなくなった税不足	は他国が播	なでしこの活躍男子影うすい	金を貸し竹馬の友と縁を切る	永		少子化で住みよくなった蝉しぐれ	働かぬ手にやわらかな爪が伸び	年寄りを置き去りにする新製品	来年はわからないけど花の種	

可

花

昇

子

今日生きることが明日への力水 趣味一つ増して人生丸く生き 母去りてふる里ごころ軽くなり 作句する夜明けまじかの締切日 迷いなく子を叱りつけあとは酒 ネイルアートもしない荒れた手いとおし 万歩計今朝も確かな数を打つ 目前に山頂見えて頑張れる 詫びに行く男の背中度胸満ち 日日写経心の余裕追いかける 予測超えどこまで備えても不安 再建へ挑む思いのまっしぐら 寝たふりで門限破り許す父 十字路に幾度か立って生きて今 十五夜の月の兎と酒を汲む 香典を頂く方に近くなり 難敵に無我の境地で立ち向かう 侮るな雑魚なりにある底力 一杯の雑炊分けた日も在りし 徹の父が許した子連れ婚 東大阪市 東大阪市 枚方市 方市 佐々木 北 安 宮 達 村 Ш 忠 賢 満 久 央 子 作 光らない星もあるはず星月夜 咲かせたい花があるから頑張れる 単身赴任妻子を思う秋の月 円高に研ぎ澄まされる精密機 冷ややかな目と無視の目の擦れちがい 雑踏に紛れる百合の花を追う 老眼鏡探しあぐねて寝てしまう 雲を追う遊び相手の雲を追う 追いつけるぐらいの前にいてほしい 父の土産追って走った赤い靴 五百羅漢忙しそうな顔がない 台風の洗礼受けて秋催 意地を貫きだんだんしぼむ夢もある 痛み分けゆっくりお茶を飲みましょう 深呼吸して明日へと一歩踏 安らかな母の寝顔に瀬戸の海 百歳で天使の笑みで去った母 生きざまが遺した母の知恵袋 人様を疑わぬよう十字切る 大自然舞台に虫の大合唱 枚方市 枚方市 枚方市 海老池 丹後屋 小 宮 林

肇

洋

紫

鳳

虫の音を聞いて眠れる平和だなあ大病を抱き本気で生きている大病を抱き本気で生きている大明を担きないがはいが、	では、この暑さ山掛けそばで元気出るこの暑さ山掛けそばで元気出るとは、この指輪になればぬなれるとは、この暑さ山掛けそばで元気出る	藤井寺市 伊 原去り花が眩しい散歩道 不眠症今日も午睡の夢の中 不眠症今日も午睡の夢の中 がロゲンを待って今年の服を買う 原せば周りはみんな大先輩	藤井寺市 若 だいころげたあとぽっかりと穴があく こころ模様が急に変って花屋まで こころ模様が急に変って花屋まで がなで書くやさしさよ	藤井寺市 鴨
	井		松	谷
	ョ シ 枝	ヤ	雅	瑠美子
お逢いしたかった路郎師薫風師一年経てば魔女にもなる天使五十年経てば魔女にもなる天使五十年経では魔女にもなる天使五十年経では魔女にもなる天使のよりなくなって見れば寂しい蝉しぐれ	藤井寺市 域が来て家風が変るそれもよし 嫁が来て家風が変るそれもよし 娘の夢は十二単のブライダル	藤井寺市でである。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	藤井寺市では戻れないのにお嬢ちゃんではみには戻れないのにお嬢ちゃんで選げませんで選げませんのの弾みで出た本音ではないのにお嬢がある。	藤井寺市

俣 野 登志子

吉

田

-40

津

田

シルク

鈴

木

いさお

保安庁安全よりも企業より、出元より政治代えてよ維新さんがル下落米の支配も先がみえ、がル下落米の支配も先がみえ、	老化防止 恋も試験もチャレンジよ 自立して欲しい側にも居て欲しい 自立して欲しい側にも居て欲しい 自立して欲しい側にも居て欲しい	月に酔う今宵の夢はかぐや姫 第の変美きらきら天の川 節電の褒美きらきら天の川 といった はんしょく はんしゅう はんしょ はんしゅう はんしゃ はんしゅう はんしゅん はんしん はんし	年の音を聞いてこころが秋になり 生の音を聞いてこころが秋になり 生の音を聞いてこころが秋になり 生の音を聞いてこころが秋になり	藤井寺市 髙
	上	口	島	田
	桂	セ ツ 子	巴	美代子
	作	<b></b>	子	子
子のような医者に会うのもまた楽しやどかりに教え乞いたい家選びやおい薮蚊こんな老いの血吸わんでも昨日より笑う明日を信じたい	三八銃担いだ肩をいとおしむ朝の幸ひねると水がほとばしる朝の幸ひねると水がほとばしるうでとう流さんか	大阪府が書の通りにいかぬ波羅蜜多が当の章災害からは逃れたい終の章災害からは逃れたい終の章災害からは逃れたい	背をまるめ靴下を編む姉百歳 の場が言う言葉一つに筋通り ので姉は毅然と前向きに でがら表彰受けた福の神 である。	
もまた楽し 家選び もまた楽し	大阪府米	大阪府 初 山大阪府 初 山大阪府 初 山	の神 八尾市 髙 杉	八尾市 宮 﨑
もまた楽し	大 阪 府	<b>Y</b>	だ散歩	

桑 田 ゆきの

真夜中の洪水闇の恐怖心 献金の疑惑抱えた新総理

被災地へ元気を繋ぐ深絆 つくづくとゴーヤカーテン褒めてやり

枯蟷螂やっぱり天を睨んでる

車より自転車よりも歩で鍛え 大阪府

野

 $\mathbb{H}$ 栄 呼

神様に貰った孫の両笑窪

笑顔よい人には笑顔の人が寄る

浮き沈みあっても岸はもう近い 金一封あげたい祖母の太い指

少年が駆けると青い風が吹く

古傷がうずき昔日よみがえる 神戸市

九百兆 答なきクイズ解きつつ生きている 無理はあきらか再建案

萩すすきビルの林でしのぶの 若い日の旅目にうかぶ日本地図 4

のん気者へ提出期限容赦なく 長い目で見ようこの子の力量を 暖衣飽食聞かなくなった労働歌

神戸市

Ш

П

美

穂

信念が揺らぐことなし怒り肩 衰えを知らずりんごの丸齧り 閉塞へ笑いが薬ギアチェンジ 口下手の息子の心根に癒される 義歯忘れ食もそぞろに秋深し

ノーサイド小沢さんから外す鍵

神戸市

Ш

光

久

自分史が正直すぎて苦笑い

葉の裏で食事たのしむ昼下がり 矢面を無口な父が引き受ける

耳に栓するほどでない歳になり 一年を時効と決めて嘘ひとつ

喘ぎあえぎ平均寿命へ頑張る気

長所短所みんな親からゆずり受け

痛さひととき忘れてました大笑い 増税は義捐金だと言いきかす 電話口わざと元気な声を出し

神戸市

伊 勢田

毅

立ったあと何故立ったのか考える

二の腕が眩しいナース脈をとる 無位無冠雀と対峙する案山子

脈々と絆は切らぬ天下り 人間の証叩けば響きます

市 Ш H

礎

相生市

中

塚

石

木

村

明 石市 糀 谷 和 郎

老いてなお探すものあり天仰ぐ

雨の日は句点打ち寝ることにする

渋滞の車を笑いチャリを漕ぐ 二匹目のドジョウは飼っている首相

拭く人が嫌で曇ってくるガラス

芦屋市 黒  $\mathbb{H}$ 能 子

快くお互いさまと肩を貸す 美しく撮ってほしいと斜めから

ぞんぶんに泣こうひきずらないために

うっかりがいつも一緒になってきた

君のこと何でも知っていたつもり

芦屋市

竹

Ш

千賀子

畦道に子等の歌声曼珠沙華

母の文ところどころに愛の鞭

和太鼓が老いの二人を誘い出す

告白のチャンス逃がしてまだ一人

優しさに深い意味などありません

長

浜

美

籠

咳クシャミ人様並に生きて候 ケアレスミス増えて立派な高齢期 尼崎市

ヨオーと目で擦れ違ういい仲間 乾いた音で入る秋の日ポスト いい時を刻んだ亡父の腕時計

猫の一日太陽と鬼ごっこ

尼崎市

加

JII

靖

鬼

宿命の兵隊蟻として生きる

振り向けば波が足跡消している 大人になってから指切りはしていない

反乱の六腑それぞれ自己主張

尼崎市

軸

丸

勝

エアコンでもう揉めさせぬ秋の風 暑さには負けぬと素肌百日紅

押せば済む家事に原発ふとよぎる

若返りしてます爪も髭も伸び みつをの詩私の字では味が出ぬ

振り向けば負けだと決めた男の子 ヤング達紅一点に頭右

海峡の激流鯛を育ててる

まだ夏の儘に足踏み思考力 大声でなく父正論で子を諭す

胡蝶蘭どうしているか早や九月

伊 丹市

Ш

崎

君

子

退院で我が家の空気久々に 洋服店ゼロの一つを見落して

退院の日のほほ笑みがえしなごやかに ベランダで見る月丸く里想う

-43

尼崎市

林

昭

加 西市 金 Ш 宣 子

ほろ酔いの妻がみんなを楽しませ り早かったねと妻が言う

苦しみにならぬ程度の好きな道

席譲る気持ちあるから若いです

早足のパパの靴音待つ家族

西市 西 内 朋 月

JII

限度まで飲んでいつでも叱られる

名水をボトルに詰める山

歩き

吊革に揺れておかずを考える すっきりと目覚めた朝の朝御飯

栄枯盛衰荒城の月輝けり

米

Ш

一西市

子

原 雪

忘れてた自分でつけた丸印 手作りに込めた気持がこだまする

美しい言葉でお世辞固められ 印象が良くて仲良し続いてる

諦めずとうとう会えた終電車 三田市

 $\mathbb{H}$ 

中

子

冷蔵庫の鍵はわたしが持っている お醤油と塩のぜいたく許されよ

神さまのノック時時確かめる 秋風にとりあえず本積んでおく 相手が自然なら負けるしかないか

> 呼吸器が私の夜を介護する 人生は仮縫あたりまだ未完

東北の空に鎮魂大花火 鍋底を磨いて鎮火する怒り

栄光のドジョウに期待日本丸 三田市

石

原

歳

子

古本の縁日行った一度だけ

川柳のネタはないかと散歩する

溝に咲く露草誰も目に止めず 指切りをしたから彼女きっと来る

椿の実色艶まるで輪島塗

三田 市 福

田 好

介護士が軽い人ほど好きと言う 横文字が入らぬ法話良く分る

ああ夫婦繋がりながら飛ぶトンボ 短所だと思う所を誉められる

優しさがこぼれ出て来る三回忌

西脇市

七反田

順

子

花の名が直にでてこぬカタツムリ 防災のニュースしっかり見ておこう トイレには季節の花を生けている

フリーパス喜んで行くシネマ館

肥満猫抱いて躓く石畳

三田市 Ŀ 垣 キヨミ

-44

文

西宮市 西 Vi わゑ

欲というエネルギーから生もらう 台風情報目の端にして長電話

えんぴつの自由自在の世界観 生きるのもクイズにも似ておもしろい

どっさりと口論もして無二の友

いたち雲よ少しいたずら過ぎないか 西宮市 Ш 本

義

子

キッチンをピカピカにして飲むソーダ

西宮市

吉

井

どっさりとソファが撓む妻坐る

頑張れと涙で潤む声で言い 病む国も飽食テレビ治まらず

究極の選択今日は赤キツネ

片意地も驕りも捨ててマイウェイ

西宮市

藤

本

直

茜雲

太郎花子に明日がある

四国遍路一緒にいかが千切れ雲

亀

萩はらはら色留袖の花の雲 傷口をやんわり包む街の雲

出

西宮市

哲 子

縋りたい藁まで放射能汚染 節電や便座の冷えに秋を知る

幸せは食べてる時と衒いなし

閉会式のブラスバンドも小麦色 **騎馬戦へぐるぐるトンボ加勢する** 隅っこのコーヒーだから寛げる ひとりではもったいないなこんな虹

甘えてもいい日悪い日老い もう一花咲かそと水は切らさない

切符ありますかと揉み手でやって来る まだ身体元気で話かみ合わず

ビニールの傘は借りても返さない ケータイで喪中通知をする時代

から自殺したとは失礼な

山道で一句ちょこっと山頭火 足腰も忘れ輪にいる盆踊り 墓まいりすませたあとのアッパッパ 追憶に浸りたくなる籐の椅子 月下美人の艶闇を深くする そもそものそもを錯覚した夫婦

西宮市

緒

方

美津子

イタリアンになった秋茄子嫁姑 しんどいがずっと住みたい坂の町 にせ物のバストで少し若返る 奥様のお悔みに行く彼の家

忠

西宮市

片

Ш

- 45

西宮市

秋

元

7

る

古稀迎え医者の予約が増えてきた あちこちの部品 酒 湧き円 0 日心が揺れ い心 が傷み を尖らせる る縄 つい 0 n 弱気 h

永田町あなたの声は届か美しい嘘ひとつまみ足し く見ると感情 む 為に食事 は 線 は 欠 深 か せ 1, て秋 な

(つづき)

タや 引分けで終る野球は熱冷め 宿 は H 昭 \$ 和 地 一装に消えた曼珠沙華 0 桁客の 利 を飾る住宅地 歌

る

Ш 波自 0 4 4 13 無 事祈 3

横文字は苦手漢字は誤字ば ぐうたらをシャキ いこと待たせ二分で「お大事 像 0 0 鼻を高め カ > 抱えて ッとさせる子 に描く悩 かり 2

古

Ш

奮

水

西宮 足

立

茂

谷 尾 JII 畑 なを江

V

憲

### 第63回 大阪川柳大会

11月25日 (金) 12時20分開場 В

大阪市立住まい情報センター3階ホール 電話 06-6242-1160

地下鉄「天神橋六丁目」駅下車③号出口 JR大阪環状線「天満」駅下車 北へ660m

1000円(発表誌呈)

「揺れる」河内 月子選 (川 柳 塔 社) 「マナー」河津寅次郎選(||椒☆コロキュウム) | 足立 淑子選(番傘川柳本社) 」 久保田半蔵門 選 (川柳天守閣) 原」小島 蘭幸選(川柳塔社) 「しみじみ 本田 智彦選(番傘川柳本社)  $\Gamma B$ 本」井上 一筒 選 (川柳瓦版の会)

出 各題2句 席題なし 締切 13時20分 各題の秀句に大阪市長賞贈呈

番傘川柳本社·川 柳 塔 川柳文学コロキュウム

川柳天守閣・川柳瓦版の会

援 大 阪 市

### 第2回 高田寄生木賞

桶 由紀子 (兵庫県) 木 本 朱 夏(和歌山県) 讱 降 夫 (神奈川県) 渡 梅 崎 流 青(福岡県) 沢 省 悟 (青森県)

5句 2011年に作句されたもの [B5 判用紙使用]

(既発表・未発表問いません。時事・ 雑詠・題詠・印象吟・サラ川等、 また他の賞を受賞作品でも可)

1000円 (発表誌込み) (現金または郵便振替「川柳触光舎」 02240 - 8 - 82005

2012年 1月31日

(2011年11月1日より受付開始)

投句先 〒038-0004 青森市富田2丁目7-43

野沢方 川柳触光社

大 1名 川上三太郎直筆色紙(額入り) 特選賞(各選者特選) 秀句賞(各選者秀句) 表「触 光」27号(2012年6月号)

### 川柳塔の 川柳讃歌

木津川 計

### 秘め事を守ってくれる赤電話

出、『AERA』が暴きました。だから赤電 島田紳介も暴力団とのメール一〇六通が流 うそぶいていた男たちがおののいています。 話と貴代子さんに言われてもどこにあるや 名文句を勝手に一字変え、「つまが(づ)い はケータイからといわれます。相田みつをの がいっぱいというのです。不倫がバレる8割 困った世の中、と嘆いたり脅えたりする人物 たっていいじゃないか、にんげんだもの」と 携帯電話の時代になって便利にはなったが 木 村 貴代子

### その日までいっぱい笑う種を蒔く

矢 倉 五 月

ごってもらうな」「観劇は金を払って入れ と言われた。「芸人にはおごっても、絶対お の親、秋田実氏は僕によく「種播く人になれ 『上方芸能』を応援してくれた、漫才育で

> える種を播いておいでです。 ょう。五月さんも「その日」まで、誰もが笑 茂雄を指導した三木清の示唆によるものでし クがミレーの「種播く人」であるのは、岩波 した教えを思い出すのです。岩波書店のマー などとも。ときに招待券で入ると、ふとこう

### 柱にはなれぬが杖にならなれる

いで柱と杖を立てることにしましょう。 柱にも杖にもなれない身をなんとしよ、ぐら の主です。杖と同じに頼りにされます は誰でも」。「香と杳」は「香りの主成分は杳 かなくてはなりません。この世に住んだもの かした人です。「往と住」では「この世を往 (はる)かさへの誘惑です」と。 さて「柱と杖」を僕なりに。「大黒柱は木 知恵子さん、「杖になら」は杖に失礼です。 詩人の吉野弘は似た漢字と遊んで絶妙に活 片 岡 智恵子

## わたしから会釈ランドセルかがむ

今号緒方美津子さんも「おはようというてく は白鳥/(中略)/ほほえみにはほほえみ」。 花には嵐ノサンマには青い密柑の酸ノ青空に 崎洋の「ほほえみ」です。 また詩人を引合いに出して恐縮ですが、川 「ビールには枝豆/夕焼けには赤とんぼ/

> は礼儀正しい女性になりますよ。 れます通学路と。 あいさつにはあいさつ」。ふみさん、その子 そこで、もう一行僕が勝手につけ加えます。

### 丁寧に傘をたたんで置き忘れ

く、いまも会うと自責の念です。 だったのです。何の催促も彼がしないのが辛 のは三十年も昔です。既に手に入らないLP 人にとって大事なLPを借り新幹線に忘れた 貧しかった二十代、買ったばかりのスーツ 置き忘れは僕にもいっぱいあります。その

なかったのです。傘といえども丁寧にたたん で置き忘れた桂子さんの無念が分かります。 を地下鉄ホームの腰掛けに置き忘れ、出てこ

### 丁寧に今日という日が暮れていく

呼んでもらうだけ―北野哲男」。俗名でいい ではないか、の声が広がっています。 教えられ、丁寧に生きることにします。 実です。来年喜寿になる僕です。能子さんに ように時をいつくしみます。だから余生も充 ぎていきます。人生を惜しむ人は花を愛でる 今号触れられなかった句、「戒名は僧侶に 丁寧に一日が暮れ、丁寧に一年、二年が過

(『上方芸能』 誌発行人)

を握ると青い僕が 13 た 小

11

ル

J ンド

満員電車揺れるとわ スモスは乱れに に乱れ風の流 たくし O 道 匂

栄誉賞の重さと日の丸の重 紙兜の僕が笑っている昭 和

母さん

0

取

越し苦労笑えない

月

0

っそりと旅の終りは穏やかに からの電話待ってる声を待

河

井

庸

佑

7 母

イズみたいにすぐに答のない の年越しても母は母である

命

生半可な考え話縺れさす

奥

H みつ子

仏間

大山

に登る気骨を持ちつづけ

決断の早さうれ

しい風に乗る

携帯が鳴るお悔みを告げてるに

島 蘭

> 八十の娘百歳越えた母いろはのは辺りで力尽を駄菓子屋で昭和の風が温 蛇口 も川 一全開しても答が出てこな

のは辺りで力尽きてくる

で昭和の風が渦を巻く

も知らん顔したままである

木 村

お供えに花を貰った六地蔵 雲が飛ぶ月も一緒に飛んでい から灯りが見える老母が居る 座布団呉れて で来るロ 1 力 る ル 線

無人駅温

Vi

方言も乗り込ん

小

西

雄 K

斉

新刊書見るとき今も読書欲影法師うっかりしてた蜘蛛

0

藤

呑む前にいつも感謝を忘れない 膨らまず終わる蕾もあるんだよ にんげんの道 虫たちも平和だろうな無農薬 ふるさとは太宰の風の吹くところ のり棘を抜きながら

足元が揺れて気付いた自己過信 先手取り最後の詰めへ焦らない

難題を出して器量を試される

程の遠慮好意に甘んずる

III

F. 大

劦

外 言い 利き腕を捥がれ頭が冴えてくる 世話焼ける内が花ですてんでんご どの指もいとしく感謝する十指 老いの目に元気な声が駈けてゆく 鉛筆の持ち方老いの気にいらぬ 米寿過ぎまだ目のやり場考える 18 貴方もか薬袋がたんとある 今のこと冗談ですと老い 调 年 来語清水坂の唐辛子

旅立った燕よミナミで元気かい 百日紅鶴彬碑を守ってる ソコンの将棋やっと勝ちました 日デイサービスで遊びます 度頭の検査しています

脇腹に隙あり天を仰ぐとき

新

家

完

司

カタカナの鳴く丘しばし世捨て人 グーチョキパー攻撃的にみえるチ 3

丰

来年は古稀コスモスが笑っている 時間眠り元気に立ち上がる

恒 松

0 

吅

紅

伸

津

守

勝ってあさってを向く針の穴

猪も鹿も見ている大花火

塩

満

敏

四季のある国に生れて四季の幸 ふるさとの食事も街に似てわびし 百歳を越えた御先祖がひとり

雨降ろが風吹こがいま種を播

都 倉

求

芽

世渡りの橋が流されそうな国になる 咲いて散るただそれだけに手を合わせ

手料理をよろこぶ人がひとり居る 花束をもう抱くことはないスーツ マンションがだんだん食い込む故事由

言い訳はしないさらりと雨が止む 霧晴れて慈悲心鳥の鳴く峠

元気で生きよ国債の満期まで 金もちに学んだ金の使いかた 盆踊り復活させる染め浴衣

知恵の蔵ブックセンター辺りとか 知恵熱は二階の机から炎えた 空白を埋めんとすれば知恵が要る いま知恵の無頓着ぶり古稀になる

月の

ショートステイにホスピタル

諷 人

中

原

螢

土

橋

遠 山

미 住

T あ

V

ねいに日めくりをはぐ加齢です

林

瑞

枝

ね

んごろに明治を語る蔵の

落葉舞うジャズとタンゴの

風 辟 の街

根拠ない もう刀自と言 電を言われてからの怠けぐせ 自信持ってた若い日々 わ n る歳であくせくと 西 H

楽

こおろぎが鳴いて熱燗ほしくなる 時々はお天道さんに背を向ける 節

部

期せずして加齢をいうた聴診器

加齢にて候ニュースに腹を立て

加齢とは十二と隣りの児に訊かれ

るこれも加齢か財布のぞく癖

几 郎

他人を弾ませるサクセスストーリ 手を振ると私を売ったことになる 欠席の人の意見も聞くべきだ

風鐸 冗談の通じぬ石にある重み の一つひとつにある祈

人間でよかった温もりあるベッド 水ごくり今日の予定はみなクリア

これからの試練を生きていく読 助けてはならない試練のド真ン中

他人さまの重荷を聞いて午後のお茶

どの傷も今になってはいとお 白桃のように不安な春の皮膚

今日

T

リア飢饉何もできずに胸痛む の糧与えたまえと祈ります

> 秋の 夏祭

しっかりと心に届く冬の傷

13

のは人間ですと蛙鳴

掛 Ш

金より医療費使いすみません

動く

備えに人の非力なり

前

たもつ

どの傷だって

Ŧ.

代

誰がためヤングが歌う美の讃歌 悠久の海は懺悔を吸う広さ 花占いに負けても恋のさくらんぼ

傷には透明な塗り薬 怪我の多くはもののはずみ 八 木 子が光るように後ろに下がってる 母さんがうなずい ているほっとする 政

出

未延子

父のかわりに仁王立ちする庭の石 ペーパーナイフ紙より面白いものを切る 廃船になっても海ですごしてる

宅

州

保

— 50 —

宮

西

弥

生

隠

n

ん

ほ

L

たまま鬼と同

棲

中

(故恋人4歳に

### 第127回

会費

千 〒 円

532

区新北野

1

3

本

田

彦 4

0

だらけなる温

706宛

っくりと沈む夕日へ旅支度

夫婦とは裏切ることも美しき 許されぬことだと知って出す もう読まなくなった源氏物語

(故 岩井三窓氏

手紙

大阪川柳の会

選宿会日 題 者と場時 ホテル 月5日 コムズ大阪 月 午後5

 $\Delta \Delta$ 人並 -025大阪市淀川区新北| 欠席投句12月3日まで 各題2句。 河 平内 山 席題なり 地下1 時開場 △自然 階 アー 後6 礒野いさむ 森中恵美子 -バンホール66時時締切

負 剥落 最後には 妻不在猫 (け犬になるな希望を忘れ 0 扉 0 ワイ 石 温もあ 仏 追い抜け にも史実 > 0 くびの昼下 精 ば が開けに 良い あ 人生譜 が ずに くる n

風 獄 0 聞 鬼と握手して来た手を洗 かせとう無い ため息よ

両

JII

洋

Þ

地

春

0 持 0 テ 男よ君もリストラか П 0 ナビに 神がそそのか 地 獄 は 載 L た 2 てな 0 かも V

尾 岳

板

Y

八 + H 洞

庵

小 松 園遺句集』

より

n め 落ちても ている土 なる が 地 一円の美 11 が ちば 歪 知らずかきつばた ん蕾 入しさ 5 0 vi 1

散髪をし ひかえ目 しき恋に終 Vi てい て何処 0 る草とは知ら 恋を歌麿絵に 冴え人形に血 h ぬ大和仮名 ず のこ 絶り 0 3

からく

h

0

が

通

流 n みある人とは 星女 0 返 事またの 見えず舞 行く春の び いの 宵 納 8

イッ りそめ 3 Vi の 印 酔い ちごを一 チ 女とくぐる 0 は 陽 0 0 で悪女に甘 光源氏 恋と止り木知 女の方の手で は恋を捨 緒に摘ん で聞きたが T んじる Vi 0 ち う気持 だだけの 7 断ら てから つてい n n る 仲

— 51 −



# 選

八幡市 今 井 万紗子

錯覚は錯覚のままいてほしい 怠け癖そんな私に塩胡椒

それがどうした風評などに踊らない 仕事一筋妻にたんまり借りがある

お小遣い薬代だけ加算され

礼状に気遣いなくと書いてない 歩だって前へ前へで金になる

趣味三昧三食昼寝今余生

摘 野良犬のレーダー休むヒマはない

よく笑う妻でダイエットは苦手 どなたにも迷惑かけぬ隅に生き

曲者と言われる程の知恵もない

どうせならお墓に入るまで騙す

菜 介護の手心の窓を徐々に開け

爽やかな別れ金木犀匂う 禁断の石榴そろそろ熟すころ

屈折の光へ逸れてゆく影よ 深読みをし過ぎたカレンダーの丸 秋は孤独鳴らないラッパ吹きながら

山口市

中

前

幸

子

恩恵を受けて私の今がある 拗ねられて男の技量試される 茶をすすり愚痴の一つも聞いておく 幕引は拍手の内に終りたい 暑気払い何ぞ鍋でも食べておく 落ち込めば自分に熱いエールする

いくさ下手石を掴んだまま老いる

和歌山市 福 井

小吉でいいのんびりと今日を生き 踏み越える瀬にライバルも父もいる 身のほどの幸せで良いサラダ盛る

III

ポケットの初心ときどき陽にさらす

堺 市 内 藤

> 憲 彦

田 中

由美子

高槻市

政治家よ内輪もめしてる時じゃない もの忘れお年頃です老い二人 お陰さま今日も無事です仏さま 幸せだろか妻の介護が出来る身が 年金を元気に食べて医師疎遠 手ぶらでも偶には来てよ福の神 故障ではないがあちこち緩む捻子 辞書の字に泳ぎ疲れているルーペ 右顧左眄どんぐりの輪を抜けられず かくれんぼ草葉の陰もそのひとつ 脱皮するために買ってる宝くじ ストレスに飲ます梅酒のパック入り 迷ったら鏡の前に立ってみる イメージは花野胃壁を補修する 好いことが降ってきそうで空を見る この指を離すとアナタただの人 アルバムの爺を見つけてパパがいる 鬼ごっこ鬼が追われる昼下がり 出世払い実体のないこの身です 辛くないトウガラシにもある老後 人生を内助の功で生きている 北九州市 北九州市 紀の川 弘前· 市 市 小 辻 尚 稲 松  $\mathbb{H}$ 内 見 紀 次 幸 則 子 生 根 彦 方向音痴迷い続ける恋の道 相談に乗ってくれないカタカナ語 三陸の海に鎮魂歌が満ちる 次の世に遺してならぬシーベルト ごめんねと言えずに靴を磨く朝 約束は破りたくないからしない メールよりやはり手紙が欲しい母 みどり児のこぶしの中にある未来 熊にあげたい孫の集めたどんぐりを くたびれた部屋着で疲れ抜けてくる 化粧した妻は他人の顔で出る **条柱は立たない袋入りのお茶** イニシャルの人は何処ぞ古日記 寂しさを流れる雲にひょいとのせ 松茸と貧乏の味知らぬ子ら 短命と言われ弱気で生き延びる バリアフリーなのに敷居の高 死して生きるそうありたいと思ってる 加齢です筋肉痛が二日後に 窓ごしに星が降るから亡夫恋し 線を越えてしまったファウル球 い家 神戸市 神戸 岐阜市 市 平 能 新 野 勢 保 利 あずま

子

こんっ) こ上こ 容け入っ 丹森くげ青空に信号機なし赤トンボジグザグも酒屋への足軽くなる	お酒飲む時イケメンになるあなた酒八分わきまえられるのはいい日	海南市 小 谷 小 雪	これからも君のパワーを信じてる	介護する母の笑顔に救われる	蹴躓く石に真価を問うてみる	火達磨になってようやく立ち止る	久々に仏と語る墓参り	岩出市 藤 原 ほのか	馴染の店羽根を休めに途中下車	なによりも心安らぐ雨の音	帰りたいテレビに映る里景色	今度こそ長生きしてねどじょうさん	蚊取線香腰にぶら下げする散歩	奈良市 矢 野 良 一	釣り上げた魚がエサを食べ過ぎる	人間の匂いが薄い別荘地	揺すっても波さえ立たぬ倦怠期	降車駅棚の荷物が乗り過ごす	腐ったらやっぱり鯛も捨てられる	奈良市 大久保 真 澄	
<b>道草の花ょうわさを知っていた</b> 雲流れうわさの人は去って逝く 手放す日愛の深さと侘しさが	道楽の道に迷って出られない	鳥取県 飯 野	アイマスク耳せんをして夢心地	愛憎もキャベツも刻み今日の糧	心地よい言葉に酔って濡れ鼡	在りし日を手繰りよせてる彼岸花	見えないもの詰めて母から宅配便	和歌山市 土 屋	音声をオフにするなら歌います	通帳も頭も軽くなりました	牛乳とちりめん雑魚で骨守る	畦道を歩くと蛙道を開け	雑草の生きる権利を摘む日課	橋本市 石 田	おとなしい子猫するどい爪がある	前ぶれか夫婦茶碗がよく欠ける	人間にもどり十戒ゆれ動く	妻の勘女にこんな武器がある	過去形になれば苦労も美しい	紀の川市 宇 野	

じんわりと土に溶け込む野菜くず

道草の花はうわさを知っていた

起世子

菖

子

幹

子

隆

彦

一人居てカバーしている耳と目と 取県 加賀田 志 延

来年も履く長靴を思案中 網を張る蜘蛛もなじみの畑通い メンバーが言える嵐もスマップも 口一杯ミニ太陽を放り込む

ふむふむと読んでわからぬ説明書

倉吉市 前 田

喜美子

失言を取り繕って仲違い 電話して安否気遣う遠い友

優しさが途中で切れる電話口 テレビの音少し大きくしてくれる

米子市 見 Ш 温

家計簿のボルトがゆるみ火の車 里の風受けて会話がよく弾

親心酸っぱく言えば無視をする

あてつけに男が針に糸通す 妻は留守手酌のつまみ一人愚痴

雲南市

武

島

ちよえ

据え膳に上げ膳馴れがおそろしい 市役所の封書一息ついて開け

じっとして居ても夏バテキリギリス 童心に帰してくれた敬老日 予定表立てても人の世話になり

子

シルバー展昭和の力ここにあり 吊り橋へ少しためらう老いの夢

心底に偲ぶ人あり走馬灯 内緒ごとひとつふたつは女にも

横並び意識で心地よい足湯 秋口へ少し熱めのお茶旨し

上を向く力をくれた青い空

スピーチへはらはら口が軽すぎる 大洲市

花

出

順

子

雑草のような身内が一人居る 大胆なことは苦手な石頭 コンパスのプラン何処にも角がない

幸せはずっと普通の日が続く

竹原市 土 井

輝

恵

吾子にした失敗孫へ繰り返す 受験の子今朝出た虹は君のもの

拗ねた人一人は居るねどの会も

足の指小指はいつも遠慮がち 聞いて読むこの感動が五七五

竹原市 若

年

ラッキョウのカリカリ感は愛かしら あと出しのジャンケンなのに負けている

星見上げ地球の危機をふと思う

阿波市 Ξ 浦 千津子

-55

補聴器に余計なことを教えられ出来すぎも不出来な嫁も気にいらぬ出来すぎも不出来な嫁も気にいらぬ温暖化秋がのんびりやって来る	優しさは伝染しますだから好き にい出す思い出せない今日のウツ 思い出す思い出せない今日のウツ のしさは伝染しますだから好き のしさは伝染しますだから好きになってくる	横浜市 川 島 良 子俺の目を覗いた猫の目の深さ 横浜市 川 島 良 子朝顔を覗きに来たか蛇長し覗き見る闇の匂いのする小道	<ul><li>直列に並んでいるのはイエスマン</li><li>片足立ち今朝も健康度チェック</li><li>り機制って話せばあとは楽になる</li></ul>	四国中央市 篠 原 久
墓石も起こしてくれとしんどそう。 にの中ねてたらアカンで野田総理 震災で蔵の古米が落ちつかず 震災で成の古米が落ちつかず	大阪市 平 井 露をまえはねはじめてもらうプレゼントをまえはねはじめてもらうプレゼントをまえはねはじめてもらうプレゼントをまえはねはじめてもらうプレゼントの様に	大阪市 栃 尾 奏遠くから見ているだけの恋で良し間き役に徹すお好み焼き玉子入り間き役に徹すお好み焼き玉子入り	庭にまくついで心に水をまく 年ごとに急坂になる墓参道 年ごとに急坂になる墓参道	京都市 清 水 英

こんがりと焼けためざしも嬉しそうポジティブに生きようまずは飯を炊く小気味よい音でリンゴを噛む若さい気ではいいない。	好きやねん言える日本に変えてんか あほやなあ母ちゃん言うと嬉しいな		出来るまで楽しんで見たスカイツリー出来るまで楽しんで見たスカイツリーすぐ出来ると言われ待ってる小半日すの出来のは、「おおおおい」という。	を 自工とで を を を を を を を を を を を を を	堺 市 羽田野
			和	治	洋
	ひ ろ 子		美	子	介
無理だよ	写メーション	怖かっ クーラ	角砂糖工番毛	おさ 筋 ネ 腹 砂 妥 な 書 が 書 が 場 協	
無理だよと軽く言われて欲が出る個展見て値札へすぐに目が移る順送り親に返せぬものを継ぐ残された母の言葉が力貸す	写メールの花一輪でヨリ戻す 木見好きなだけ飲んで食べても標準値	怖かった父と息合う車椅子誰一人不出来を責めぬ貸農園クーラーと折り合いつかぬ膝と腰	河内長野市 梶	は な の は が は が は に は に に に に に に に に に に に に に	内長野市 針
と軽く言われて欲が出るに返せぬものを継ぐの味覚が家の味	野市 木見谷	た父と息合う車椅子不出来を責めぬ貸農園	河内長野市 梶 原 河内長野市 梶 原	市 い 辻 村	内長野市 針 生
と軽く言われて欲が出るに返せぬものを継ぐの味覚が家の味	野市	た父と息合う車椅子不出来を責めぬ貸農園	河内長野市 梶	市い	内長野市 針

虚勢はる紅毛の目にある孤独を脱の犬のごとくにうろつけりを眼の犬のごとくにうろつけりましてした。	世界である。	要表ないからちょいと損をすると表表ないからちょいと損をするとである。 という できまる とり できまる とり できまる とり できまる とり できまる とり できまる とり できる とり できる とり できる という とり とり とり できる とう かいしょう という という という という という という という という という とい	喜ばれ 神岡 本
			香工
	明	生	代
間違えて笑って済ます歳になり前向きに生きて余生に立ち向かう前向きに生きて余生に立ち向かうが違に恵まれ老いを磨いてる助け合い重ねて余生丸く住み	を草に今夜もゴーヤ並んでる 関一番鏡の前で先ず笑顔 でルバムに輝いた日々残してる でルバムに輝いた日々残してる	羽曳野市 字を	寝屋川市 路味多忙遊びも入れてつつがなし 一病息災それが私の誇りです をのメモ大事にもってスーパーへ をのメモ大事にもってスーパーへ をながきの終った頃に出るメロン
	田	宇都宮	
	洋	ちづる	楽
	子	る	鬼    勲

背のびして一泊旅へ参加するやずられた席年寄に見られてるゆずられた席年寄に見られてる		大阪府 中 井熟中をする指いとし紙を折る 大阪府 中 井葉蓉咲く優しい空気そえて咲く 雨粒が線になるまで野良に立つ 雨降りは安穏な時便りかく	~ ~	þ
	1.0			
	美 紗 子	記 久 乃	1. 点	T.
オーイと呼ぶ亡夫の笑顔目に浮かぶ 対 の	国会に作り笑顔がちらほらと 豆台風祖父母に笑顔元気くれ 豆台風祖父母に笑顔元気くれ 豆谷風祖父母に笑顔元気くれ	会 一 一 一 一 一 三 田市 辻 開 子 老 大 間の頭脳に天地牙をむく 大 間の頭脳に天地牙をむく 大 は のあつい背中を拭く祈り 三 日 に 三 に 三 に 三 に に に に に に に に に に に に に	毛 ii	<b>薬山市 酉 中 真 由</b>

一合の酒が本音を吐きはじめ母子手帳命が重く重くなる口下手が意外と持てている不思議	つもり一夜で出る	動く歯をついつい舌で確かめる忘れごっこしているようで出る笑い爆笑について行けない遠い耳	岩出市 村 中 悦 男	風向きが変わり干し物避難指示	こ人揃って頼なる副作用	和歌山市 坂 部 かずみ	忘れない海辺の町のおばさんち毎日が旬で絵手紙欠かさない	ひんやりと空気が旨い熊野道空気入れ替え一人の家を目覚めさす	和歌山市 森 下 よりこ
福の神と知らず門前払いする夏バテの風邪はなかなか治らないしゃんしゃん祭の練習が夏連れて来る	自分史思いつく	大安が良いとも言えぬ難婚率大阿蘇が狭い了見ふっ飛ばす晩酌途切れて肝臓鐘鳴らす		ベランダは宇宙相手の喫煙所土に生きダイヤモンドに勝る汗	どんぐりが転び泥鰌も遊べない事故の収束急がねば雪が舞う	鳥取市 津	そんな歳かと指を折スモス達の遊園地	肩書きが無くなってから低い腰ああえらい言わぬ覚悟がまた口に	鳥取市山

どじょう首相泥にまみれて汗をかけ 寡婦として気丈な女凛と立つ 回り道無駄でなかった今がある 秋の風誰かに電話したくなり

曼殊沙華見事な朱から目を覚ます

炎天のまっ只中に蝉時雨 言論の自由元々数え唄 自伝抄一寸先を持つ安堵 ドック入りしても人間続けたい

田辺市

大 峠 可

動

福の神と知らず門前払いする

初サンマ今年は早い9・6

鳥取市

坂

本

とも湖

原

ひとみ

村

律子

П

藤

秋

星

握手して互いに探る腹の中 無我夢中歩いた道は夢のよう 軽く酔うそれがうまくて飲むお酒 政党名民付けていて民を無視 三面鏡見えぬ一面そこがミソ 熟れ落ちた実はしっかりと種抱え 親よりも高いと背伸びして見せる 夕立ちが涼しい風を連れて来る ポケットの石ころ孫の宝物 四十年子に守られた寡婦の城 サルスベリ盛夏に耐えて美しい 生きている証ですよと悩みごと いい夢をみたい枕を裏返す なんとなく解る気くばりありがたい 迷い道右往左往と目は動く おだやかに聞こえる言葉芯がある 切れかかる絆に赤い糸結ぶ 目と口はいつでも掃除こころして 人生は予測以上のことがある - 症夏も終ったヤレヤレだ 境港市 鳥取市 米子市 鳥取市 取市 大 大 田 中 田 村 井 前 塚 周 虎 清 安 子 子 尾 帆 きっ ずぶ濡れになって女の恋終る 句が乱る一字一字は楷書だが 歴々が手を握り合う事始め 秋までは何もしないと決めた夏 平坦な道にも傾斜つけてある 見栄を張り自分に送るお中元 もう一度拾ってみたい恋の種 諦めがついて気持が踊り出す グチ聞いてあげて元気に帰る友 秋風に同窓会の通知待つ 嫁姑大事にしたいテリトリー 予測の域で泳がされてる雑魚の 同じ蔓耳の形も孫が継ぎ 政治家の白紙に潜む水模様 きっかけは食べたいだけの魚釣り 夏が去るいいことひとつ残さずに 雨風が止んだ台風目の中だ まずそうな顔して箸を置く夫 なでしこが勝って来るぞと勇ましく かけが掴めず三日無言劇 群れ 米子市 米子市 米子市 米子市 湯 生 Ш 小 野 浅 本 塩 田 JII 寒 久 ふみ子 智加恵 宣 之 子 司

高取県 下短めのごろはかんにん袋がつかえないにのごろはかんにん袋がつかえないがったるいがったがられるがっくりをオバケ屋敷で期待するがっくりをオバケ屋敷で期待する	悪口を言えばランクが低くなる 水子市 後外太りが好きと言われて痩せられず はのお古が丁度良いわたし	水を得ていきいき泳ぐ選挙好き 大臣を覚えきれない老いた脳 居酒屋でやっと空気を吸う男	夏疲れ余生時計が昼寝する でな夜なに何の恨みか蚊が襲う を 一つまた一つ消し自然体 あんしょう かんしょう おんしょう でんしょう はんしょう はんしょく はんしょう はんしょく はんしん はんしん はんしょく はんしょく はんしょく はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はん	米子市 加
田	藤	原	藤	藤
茂 登 子	宏之	章 子	美 惠 子	正二
来た道は違えど嬉し喜寿祝う 松江市 相 見 柳 歩浜の糸巻き長すぎる かる里を恋しく思う歳となり	説教をした子に今は論される 松江市 山 根 邦 代 八生のシャッターチャンス電池切れ	年金で翔ぶ約束をしてたのに 松江市 松 浦 登志子 台風で旅のプランが一つ消え でいっかい でいました おいました かいりすぎ	島取県 橋 谷 静 江路まれても花を咲かせる人も居る 高齢化野菜は店で買ってくる 上司とも母とも思う妻と居る	鳥取県 岡 村 孝 明

台風が災害おいて北に去る	金三日帰省の孫が振り回す は三日帰省の孫が振り回す を来市 原 煩! 安来市 原 煩!	į į	菅 田	出雲市黒目英
清	泰 (図 輔	] (1	か つ 子	男
働いて来る日来る日の青嵐 青鷺は働かず風が羽根揺らす 青春は二度と帰らぬ蜃気楼 若葉風肩を叩いて声かけて この猛暑くぐり抜けたら八十二 この猛暑くぐり抜けたら八十二 香南市 この猛暑くがり抜けたら八十二	大点があって気楽に付き合える 日焼けした子も受験日へ螺子を巻く 不完全燃焼のまま夏を過ぎ 大点があって気楽に付き合える 大点があって気楽に付き合える	加速する老化の渦に抜き手切る不用意な一言老いの恋終る不用意な一言老いの恋終る八十路すぎ棒線増える住所録	宇部市水面をパトロールするあめんぽう、水面をパトロールするあめんぽう、二時間の健康マージャン今日元気朝感謝七粒半の薬飲む	竹原市
桑	渡    神	þ i	高	六
名	邊野	F	Щ	田
44				e was
孝	伊津志	;	清	半

1 1 1	アイデアが当たり会社の危機救う きま市 化 対 公 虱や草に花咲かそうとボランティア に大遺品想い出ひたり時忘れ深い意味ないが拗ねたい恋心	出合う人皆年寄りの顔となり 唐津市 吉 冨 節 子 出合う人皆年寄りの顔となり 用件ですます電話は男です	日本中どこも危険で重い雲 唐津市 岩 崎 實 大は卑怯命奪って引きあげる 札束が万能薬という種族	<ul><li></li></ul>	
; ; ; -	子の火種親の介護が待っている「肩書きの取れた男の無味無臭」で放を束ねる息子太鼓腹でなっている。	迷いつつ未だ仮の世を通過中 札幌市 佐 藤 登美子 文句言うネコそれなりのポーズして 夢見てるように私を見てる猫	<ul><li>念入りに育てた花にトゲがあり</li><li>出て来ぬか心清める化粧品</li><li>寝癖だと笑っていたらニューへアー</li></ul>	山鹿市三谷たん吉ラッコよりトドに似てきた喜寿の人母の癖ちゃんと受け継ぎ空元気からめたりカラオケ小指忙しい山鹿市米加田恭代	受け たロ日 長

何事も感謝の気持ちあればいい背中見て育った子供親に似て蒸し暑さ日本を襲うカビ地獄	馬	ニフェスト野	む 北の窓 東京都 井	ながけ月下美人に恋してるをだけ月下美人に恋してるをだけ月下美人に恋してるをだけ月下美人に恋してる。 おいま おいま は 電市 木 は かい は でん は まい おい は に は ない おい は に は ない おい は に は る に は る に は ない おい は に は る に は な に は る に は は は る に は る に は は る に は る に は る に は る に は る に は る に は る に は	弘前市 髙
ja -	15) A		Ł	田	橋
<b>张</b>			つよし	比	洋
生	Ē	忠	L	朗	子
あの時が転機だ 転機です髪を束 を引き出ば	ひたすら ジョーク	まった 大人の果 方言が出	何時かって気張ら	親長話為	
ったと今気付くし充電河馬になるせなくて寝顔見	ひたすらに体づくりの遊歩道ジョークにもしっかり急所ついているもう誰も言ってくれないご飯だよ話われるときが華だと日々過ごす	南	夏れのる富いも	1000 1000 1000 1000 1000 1000 1000 100	東京都
転機だったと今気付く 変を束ねて紅をさす てしばし充電河馬になる 外き出せなくて寝顔見る 大阪府 小	いている これる		富山市	けら静岡市	東京都 大
る る <sub>大</sub> 阪 府	いている	南市	富な日いも	けら	東京都 大 竹
るる大阪府	だよ いている	南 市 脇	富山市有	静岡市 渡	大

頑張ればやがて花咲き実にもなる 九条は日本護ってくれている ん坊の泣き声さては虐待 か 前 III 之 ビルの灯につい誘われてさまようて

大阪市 安 藤

流行が気になるうちは元気です クーラーも休み休みにしたまえよ

人生は明るい色で過したい

足痛い生きてる証しではあるが お昼寝が夏バテ対策ナンバーワン

辻地蔵片手拝みで通り過ぎ

大阪市

松

田

聰

先人の智恵に驚く石舞台

ぬるま湯にのんびりつかり今日の計 経塾に松下さんの偉さ知る

どうし たらもっと気楽に句が出来る 大阪市

浅

井

公

4

労い 道端の小鉢の花がてんこもり の言葉わからず義理を欠く

つきあいをきっちりすれば身もかるい

太

田

としお

大阪市

坂

公

子

サングラス外すともっと恐い顔 お見合は当り外れがきつおます オペラ座の怪人仮面外せない

大丈夫急所外しておきました

まっ直ぐな道を歩んでただの 約束を破っても行きたいお店

裏道に丹精込めたプランター

泉佐野市

稲

洋

紅葉から落ち葉の歳となりにけ 天高し思い出せない事が増え h

五分ほど飲んで喋ればもう旧知 方言で叱られやっと目が覚めた

ねェと言う甘い言葉に歯が浮 ハンドルと酒と問答繰返し いて 大阪市

III

弘

泰

すすきの穂風待つ土手も秋の 久し振り妻の化粧に惚れなおし 伍

習い 事未だに急所掴 心めない

吉

 $\mathbb{H}$ 

知

之

仲人のお陰で添うた七十年 腹痛は医者より先に正露丸 家族にもアリバイ言えぬ事もある

水平線本当地球の円 V

未だ知らん事知らん事ワンサ 百三十歳までとは豪語して居るが 五体満足孫子の車でする遠出

大阪市

中

都

新総理やはり希望は託さねば孫の宿題終えて今年も夏が行く不を起す度胸もなくて今日も無事わが手帳あとふた月は予定なし	雲梯を渡って辿り着く浄土馬跳びの交互に越えてゆく平和馬跳びの交互に越えてゆく平和	飯う	る	***	
Ŧ	交 野 市	柏 原 市	池 田 市	堺 る	大阪市
	田	森	上	澤	西
)	岡	吉	Ш	井	Щ
	久	留	堅	敏	冷
	幸	留里 惠	坊	治	子
入道が去って鰯が泳ぐ空営められてパパはルンルン家事をする換気扇喜怒哀楽の味を吸う	年寄りの知恵をヒントにエコライフ窓際で景色見ながら明日を練るモナリザの優しい笑みに惑わされてナリザの優しい笑みに惑わされ	辞令一枚家族巻き込む大騒ぎ最近は黒いネクタイばかり結う青春歌唄えば弾む万歩計言い勝った頑固を悔いている湯	場の煙しばし裸でお付き合い駆け降りた階段今は踏み外すりた階段今は踏み外すの上がしているがありに負けた小商	<ul><li>バイハイの返事はノーと同じこと乗り越していつもと違う街灯り乗り越していつもと違う街灯りを声でこの子ヤンチャになる予感急いでる人のノックは急いでる</li></ul>	
事をする	フライフ 豊中市	だぎ 高槻市	岸和田市	河内長野市 じこと でる	河内長野市
		ぎ 高槻市 初	- makes	河内長野市 谷でる	河内長野市 松
ì	豊イ れみる 市	市	岸 和 田 市	長と 感 野 市	
ì	豊イ れみる 中市 池	初	岸和田市 増	長と 感 野 市	松

一市市 久 高 賢 市

燃費減より高くつくエコタイヤ 初梨をかぶりつく歯に染む痛み

さくさくと使いこなせぬスマートフォン

輪郭を曖昧にする首輪かな

一市市 貝 塚 IE. 子

独り言鏡のぞいてきれいやなあ 我が身より荷物気にする夜の道

ごめんねで心のしこりとけてゆく

デコメールはまって私若がえる

荒 卷

豊中市

夢

関

富田林市

異空間深遠な絵に会いにゆく

永遠の片道切符握りしめ 赤ん坊のような笑顔で介護受け 目が覚めて朝の涼風待っている

テレビでも言葉の裏がちゃんと見え

言を煮込んで明日まで咀嚼

輪郭のゆるみを知ったてのひらよ 攻められてまあるくなった石である

帰れ ない電池が切れたブーメラン 富田林市

Ш

野

寿

之

読めるまであんたの側に座ってる 子育ての方程式の解は愛 手がそれた毬が一人でよく遊ぶ

なんでやのしゃないねんの繰り返し

盆の風よき習わしを繋ぎ留め しっかりせい忍びの猫に睨まれる

松茸もいいねと秋が素通りす 羽曳野市

安

本

美

牛乳パック野菜も花もミニの庭

人情の機微も周五郎より学ぶ

朝練の遅刻坊主にされかかり 立ち読みの暦運勢黒だった

節電が家族の絆深め てる

羽曳野市

本

洋

どっこいしょ椅子に頼って食事する また来るよ女将の笑顔絆されて

旅先で珍味嗜む古希の友

東大阪市

西田

いくひろ

成せばなる事も忘れて呑気です 草食の男が増えて意気がない 節電をしてから家計簿が緩む ふところが温いと足も軽やかだ

欲望にふり廻された我が半生

枚方市

小

JII

良

吉

断捨離と遺書が気になる歳となり 敗戦の証言ばかりお盆月 可愛いと空瓶捨てぬ妻の欲

寝屋川 市 小

谷 滋 彦

68

青テント自由の重さかみしめるとれ以上塗っても駄目と顔が言うにれ以上塗っても駄目と顔が言う	八尾市人間の命セシウムが齧る五年日記いよいよ明日終りますを夫婦無言の愛で支え合う	大日 家 同 、	近に良り谷々が在が大大子 最近は僕も見つけた生きる意味 場では今日も朝仕事 コーヒーを飲んでは今日も朝仕事 はは僕も見つけた生きる意味	老人の群騒いで歌う健康に老人の群騒いで歌う健康に	枚方市
E	H	前	寺	市	坂
ž	邊	田	井	Щ	本
γ̈́	告	紀	柳	雄	3
Ξ	Ξ	雄	童	太	ミヨノ
虫の音が今日の疲れを和らげる くの雲は日傘になって優しいな 天よ地よ海よ怒るな頼むから	無農薬茄子のえくぼも可愛くて裏庭の夜はすず虫コンサートまかれなく愚痴をさらりと居酒屋の地のではないたと鍬を振り	ア百万の神に紛れた貧乏神 学び舎で雲隠れした金次郎 三回忌の亡母に愚痴の日感謝の日 が名が の	柄の	大阪でネキンがファーつけられて衣更えまたひとつ音頭覚えて夏終るが思い出せずに話題変えが電の車内扇子がいばってる	八
れれ	告 气	大 日   風 阪 府	大 阪 府	大 更 阪 府	八尾市
京市	古 へ	阪府畑	阪府高	府	尾市山
	<b>☆</b> へ †			府 若	
木	<b>☆</b> へ ***  **  **  **  **  **  **  **  **	畑	高	府 若 月	Ш

煩悩の取捨選択に酒を借る吐き出せば楽になるのは知っているをの外にまだあるのでしょ隠し事	相談事妻の意見が良く光る	市	を を を を で で で で で で で で で で で で で	軸足を少し斜めに一人住む ・神戸市 山地足を少し斜めに一人住む ・神戸市 白を恋う祭り囃子の真ん中で
	田		小	1000
	原	. 30	池	根川
	_	武	幸	弘 淑
	兆	臣	子	子 子
怠けたい心むち打ち菜園へ 炊事場が一番すきな友がいる 日に何度うかつな事がふえてくる	は歌し頚木取れたとメールくる 風が吹く気持ちはいつも謀反人風が吹く気持ちはいつも謀反人	では、 では我慢他人にみせない男泣きでは我慢他人にみせない男泣きでは我慢他人にみせない男泣きでは、 では我慢他人にみせない男泣きでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	日風あと日和最高背伸びする 川西市 日 日風あと日和最高背伸びする 長かった暑さ心身吐息する	加東市 岩であげて動きを見よう風呼ぼう であけて動きを見よう風呼ぼう をあけて動きを見よう風呼ぼう が畑草だらけ カーマー 安
	井	井	野岡	本 達
	ΝĽ	21	ILA	, Æ

和之

厚

健二

かほる

風呂 篠山市 石 H 久 子 孫が来て風の流れが渦を巻き

髪洗い棘ある言葉流しきる 幸せはここにもあったしまい

いい湯だな満月抱いて露天風 呂

うかつにも言った言葉で角が出る

篠山市 谷  $\mathbb{H}$ 

太陽と話して明日を待ってい る

幸せはゴーヤのすだれに見る朝 久し振り干した布団を入れ忘れ 八十六歳情熱はまだ胸にあり

H 篠山

市

井

水の乱愛が欠けたか海と空 天変地異狭い国土をどこまでも

行くとこがあるからおしゃれ考える

ぎりぎりになって出てくる底力

秋の田に携帯の声増えて来た おーいお茶勝手に飲めと言われそう 三田市

雑

賀

泉

ATM買って欲しいと孫ねだる

現役を終えて新たな風が吹く

この歳になっても物を溜めたがる

宝塚市

丸

Ш

孔

白を持ち黒の出方に身構える 想い出というがらくたが山と有る 杖をついて人生巻き戻し

老いはそれらしくといいきかせながら

夏の夜空に夢托し花火上げ

台風の目は列島がお気に入り

癪の種子どもが食べてくれました

要人のお出ましらしい人だかり わたくしのお供が好きな文庫

やり直す勇気は少し胸の奥

そのバスに乗らねばならぬ訳じゃない 旅立ちにこんなに高い空がある

着地点知らないままで飛んでい る

公園の子等を帰したにわか雨

歩きつつ探しています僕の運 おみくじをポックリ寺で引いてみる

元気です酸いも甘いも消化して

気は二十歳身は高齢の仲間入り

八十路でも恋の片鱗離れずで 円高で沈没しそう日本国

裏方の支えで光るスターたち

株

元

玲

子

自然の猛威に勝つ力がほしい

西宮市 泉

水 冴

子

兵庫県 Ŀ 田

口

兵庫県 Ш 不 動

前

弘

恵

尾畑なを江さん・谷川 憲さんの句は46頁にあります)

# 回想の「俺に似よ」

# ―― 麻生路郎読本を読みながら―

### 渡辺隆夫

などにオッタマゲたのでした。

柳出門も近い現況などをオマケに。 林本朱夏さんから送って貰った「麻生路郎読本」を読みながら、二十数年前の川柳入門読本」を読みながら、二十数年前の川柳入門

私の川柳入門は一九八八年一月、静岡市の私の川柳入門は一九八八年一月、静岡市のであった。墨作二郎氏とほど同年の大正生れであった。墨作二郎氏とほど同年の大正生れである。弟子どもの筆頭格・片岡玉虫や清水である。弟子どもの筆頭格・片岡玉虫や清水である。弟子どもの筆頭格・片岡玉虫や清水であるのではと期待していた私は、先輩(お姉あるのではと期待していた私は、先輩(お姉あるのではと期待していた私は、先輩(お姉かるのではと期待していた私は、先輩(お姉かびというか)というかというか、男人である。 「わだちの会」である。代表の石川重尾師はである。弟子どもの筆頭格・片岡玉虫や清水である。 一種であるから、どこか、女々しい所があるのではと期待していた私は、先輩(お姉かび)を、とえば、(キッと)

> 大門間もない四月句会に、私は(雨はげし 女は雨を見ておらず 父に似るなその日必ず 好であったが、「雨はげし」は重尾師に褒め られて有頂天になった。一方、「父に似るな」 は無点のノーコメント。その日は、玉野から は無点のノーコメント。その日は、玉野から は無点のノーコメント。その日は、玉野から は無点のノーコメント。とたんに、一同の中 いる」と発言があった。とたんに、一同の中 いる」と発言があった。とたんに、一切の中 に「そうそう」という頷きの声が聞こえた。

回の路郎読本でも確認した。等類だといわれ三十八才(大正15年)の作であることを、今三十八才(大正15年)の作であることを、今

私はオドロイて小さくなってしまった。

耳にしていた。 其はもったいないがだましよい)とか はまるはずもな がさましまい)とか はまるはずもな がだましよい)とか はまるはずもな ががだましよい)とか はまるはずもな ががだましよい)とか はまるはずもな ががだましよい)とか はまるはずもな ががだましよい)とか はまるはずもな ががだましよい)とか はまるはずもな がら、 でとえば、 神多留の はい。 はい。 といった にさい。 にが、 にいる。 にいる。

は、この辺の気分を引きずって作句したのか四月句会の「雨はげし」や「父に似るな」

大のだが……。 とのにがが……。 とのだが……。 といったがにない。当時、身の回りのコトバを手当も知れない。当時、身の回りのコトバを手当も知れない。当時、身の回りのコトバを手当も知れない。当時、身の回りのコトバを手当も知れない。当時、身の回りのコトバを手当も知れない。当時、身の回りのコトバを手当

転居した。結婚して神奈川に住む息子一家や定年を機に大津を引き揚げ、現在の大磯に

母や弟妹とも近い位置というわけ。一方、完母や弟妹とも近い位置と、柳俳を問わず飛び回句会、こっちの句会と、柳俳を問わず飛び回句会、こっちの句会と、柳俳を問わず飛び回った。現在、私のような老人も収容する小さった。現在、私のような老人も収容する小さな俳句会に通っている。その一つ、「火の会と無職の自由を得てしまった。

代表はらふ亜沙弥。年令8歳くらいの美人。本名は西田秀子。ご存知、西田当百のひ孫の本名は西田秀子。ご存知、西田当百のひ孫のない。今回、麻生路郎の年譜をみると、「一ない。今回、麻生路郎の年譜をみると、「一ない。今回、麻生路郎の年譜をみると、「一ない。今回、麻生路郎の年譜をみると、「一ない。今回、麻生路郎の年譜をみると、「一ない。今回、麻生路郎の年書をみると、「一ない。」という。

とオコラレル。「あんたを呼んだのは面白いとオコラレル。「あんたを呼んだのは面白いれが俳句の新人(初心者)のような句を出すを表誌や句集等は各自勝手にどうぞ。新人は発表誌や句集等は各自勝手にどうぞ。新人は発表は人を代表がアチコチから拾ってくる。ある俳人を代表がアチコチから拾ってくる。

句会の途中から飲み始め、夕刻・閉会時に句を作るからよ」とバッサリ。

娘一家を監視する一方で、三島に住む家内の

面白、可と要求する。非可であるうが、川卯石中、可と要求する。非可であるが、人な、本格的に飲み屋へ。元気な人は、されから、本格的に飲み屋へ。元気な人は、されから、本格的に飲み屋へ。元気な人は、さは、かなり、出来上っている。もちろん、そは、かなり、出来上っている。もちろん、そ

和を句会に呼んでくれる俳人は、みんな、私を句会に呼んでくれる俳人は、みんな、であろうが、一向に頓着しない。とにかく、であろうが、一向に頓着しない。とにかく、方を出して笑えるような面白い句に出合いたかったアゲクの最后の花火見物がしたいといったアゲクの最后の花火見物がしたいといったアゲクの最后の花火見物がしたいといった。あとは、看護婦さんの手を握ったり摩ったりしながら、楽しくオサラバしたいのさ」。

### 渡辺隆夫 プロフィール

の馬」「都鳥」「亀れおん」「黄泉蛙」「魚の馬」「都鳥」「亀れおん」「黄泉蛙」「魚の馬」「小り」「点鐘」会員。 句集に「宅配い口)」「点鐘」 会員。 句集に「宅配い」「がった。

# 哈まつり

### 会

0

報告」に沿い、各部別に整理して報告した。 で開催された。総務部水野黒兎の司会で開会 十月十日午前十時からホテルアウィーナ大阪 から具体的な事業活動を、後記の「事業活動 に小島蘭辛主幹を選任して議案審議に入った。 第一号議案の事業活動は村上直樹常任理事 、小島蘭幸主幹が開会の挨拶、その後議長 平成二十三年度第49期川柳塔社同人総会は

・1000号大会を記念して「麻生路郎読本 毎月の川柳塔誌を遅滞なく発刊したほか、 が発行された。

・路郎イズムの啓蒙を諮りつつ、新連載を開 特集号に注力し内容の充実を図った。 始、好評である。

1000号記念大会を各位各方面の協力を 得て無事開催できた。

川柳塔誌別冊「同人名簿」最新版を発行。 本社句会の開催時間について、参加人数、 毎月昼間開催に変更することにした。 支出などの観点から平成二十四年四月以降、

第22回大阪川柳大会(平成22年11月)へ誌 友・同人多数参加した。

支出の無駄を省き会計の健全化に努めた。

塔誌販売店の増強に努め、現在5店。

同人・誌友の名簿の管理に努め、広告の手 ールに対応した。 配など充実を図り、 海外の会員等からのメ

監査が監査承認の旨を報告した。 支計決算報告収・財産目録を提示して201 1年の会計決算報告を行った。 西村哲夫会計 次いで山口光久常任理事が2011年の収 号議案は拍手で承認された。

され、会議全般に 光久氏が新年度予 された。また山口について補足説明 誌上大会の新企画 年度の事業につい 12 つき質疑応答を行 算案を提案した。 の川柳塔まつり・ らに理事長より春 動計画を提案、 事から各部別に活 て村上直樹常任理

> り、小島主幹より検討すると回答。また小澤 て質問があり、理事長より回答された。 幸泉氏より各地代表者・役員拡大会議につい 家完司氏の著作「川柳の理論と実践」などは 川柳塔栄誉賞」に値すると表彰の提案があ 岩崎公誠氏より「麻生路郎読本」の発刊や新

員の新任、再任人事が提示され拍手をもって 承認された。新任役員者名は後掲。 第三号議案として、西出楓楽理事長より役

木本新副理事長の閉会の辞で総会を終了した。 最後に鶴田遠野新副理事長の挨拶があり、

事業活動報告 2010 (平成22) 年

10月9日 第16回川柳塔まつり(川柳雑誌 川柳塔通巻1000号記念川柳大 会、参加者517名) 及び

11月6日 平成22年度同人総会開催 川柳塔碑合祀法要(高野山大霊園

3~5月 1000号記念大会に向け同人・ 等に協力要請を行い参加意識の高 誌友をはじめ他柳社・各地川柳会 合祀者8名、合計16名参加)

【主な受賞・表彰】

揚を図った

松尾和香 二宅保州 社全日本川柳協会10年連続出 本社句会 月間賞杯永久保持者 席者顕彰

一号議案も承認

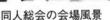
鈴木公弘 大橋政良 社全日本川柳協会 社全日本川柳協会8歳以上の功労

### 【出版・句集の刊行】 実行委員長として感謝状

(9名)

川柳とんだばやし 創立の周年記念合同句集 麻生路郎読本出版委員会(乗原道夫ほか) 『風の詩』 『麻生路郎読本』 川柳句集『風のたわごと』

そうりゅう会 合同句集『そうりゅう その六』 北野哲男 井上勝視 林さだき 滕井則彦 正和 新葉館川柳作家叢書 『川柳の理論と実践 新葉館川柳作家叢書 川柳エッセイ集『道程』 川柳句集『ポコ・ア・ポコ』 懐古句集『茹で蛙』 遺句集『よしきり 北野哲男



中村れんげ 相談役 新任役員 笛生 利武 久 三 男 順風 村上 再任・留任は含まず 平成22年6月23日没 玄也 23年5月16日没 23年4月30日没 22年12月10日没 22年9月26日没 22年8月27日没 23年3月20日没 23年2月15日没 22年10月1日没 91 91 93 88 80 85 89 72 77 歳歳歳歳歳歳歳歳歳歳歳歳

副理事長 常任理事 足立 片山かずお 滕岡りこ 朱夏 鈴木いさお ふみ 芳山

柏原 ■新同人 吉井菜々子 芳山 夕湖 (鳥取県) (鳥取県) (和歌山市) (和歌山市) (米子市) (22年8月~23年7月) 西宮市 (松江市) 山室 竹村紀の治 生嶋ますみ(八尾市 遊子(鳥取市 (米子市) (茨木市) (大阪市 (鳥取県 (米子市 (鳥取市) 奈良市

米田泰昌

滕井正雄

七反田順子 山岡富美子

加門萌子 浅野房子

遠山 島田千鶴子 市 (順不同 玲子 (倉吉市 06名

北村賢子 北野哲男 黒田能子 岩切康子 長井善純 米澤俶子 西出楓楽 山崎武彦 籠島恵子 板尾岳人 笠嶋惠美 小林わこ 河井庸佑 山田耕治 杉本義昭 村上直樹 松尾和香 柿花和夫 大内朝子 山本柳昌 山口光久 江見見清 都倉求芽 岩崎公誠 山田葉子 新家完司 前たもつ 上田紀子 榎本舞夢 藤岡りこ 佐々木満作 緒方美津子 鈴木いさお 森松まつお 宮崎シマ子 指宿千枝子 岩佐ダン吉 片山かずお 江島谷勝弘 奥田みつ子 榎本日の出 上垣キヨミ 太田扶美代

井丸昌紀 牧野芳光 三宅保州 坊農柳弘 森山盛桜 果田久子 **森村美花** 伊達郁夫 安土理恵 鈴木公弘 長浜美籠 桝本宏子 川端一歩 不本朱夏 森本弘風 松原寿子 小澤幸泉 鶴田遠野 西内朋月 両川無限 西村哲夫 福永ひかり 原田すみ子 鴨谷瑠美子 山本希久子 冨山ルイ子 松尾美智代 **后**谷真理子

# R・Hブライス(88~194)

らの日本語への翻訳は非常に少なく、さらに

彼の著書はほぼ全て英語で書かれ、それ

### と川柳

### 吉 村 侑久代岐阜保健短期大学

ンに較べて日本ではあまり知られていませどの業績がありますが、ラフカディオ・ハーをの長きにわたり、禅・俳句・川柳研究者、年の長きにわたり、禅・俳句・川柳研究者、ばれる英国人R・Hブライスは、日本在住40ばれる英国人R・Hブライスは、日本在住40ばれる英国人R・Hブライスは、日本在住40ばれる英国人R・Hブライスは、日本在住40はれる英国人R・Hブライスは、日本をはいません。



吉 村 侑久代氏

俳句が句を数えます。川柳の翻訳数が俳句よ あったと思われます。 り则句以上多いことは、 た。俳句と川柳の翻訳は、川柳の英訳宛句、 倒し、特に鈴木大拙の禅書に影響を受けまし 金沢の第四高等学校、さらに戦後の学習院で 前の京城帝国大学予科、京城高等商業学校 生まれ、昭和39年、66歳の時に東京で没しま を出版したプライスの功績と云えましょう。 年後半にかけて、多くの俳句や川柳の翻訳書 とする通信機器の発達でグローバル化が進 教鞭をとりました。京城時代に俳句と禅に傾 した。大正13年、26歳で来日し、太平洋戦争 でいます。この世界的普及は戦前から昭和30 み、海外の詩人が創作俳句や川柳に取り組ん の読者を遠ざけていたと思われます。 俳句・川柳観における禅仏教への傾斜が日本 ブライスは明治31年、英国エセックス州に 俳句・川柳はインターネットをはじめ 川柳への強い関心が

「自己の内的世界」を表現しようとしました。る学生用の英文学概論などを媒介として、影響をうけた禅の解説、専門の英文学におけブライスは俳句・川柳の翻訳、鈴木大拙の

成概念を揺すぶります。

ブライスらしい解説を披露して、私たちの既 神は妊婦を破壊し給うのです」と、如何にも 不条理です。われわれは孕んでいる蚤を潰し、 絶えず見聞し経験することです。人生は時に きたとは気持ちの良い出来事ではありませ 上で、真に宗教的です。蚤を潰すと卵が出て 居り」を、「この川柳に漂う無常観は俳句以 花坊の川柳である「肥りたる蚤を潰せば孕み 語っています。ブライスの川柳の解説は、 しかしこのような出来事は私たちの生活では 本人にはないユニークなものです。例えば剣 の創作には意味を見いださなかったことを物 柳の一句のみであることは、ブライスが自己 句と合わせて二句、そして最近発見された川 ている彼の作品が京城時代の一句、辞世句 作業に挑戦したのです。例えば、現在知られ 文芸を通して自己表現を試みるという困難な 化)することによって自己の内的世界を表現 における詩歌をアナロジー化(相似化・類推 ん。川柳作家以外では題材にしないでしょう。 したのです。つまりブライスは日本の短詩型 を英語に翻訳して解説し、さらに英語圏文化 己表現をするのではなく、日本の俳句や川柳 日本語や英語による創作俳句・創作川柳で自

# 各賞表彰・記念句会

夫・芳光・主幹・孝子・真澄 後列右から、寿之・幹子・冨美子・かずお (敬称略) — 前列右から、 真由·郁



主幹を囲む晴れの六賞受賞者

が、華やかな会場を一層明るくした。 それぞれの受賞者には主幹から表彰状と記念 人誌友のみならず、他柳社からもたくさんお 七回川柳塔まつりが開催された。出席者は、 金屛風を背にした受賞者の晴れやかな笑顔 の盾が手渡され、所属の吟社から花束が贈呈 蘭幸王幹の挨拶のあと、六賞の表彰式に移る。 いでいただき、35人の大盛会となった。 地元は勿論、遠路はるばる東から西から、同 定刻の一時、楓楽理事長の開会の辞に続き、 爽やかな秋晴れに恵まれた十月十日、第十

強く初々しく抱負と決意を述べた。 確な説明に深く感銘を受けた。 岐阜保険短期大学教授の吉村侑久代氏による R・H・ブライスと川柳」と題した興味深 お話は、R・H・ブライス研究者であり、 月間賞は木本朱夏さん(和歌山市 司会(長井善純、桝本宏子) 良く整理されたレジメに添った明 (76頁参照)



兼題 「勢 5

内弁慶飲むと勢い止まらない 菊地 政勝

選

勢いで決めた夫とまだ続く

勢いのあるうち墓を建てておく 我が家にも馴染んだ嫁の酔いっ振り 勢いが余りはみ出た言葉尻 いい縁は勢いつけて実を結ぶ

白寿でも勢いのある母の筆 三次会勢いだけで押しかける

威勢よくだんじり担ぐ茶髪連 勢いと弾みで妻を呼び捨てる

整列し、一人一人の名前が、鶴田遠野誌友部

の15名が登場。若干緊張した足どりで正面に

引き続き、本年度の新同人のうち出席

長から紹介され、代表して吉井菜々子氏が力

勢いがつきすぎ後に戻れない 駄馬だって疾走をする妻のムチ

航太郎

民衆の愚痴にネットが加勢する

勢いがすっかり抜けた二日酔い 万里一空琴奨菊のがぶり寄り 勢いで君を守ると口走る

あかね

百点の答案持って駆けてくる 司

ダース妻よ僕の子産んでくれ

脇取り(真理子・恵子・扶美代

(勝弘・まつお)撮影 (茂

勢いに乗りすぎ梯子はずされる おだてるとパワー全開する夫

だんじりの威勢にもらう心意気 胎動の子の勢いを聞いてやる 寅さんの啖呵はつむじ風を呼ぶ 勢いのついた噂が飛んで行く 婚活に勢いの減る子を案じ 筆勢に未だ秘めてる傘寿の書 青春の勢い怖いものはない 憤懣を爆発させたコップ酒 勢いのある奴名刺まで光る ダンジリの勢い女の身が口惜し 勢いについ頷いた若かった 酒の勢い借りて大きなことを言う 終章へ跳ぶ勢いは残しとく 水槽で元気に跳ねていた刺身 勢いにのって梯子を踏み外す やせたので勢いついた顔の皺 男には負けぬなにわのギャルミコシ 勢いの失せた夫は九時に寝る 間歇泉のような男を持て余す 勢いはもう止まらない昼の酒 生前葬まだ勢いのあるうちに 勢いで受けてしまったプロポーズ 復興に弾みをつける大漁権 仲裁をすると勢いづく喧嘩 ナデシコの勢い国を盛り上げる 言うのなら酒の勢いあるうちに (沢)和 たもつ 恵美子 シマ子 玄 満子 たえこ すみ子 美智代 月 子 宏

勢いで登った富士の御来迎 勢いのある方に向く羅針盤 勢いで燃えてた頃の酒の量 勢いのある嫁が来て寝ておれぬ

勢いのある字だ墨が生きている

(西)

子

平均値の辺りで今日も四股を踏

格差社会もう中流は死語なのか 容赦なくばっさり棄てるピンとキリ

渡富 子

足して二で割った我家の暮らし向き

久美子

たかこ

セツ子

平均値に安堵小物のまま終り

背伸びをしてもドングリはどんぐりだ

航太郎

久

楠富 好 子

寿子 ダン吉

> 平均的数値の中で溺れてる 平均寿命越えた辺りで立ち泳ぎ ヤングママ平均台でする育児

美智子

つりあいがとれているよでとれぬ仲 割勘に不満を残す下戸の顔

賞味期限されて勢い急落下 多数派の勢いちらと見た不安 反論をする勢いが毬になる 相槌に愚痴が勢いづいてくる 勢いで啖呵を切った後始末

平均に伸びているのは貝割菜 平均点に安堵している落とし穴

マジシャンが平均的に飛ばす鳩

勢いがあると運まで付いてくる

勢いで上げた拳が下ろせない

IE.

彦

平均で頼む私のお葬式

美しく咲くコスモスの赤と白

出る幕のない勢いを持て余す

石美恵子

ライバルを視野に捉えて血がたぎる

兼題

平

均

口だけが平均よりも上回り 足して二で割ればノロマもせっかちも

倉益 一揺 すみ子 いさお 選

平均を想定外がハネ上げる 花道を平均台の足取りで 東大の子を平均の母が産む 平均値だった亭主が物申す どんぐりのひとつ愚かなフライング 酒と女で平均寿命越えられぬ 紅をさすやっと私の平均値

菜々子 ほのか いわゑ 千津子 みゆき 好

平均点以下の夫婦でよく笑う 平均でいいまっすぐな木になろう 野次郎兵衛に頼んでいます平均値

恵美子 志華子

平均気温上がり世界が揺れている 平均を越せと三三七拍子 平均になれぬ夫婦のやじろべえ 平均的に配る善意が届かない 平均台の妖精神のシルエット 味噌おでん平均寿命など知らず デコとボコ釣合とれて仲がいい 平均に枯れる五体が愛おしい どん尻もナンバーワンもあり平和 中流の下です文句ありますか 寝て食べて愚痴っています笑ろてます 平均のくらしを癒す般若湯 平均のくらしふんわりパンが焼け 割り勘と聞いて飲み助ピッチ上げ だし巻きのどこを切っても好きな味 平均値妙に納得する数字 蓄えはいつも平均以下ですわ 足して二で割った暮らしにある平和 可と不可の真ん中辺で咲いている ランチ代平均するとワンコイン 肩寄せて並のお肉を買っていく 太陽の恩恵平等に平均に 五十年平均二合酒の量 今日もまた平均台の上を行く 人並みがよろし卵とお味噌汁 どこにでもいる爺さんになってきた (前) 石美恵子 みつこ ひかり 留里恵 孝 美津子 かずお 金 枝 治 司 司

平均台の上で揺れてる愛と憎 幸せは平均的な位置にいる 中流のその真ん中で眠り癖 ヴィーナスの五体に僅かずつ劣る 平均値越えた胡瓜ははねられる 人並みというモノサシで追い詰める 兼題 積 む たもつ あきこ 盛 蘭 桜 幸 限



・ 佐藤 古拙

積んでいった石を鬼に壊される どのくらい積んだらOKしてくれる こだわりの庭へ積んでる大理石 城壁に氏名不詳でいる小石 恋はいま佳境ハートのコイン積む 力学はさて置き土嚢を積みなさい 幕引きのお金はチャンと積んである 下積みの汗がじわじわ光りだす 美辞麗句積んで空しくなるばかり 徳積んでつんで阿修羅と対峙する ノアの舟食べたいものを積んでいる 千代美 紀ノ冶 ダン吉 正 郁 枝 冶

栗久

コンテナの中はガラガラかも知れぬ母にまだ届かぬ石を積んでいる微妙にズレてます人生の積木微妙にズレてます人生の積木のでがまま埃プラトンもカントも積んだまま埃がある。

キヨミ

四億も積まれりゃボクも貝になる 足跡を積むと背丈が見えてくる 愚も徳も賽の河原で積んでいる 経験を積むほどさぼり癖もつく 女の城でタンス預金を積み立てる 丸いものは積めぬ四角なら積める ブロックを積んで隣りを遠くする 徳積んでつんでドングリから抜ける 懺悔録いっぱい積んだ冬の貨車 降り積る雪は邪心を寄せつけぬ 積木くずしがとても上手な三代目 神さまの都合で積んである明日 札束を積まれたら異議ありません 積めるだけ積んだ本から僕の秋 経験を積んでだるまは起上る 還らない木霊へ懺悔積んでいる 積んどくの中に内緒の本もある 捨てたのにまた新しい恋を積む わたくしを守る土嚢を積んでいる ゴミ置きにモッタイナイが積んである 夢いくつ積んでは崩し冬支度 秋になり積んでみました入門書 備富 まつお 美和子 柳右子 あきこ 遊 弧 宏

不幸詫びせめて石積む恐山 積み残しばかりしてきた父の貨車 積み上げた過去をポロポロこぼし秋 罪いくつ積めば気が済むおぼろ月 積みあげた目玉商品だけ売れた 亡父と来たこの山頂にケルン積む 練習を積んで本番ではとちり 儲かりまっかほちほちでんな言うて溜め 逝く時は笑い袋を積んでおく 終電がベンチの影を積み残す 新藁を積んでカカシもほっとする くずされてまた積み直す砂の城 舞台裏踏み潰された名セリフ 飾いさお 竜之介 みゆき あかね 央



### 兼題 「気くばり」

### 選

こまやかな気くばり皿に盛ってある 気くばりをするもされるもある疲れ 隣席は坐れるように空けておく 気くばりが過ぎて人から嫌われる 気くばりは万全でくつ下の穴 朝早く音をたてずに出かけます 険悪なムードへ有難いジョーク 気くばりが過ぎてこわれたシャボン玉 気くばりは語らず習う母の背な 手作りの栞も添えた本借りる 背もたれになってあげたい人がいる 招かれた家にお香が匂い立つ お互いに時々惚けた振りをする お疲れに温いポタージュ召しあがれ 気くばりも寸志ぐらいが丁度よい (権)富 (限登志子 まつお アヤ子 菜々子 妙 ふりこ 子

年金を積みつつバベルの塔おもう 積み上げた底を流れるヨイトマケ 自転車の荷台に積んでいる昭和 朱 晴 卓 夏 抱きしめてただ抱きしめて朝を待つ お見舞いは笑顔を見せてすぐ帰る 気くばりのお土産渡すタイミング 玄関もトイレも花が活けている いらんことするなと父はまだ元気 ファスナーが開いてますよとさり気なく 気くばりは心の溝を埋めてゆく

ひとみ あかね

そっとしておく気配りもあるのです

あきこ

瑠里恵

窓口に老眼鏡が置いてある 気くばりのいらぬ空気となった妻

座布団がひっそりと待つ無人駅

一を開き十を悟った母の膝

挫折感積んで男の顔になる

積み上げた瓦礫の先に青い海 明日また続きを積もう寝るとする 懲りもせずバベルの塔を今も積む 核積んでヒト科地球をわやにする

(永)

みつこ 花

城

和

骨を積む富士山よりも高く積む

叱るより黙ってくれたにぎりめし さり気ない気くばり母の振るタクト おトイレに入ればふたがさっと開く 塩の利く気くばり義母にほめられる 気くばりに神も疲れている四月 これからはスローライフが良さそうだ 今日もまたピエロの役をしてしまう お出掛けへ白いハンカチそっと出す 少し手の届くあたりがよいお世話 節介は要らぬひとりの風が好き たくあんに隠し包丁した切り目 気くばりも時には重くのしかかる 何よりの気配りそっとしてあげる 気くばりが心の傷に触れている 関白でいさせてくれてありがとう 気くばりが過ぎて寄り道ばかりする 気くばりにさらりと響く思いやり 気くばりも相手変わればお節介 気配りのお互い様は心地よい 気くばりと見せずゆったり感がある 気くばりも気づかれぬよう気をくばり 神お疲れか気くばりをなさらない (田)章 (株) 久美子 克 扶美代 あかり いわゑ 文

なぐさめようなくて無口になっている 何も聞かず翼で抱いてくれました 竜之介 千代美

ズームインみんな綺麗な女ばかり

そっとしておいてあげよう家族葬 新聞が溜まって声を掛けられる 輪の中に入れない子に声をかけ 見る人はなくても四季の花が咲く 気くばりの嘘と思うがありがとう (岸)孝 みゆき

折り折りの花で仏を喜ばす

朱

夏

子

気くばりを背中合せで感じ合う

葉

子

気くばりの花がひっそり咲いている お互いの気くばり弱点には触れぬ 栗久



兼題 アップ

村上 玄也

アップテンポに遅れています手も足も 重力に逆らいアップさせる肉 上限は知らぬ体重計も秋 口角アップきっと幸運掴みとる すみ子

リストアップあやしいとこに顔が出る

ちかし

円高の行方が見えて来ぬ焦り

うれしい日テンション上がる声響く 収穫のアップふっくら炊きあがり ギブアップしたのは呑ませた男の方 ギブアップと洩らし軽薄さに疼く タイムアップするまで夢を食べまくる 思い切りアップテンポで逃げた恋 傘寿からギブアップした免許証 関節は誰にも負けぬ登り坂 お隣はアップテンポの痴話ケンカ (石)美恵子 たえこ 志華子 ばっは 矢

持ち上げて男トコトン働かす クローズアップされてガラスの靴を履く ギブアップしない二人の無言劇 ブログアップ腸までもさらけ出す 黙々とバックアップに黒衣耐え 黒枠にアップで残すお気に入り アップなどするから裏が透けてくる 小遣いアップへ妻とかけひきしています かずお 敏 宜 明 子.

子

星たちが秋のアップで降りそそん 相談するたびに薬が増えてくる アップする度に私が小さくなる 値上りの野菜が偉そうに並ぶ アップテンポ舌が縺れて歌えない 皺見せぬ安いカメラで撮るアップ 下車駅でメークアップが終ります 名案がタイムアップのあとで湧き 飾いさお

> 押し上げてバストアップの若作り 声かけてみようかアップしたうなじ 終幕はアップテンポの紙吹雪 年金が減ると離婚もギブアップ バックアップ付いたか急に出る強気 ズームアップ隠れた本音見えてきた お喋りはパワーアップの充電器 欲の無い顔がアップに耐えている ヘアアップ鼻唄で出る美容院 髪アップ怪しきまでのうなじ見せ (併) キヨミ

ドレスアップしても同じシルエット せめて下戸はお茶をグレードアップする お見合いへイメージアップする笑顔 よく笑い食べて運気をアップする 歳かいなアップテンポに膝笑う 髪型もアップ就活秋の陣 (楠)章

ズームアップ私の皺がうろたえる 婚活へちょっと上げ底しています アップならこのアングルと大女優 百歳の素顔はアップにも耐える 議論伯仲タイムアップの鍋の底 航太郎 すみえ 富美子

バンザイじゃホールドアップではないぞ

値を上げるたびに禁煙誓わされ グレードアップいま晩学の華の中

ズームアップ全体像がほやけてる 柾 子

アップしたうなじへ風がきて誘う 朱 夏

真っ直ぐな道を愚直に生きている

哲学の道へ迷いを捨てにい

道しるべ立てて未来を子に託す

舞い込んだハガキに道を決められる 道はるかあしたのジョーが蹲る 飴色のあかりが灯る老母の道

いい道だ人間らしく曲がってる

真理子

一本道でまごついてばかりいる

自画像をアップにすると夜叉になる 幹 子

ウォームアップ足りないアナがよくとちる

どの道を行っても落とし穴がある 授かった命でオンリーワンの道 生きて来た小径に僕の城がある

央



### 兼題 道

原発廃止道はどんなに遠くても

里の駅ゆるり一本道くだる 手探りでさがすオンリーワンの道 真っ直ぐな父の轍は裏切らぬ 迷い道五欲背負うて抜け出せぬ ふるさとを思い出させる萩の道

福ひかり

いわゑ

生前葬済ましてからの遍路みち

シマ子

片道切符握った空は青かった 脱線をした跡がある父の道 **道祖神おわしますかなハイウェ** 八様の花道作る役が好き みつこ

回り道寄り道今日も探しもの

(吉)寿

プライドを捨てたら道が見えてきた 雅

筋の道を極める父の繋

こぼれ話が道いっぱい落ちている 抜け道が母の地図にはあるらしい あの世への道は振り返らずに行く 消却法で選んだ道に妻がいる 6Bで私の道をまっしぐら

道はまだ遥かわたしはもう米寿 雪月花道はまっすぐ歩きたい 抜け道も迂回路もないボクの地図 日常がわたしの道になってゆく 十五夜を缶コーヒーと回り道 瑠美子 子

人の世は静かにあれと雪の道 道の花束になまんだぶなまんだぶ 曲 眸

代

ボランティア人生変えた道しるべ 請美智子 知 子 子

> 我が国に欲しい大きな道しるべ 道草が教えてくれた小宇宙 ベンツは家に置き歩行者天国 いいことありそう姉が道を掃いている

和 竜之介

宏

体内にわたくしだけの道がある

未延子

ふり返るずい分助けられている

ダン吉

笑う程泣いたので真っ直ぐ進む 迷い道いま原点に立っている **息継ぎを教えてくれた道の駅** 義援金の行方を探す蟻の群れ

菜々子 千円札拾った道は忘れない 足跡に夢の欠片が散るばかり

道草が好きではぐれたのは仔猫

本の道ふるさとへ空けてある

試されている坂道がまだ続く

帰る道忘れた母とわらべ歌 明日へと続くわたしの好きな道

ほんやりと私の道が見えてきた ひとみ 美智代

俶 子

あんなにも嫌った姑の道を行く

良

道草をして雑学を積み上げる

天

みちのくの祈りへつづく道がある

木本朱夏

雑沓を抜けると曼珠沙華の道

どの道を行けばあなたに逢えますか

82

あかね 美津子

### 前川千津子(ふあうすと)

だきました。 います。秋の一日を有意義に過ごさせていた 第17回川柳塔まつりご盛会おめでとうござ

載いただければ幸いです。 ています。お話いただいた要旨、 生のご研究を知らずにいたこと、 H・ブライス研究者、岐阜保健短期大学教授 吉村侑久代先生のご講演を拝聴、 今も先生の凛としたお声が心に残っていま なかでも「R・H・プライスと川柳」 次号へご掲 私自身、 顔を赤くし R

### 正明 (番傘川柳本社

あとつくづく思う。 かの「川柳塔まつり」だが、やっぱりいいな が私を温かく迎えてくれた気がした。 溢れていた。久しぶりに会う顔、 早めに着いた一アウィーナ」もすでに人で 充実の一日 顔、 何回日

会ムードに酔い痴れ、隣り合せた初対面の高 ったが、そんなことはどうでもよかった。句 表彰者、新同人の緊張した顔が心に残る。 人選句披講は見事に私の句をすり抜けてい

> 知の人ともすっかり打ち解け、話は尽きなか った。充実の秋の一日であった。



### 主幹を囲む新同人

### 山﨑 川柳塔まつりに参加して 武彦 (同人・兵庫

ことをまずはお慶び申し上げます。 も、和気あいあいの雰囲気で無事終了できた の参加者を得て盛大且つ熱気溢れるなかに 抜けるような秋晴れにも恵まれ、35名×10

杯です。ありがとうございました。 た関係者各位には、ただ感謝、感謝の念で ッフ先生四名、総勢十一名で参加しました。 この日のために、早くから計画、 六甲川柳会では、メダカの仲間七名とスタ 準備され

ます。 員の方々と川柳談義、色々勉強させて頂き 有意義な一日であったと感謝しています。 これからも川柳塔の益々の繁栄を願ってい お陰様で、懇親会のあとの二次会では、役

### (同人・鳥取

面が多かったので、句箋番号を読み上げた方 と聞き取りにくい。間違いや名乗られない場 が良かったのかも…とか考えさせられました。 時間に余裕があれば…と思いました。 で七百句を選されるのは大変、もう少し選句 で狭く感じられました。連記とはいえ短時間 選者ごとにマイクの高さ角度を調節しない 参加者三七五ということで広い会場も熱気 川柳塔まつり感想

### 前田 孝子(同人・鳥取

# 川柳塔まつり」に参加して

ら感謝申し上げます。おまけに二句抜いてい して川柳をたしなんだ事、日本の心を知らな 日本川柳に興味を持ち、健康の為の栄養素と ただきありがとうございました。 ただきました。イギリス生まれのブライスが した事、心から素晴らしい事と思います。 いと出来ないと思います。それを海外に普及 川柳塔まつりに、今回参加出来たこと心か 吉村先生のお話、大変興味深く聴かせてい 保州(理事·和歌山

### まつり参加記

謝に耐えません。 ち出され、その積極的な取り組みに心強く感 慮された「誌上大会」が新設されることが打 会では、役員体制の充実と、遠隔者等にも配 号記念大会の熱気が継続する塔社の勢いを肌 で感じました。そのことの証のように同人総 あまりの盛況に会場が手狭なことと、 三七五名の参加者という盛況は、昨年の千

> 松田 (誌友・大阪

習わしの様、不思議な感じがする。 まつり。司会の善純さんの美声で大会は始ま ていたが、川柳界では名前をさんづけで呼ぶ った。私はてっきり吉住さんという姓と思っ 昨年と打って変わった秋晴れの中の川柳塔

準備は大変だったと思う。皆様に、感謝した さすが、プロだと感心した。その後遠方の選 く過ごすことができたが、ここに至るまでの 者の先生を迎えての記念句会、賑やかに楽し 吉村先生の講演は一時間で締めくくられ、

### 懇 親 宴

すみさんの歌ったシャンソン「雨」。二十三 をうち歓談がはずむ中、いよいよお楽しみの 三階「葛城の間」に場所を移し29名の参加で 目を集めたのは、川柳コロキュウム・赤松ま の競演が繰りひろげられた。中でもとくに注 カラオケ大会。いずれ劣らぬのど自慢の面々 局長・本田智彦氏の音頭で乾杯。料理に舌鼓 完司副主幹の開会挨拶につづき、日川協事務 開催された。 司会進行は、坊農柳弘・鴨谷瑠美子。新家 懇親宴は句会の熱気が未だ冷めやらぬ中、

入選

た「星影のワルツ」を全員手を繋ぎ輪になっ よる「貝殻節」へとつづく。これには番傘幹 は、青森から駆け付けた、福士慕情氏による せた本田智彦氏の「大利根月夜」等々。後半 た「トキオの花唄」、オレ流の独特の節まわ て大合唱し、宴に幕を下ろした。 島蘭幸主幹も合流、フィナーレは恒例となっ つづく頃には、番傘主幹・礒野いさむ氏、 は最高潮。「鐘の鳴る丘」「河内おとこ節」と 事長・田中新一氏も踊りに加わって盛り上り 詩吟の朗詠から、新家完司副主幹のリードに しで歌う山口光久氏の「孫」、渋い喉で聞か 歳の新誌友・市川雄太クンが若さを爆発させ

(いさお記)

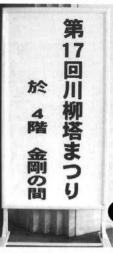
りします。ありがとうございました。 に、川柳塔社の弥栄と、塔人のご活躍をお祈 されないかが心残りでした。

麻生路郎師の「生命ある句を創れ」を命題

率が低くて初心者等が参加を渋ることが加速



記念句会の会場風景





楓楽理事長の挨拶



蘭幸主幹の挨拶



表彰楯





水野黒兎氏



新同人の挨拶



### 懇 親 宴





最年少新誌友です



田中新一氏・赤松ますみさん



伊達郁夫氏・礒野いさむ氏



# 柳大会参加者(順不同・敬称略)

【青春】 佐藤古拙福

【愛知】金子美千代早川遡行【横浜】菊地政勝

都倉求芽 西村益子 藤井文代 前中知栄(京都) 奥山晴生 櫻崎篤子 高島啓子【滋賀】 石橋能里子 久保和友

磯本洋一 井伊東吉 油谷克己 天根夢草 浅野房子 市川雄太 三宅満子 森子 山田葉子 板尾岳人 石橋優明 井澤壽峰 安達忠央 阿野寿美子 秋田あかり 赤松ますみ 石田ひろ子

大川桃花 榎本舞夢 岩崎玲子 今田和宏 梶原弘光 籠島恵子 海老池洋 入江秀雄 井丸昌紀 大谷篤子 荻野浩子 笠井欣子 奥村五月 大隅克博 江見見清 岩崎公誠 河内月子 加島由一 上山堅坊 大堀正明 榎本日の出 江島谷勝弘 宇都宮ちづる 岩佐ダン吉 指宿千枝子 井上じろう 伊藤アヤ子 礒野いさむ

中島華

西川玲子

西出楓楽中野健吾

西美和子西川更紗

鈴木いさお

小林

小山紀乃

七反田順子

広岡栄二

藤田武人

福田悦子

大島美智代

堀田温子

津田シルク 高田美代子 高田美代子

杉本義昭 河野彦次 初代正彦 佐藤忠昭 吉川寿美 黒川孤遊 関よしみ 坂上淳司 小林わこ 吉川哲矢 志田千代 澤井敏治 桒原道夫 島田誠一 田浦 沢田和子 栗田久子 裕之 片山かずお 久保田半蔵門 木見谷孝代 鴨谷瑠美子 小栢こずる 太田扶美代 太田としお

寺井弘子 谷口 土田欣之 長井善純 内藤光枝 栃尾奏子 谷川生枝 竹森雀舎 伊達郁夫 田中新 髙杉千歩 鳥居 寺川弘一 中井アキ 水井玲子 津守柳伸 升後 屋 肇 遠山唯教 中岡 出中 中川隆充 内藤憲彦 鶴田遠野 次井義泰 谷久美子 竹村穏夫 神野千恵子 島田千鶴子 佐々木満作 柴本ばっは 阪井美世子 齋藤さくら 小寺竜之介 古今堂蕉子 桑田ゆきの

> 米田水昇 吉岡 森田 松岡 米澤俶子 安田忠子 村上玄也 前田紀雄 吉木栄子 若松雅枝 森本弘風 吉川弘泰 山本蛙城 村上直樹 松田 兀永雅子 丽原正美 平嶋美智子 山本半銭 **詩一風** 山本三郎 山根妙子 森村美花 水野黒兎 原田すみ子 西田いくひろ 出口セッ子 羽田野洋介 冨山ルイ子 滕島たかこ 徳山みつこ 津守なぎさ

吉道あかね 吉道航太郎 吉村久仁雄宮崎シマ子 森松まつお 森吉留里惠宮崎シマ子 森松まつお 森吉留里惠

加川靖鬼 市坪武臣 株元玲子 石原歳子 伊勢田毅 赤井花城 黒田能子 片山 上原 亀岡哲子 足立 大森 糀谷和郎 井上忠貞 北澤稠民 金川宣子 上垣キヨミ 上田ひとみ 奥田みつ子 竹山千賀子 河原野折杭

川 淳 村上氷筆 森本高明 山口ヨシエ四りこ 藤本 直 堀 正和 前川千津子||の朋月 長川哲夫 福田好文 藤井美智子||全子 長島敏子 長浜美籠 西口いわゑサ真由 白川淑子 椙元世津 中岡千代美

山口不動 山崎武彦 山田耕治 久保田千代 吉井菜々子

喜田准 請 牧浦完次 笹倉良 岩本浩 松尾和香 宇野幹子 宮田宜子 坊農柳弘 楠原富子 和歌山 清居紀子 大西将文 東谷 五味尚子 松原寿子 小谷小雪 木本朱夏 柏原夕胡 米田恭昌 柳瀬孝子 松本柾子 安土理恵 石田隆彦 随浦桜音 鍛原千里 大内朝子 三宅保州 武本 上田紀子 和田次郎 菱木 阿部紀子 楠見章子 山田順啓 齋藤保子 加門萌子 大楠紀子 川上大輪 古川洋子 芳枝 福本英子 藤原ほのか 古久保和子 坂部紀久子 渡辺富子 中山恵美子 飛水ふりこ 杉野まつ子 大久保真澄 居谷真理子 山本柳昌 小林すみえ 小金澤貫

> 伊藤玲子 銭山昌枝 茂美 根 柳楽たえこ 妹尾喜子 今岡健柳 石橋芳山 藤井寿代 伊藤寿美 佐藤治代 竹治ちかし 仲田美千代 多久和敬子 清水美智子

広 小澤幸泉 小島蘭幸

岩切康子

**御芳志御礼**(敬称略·順不同) 祝電拝受(敬称略)神戸川柳協会 

京都塔の会 川柳グループ草原 鈴木公弘 内海幸生 山口光久 黒田能子 岸本孝子 田中新 **倉益一瑶** 菊地政勝 佐藤古拙 赤井花城 天根夢草 小島蘭幸 湯浅久司 稲村遊子 宇野幹子 長浜美籠 河井庸佑 新家完司 村上玄也 木本朱夏 鶴田遠野 松原寿子 柿花和丰 酒井真由 都倉求芽 西出楓楽 中原章子 土橋 田中一眸 寺井弘子 村上直樹 前たもつ 井上輝子 山本義子 中原諷人 鍛原千里 川端一歩 籠島恵子 米澤俶子 福士慕情 中原みさ子 鈴木いさお 鴨谷瑠美子 森中惠美子 後藤美恵子 山岡富美子 富山ルイ子 古今堂蕉子 瀬戸まさよ 西口いわゑ 山本希久子 奥田みつ子 江島谷勝弘

たむらあきこ

取

稲村遊子

倉益

瑶

有沢せつ子

石谷美恵子

ホテル・アウィーナ大阪 川柳塔きゃらぼく 鳥取県川柳作家協会 川柳塔さかい いずも川柳会 米子住吉川柳会 川柳ふうもん吟社

### 河内天笑先生の 柳しません か講

座

んか? 生活の思い出それらを川柳にしてみませ NHK講座等の講師・河内天笑先生が 世の中の動き、心の動き、 旅の思い出、

初歩から指導してくれます。 11月9日(水) 12月14日(水)

3月14日(水) 1月11日(水) 2月8日(水

いずれも午前10時~ 12時

東羽衣公民館

30 名 仕勤・在学の方 申込み先着順・ 市内在住

受講料 講 河内天笑先生

申込み 10月22日(土)から中央公民館で受 付け(電話申込み可)

問合せ 中央公民館 電話 265-6422

(月曜日の午後、火曜日、祝日は休館日

福永ひかり

政岡未延子

両川無限 牧野芳光 西浦小鹿 中村金祥 田中一眸 鈴木公弘 岸本孝子

両川洋々

春木圭 坂本とも湖

川柳塔みちのく 川柳塔まつえ

森山盛桜

西根弘康

萩原みゆき

夏目 土橋 高浜 白根ふみ

谷口回春子 竹村紀の治 後藤美恵子

成田公 中原章子 竹口清信 新家完司 岸本宏章

### 生 郎 句 後の作品』から)

旅 0 れづれ

選

血 を売る男一票も 売り

お

ľ

1,

さん

もう元

旦の

咳

をする

甲

子

袁

^

出

た

と言う

0

から

会

社

に

居

^

默 秘 権 の行使 では な L 老 夫婦

坊ち 道 後 ゃん 0 湯 道後温泉にて二句 黙禅 と一脈通じ さん ^ 会釈 る湯 す に 3 7

たり

錆

N

0

1)

た

針

の

よう

でも生きんとす

昔とは 父 母 0) 1, ま せ L 頃 を 云 1,

塀 台 に 風 沿 う 调 今 て 步 日 3 は 法 < 姿も 事 で忙 尼 僧 L < な

李白 デ ザ ٢ 1 11 + う 1 友 0 あ 間 h 違 遠 つ きむ た 0 が か は L に to t h 出

L

0

恋

ŧ

フ

才

P

ボ

1

ル

に

終

h

た

つく

自

分すら救

え

ね

人

0)

立

候

補

行 詩 ت n から 私 0) 墓 だ Ł は

健

保

0

医

者

0

^

1

お

次ぎ

^

1

お

次ぎ

老

人

におもちゃ

なしバ

ラ

の

前

に

立

十 和 田 湖 t 4 な 酒 に な n 旅 人

土 地 が 沈 む とよ平気 で l, 3 庶 民

地 蔵 盆 恋 0) 手 習 する ŧ よ

城 F 町丁 酒 う る家をな 0 か L ti

俺 默 だ俺 0 て だよ は 11 ٤ ても 銅 像 化 云 石 に U た 侯 2 わ う ず

蚰 人 蛛 相 ŧ 0 糸 肝腎 で や ŧ 妻 螆 蛛 は 殺 わ た 3 n L に 3 す が h

奥さんになやまされ まだ重 役室に 居 3

### 新家 完司 選

尼崎市 藤岡 りこ

ものは用心深く扱うが、安かった物は粗末に 半額で買って半分腐らせる しがち。結局、定価通りになってしまった。 (評)もったいないことである。高価だった 京都市 三宅

母が食べた雑魚が効いてる骨密度

意識して雑魚を食べてくれたのだろう。 たカルシュームのおかげ。子の身体を思って (評)骨粗鬆にならないのは、胎内で吸収し 弘

# イエスマン息がしやすい場所に居る

ているイエスマン。常に彼我の距離を測り、 自らの立ち位置を冷静に判断している。 (評)要領が良く現場の空気を読むのに長け 三田市 上田ひとみ

### 犬が逝き庭の犬小屋朽ちていく

が、時が悲しみと形跡を風化させて行く。 といって、その小屋を処分するのは忍びない。 (評)家族の一員だったペット。死んだから

> どじょうでもめだかでも良ししゃんとしろ フレーズも不要。災害地復興を真っ先に、堅 (評)その通り! 名演説も受けるキャッチ

実で行き届いた政治を進めてもらいたい。 和歌山市 牛尾 緑良

喉越しが良かっただけのマニフェスト

上げて、大震災のせいにしてはいけない。 つための空手形」だった。杜撰な計画を棚に (評)気前の良いマニフェストは「選挙に勝 尾畑なを江

政界の話題食事をまずくする

動を見ていると本当になさけなくなる。 私利私欲を優先させる代議士たち。彼らの言 (評)未曽有の国難を前にしながら党利党略

身一つで来いと閻魔がいっている 羽曳野市 徳山みつこ

ている人は、さぞかしつらいことだろう。 っては還れない。お金や家財をいっぱい持っ (評)身一つでやって来たのだから、何も持

家族にも読める戒名たのみます 米子市 高田 振作

ているだけのような難しい字はご勘弁を。 ても要るのなら、坊さんが知識をひけらかし 鳥取県 平木 公字

(評)戒名なんて欲しくはないが…。どうし

時どきは載るから投句止められぬ (評)特に本欄は半数近くが没。申し訳のな

> 肝に銘じている。懲りずに投句願いたい。 いことだが、「良い句は見逃さないこと」を

和歌山市

海と山だけの半島総崩れ 瞬にご先祖の山牙をむく

留守ですか居ないのですか仏さま 福島県 七ツ森客山

知り合いは無いが被災地気にかかる 大阪市 大川 千歩

気はこころ釣銭そっと募金箱 髙杉

退屈に過ごして被災者に詫びる 東大阪市

賢子

難題を山積みにして先ず食べる 和歌山市

虹の色間違わないでみな言える 奈良市 辻内げんえい

米子市 後藤美恵子

カバー力落ちたと化粧品恨む

弘前市 稲見

十五夜の月は確かに笑ってる

モビールの動きが止んで蝉時雨

ダンゴ虫になるのが上手くなる齢 アゴ少し引くのがちょっといいみたい 寝屋川市

包帯をしてない力士美しい ドン底を見て来た人のご親切

みね

草の実が散歩の服に語りかけ 失くすのを予想して買う安い傘 最新のビルの屋上にも祠 まだ僕はドミソ ドファラの区別つく スキップもターンももはや出来ません 不埒千万老体襲うこの酷暑 よい苗を一本にしてみな間引く 親戚の右も左も長寿です 本心を明かせず長くなる話 道端の花に気づいた定年日 セシウムを気にかけつつもテニスやけ いじめっこ校長さんになっていた 太陽を浴びて背骨へ充電中 全没という挑戦状が届く 大宇宙さらばと土地へ還る蝉 台風接近夫よあなたの出番です 生を楽しんだろか蝉の殻 河内長野市 東かがわ市 寝屋川市 岸和田市 寝屋川市 和歌山県 高機市 島取県 日高市 ıti 針生 増田 北野 片山かずお 根岸 森 大隅 小谷 森下よりこ 加賀田志延 川崎ひかり 哲男 滋彦 隆昭 和代 克博 方子 茜 好き嫌い多いお客は泊めません いつだって一段上を目指す靴 中秋の残暑の中で芋を食う 縁側のゴーヤが今日も食卓に 秋ナスの色も形もしおらしい ビヤホール鼻の頭に汗かいて 通帳は夫婦喧嘩の度チェック 看護師の手抜きに見える回復期 婦長にも天使の頃があったのか 衝動買いする金ぐらい持っている 日々思う僕の人生なんだろと よその子は会うと大きくなっている 人口が減っても寺は生きている 午後からも貧乏くさく小糠雨 そつのない顔でラの音ズレている しんどいでしょう満開も満月も 粒の種万倍というオッズ 松原市 鳥取市 浜松市 加東市 黒崎美紗子 松山市 八尾市 橿原市 市川 岩崎 岸本 栃尾 岡田 奥 宮崎シマ子 石橋 居谷真理子 神野きっこ 宏章 奏子 雄太 芳山 史郎 玲子 時雄 妹が梨を送ってくれる秋 健康のための散歩で近まわり 終電が眠れる美女を積んで着く 暴いたら誰にも少し塵芥 年金よいのちの維持費知ってるか 身の内のマグマ宥めるレモンの黄 ダイエット成功ビールぐっと干す 生きている印に梨を送ります 老いて子に従いたいが沙汰がない お風呂屋の錆びた看貫まだ元気 やっぱり好きモジリアニの絵やさしそう お値段で決まるのですか絵の値打ち 缶詰の佃煮どれも同じ味 レンジでチンゆっくりテレビ見たいから 河内長野市 和歌山市 豊中市 唐津市 松江市 大阪市 西宮市 札幌市 三浦 鳥取県

強

岩崎

4

保州

三島

松丘

緒方美津子

仁部

四郎

古今堂蕉子

感情の縺れ目玉は笑えない 断捨離に抵抗がある戦中派 逃げ込めるスペースいつも空けてある 人生を背負い軽い日重たい日 さざ波のような心の襞ほしい 雨にも負けず風にも負けず金に敗け 自販機から思案の果てが落ちてきた 祈ること増え丁寧に手を洗う 爪を切る人に出会ったバスの中 夕焼けに一日減ってゆくいのち 鈴虫の鳴く頃に咲くスズムシ草 テイクオフその瞬間に足上げる 道草も当てがあります喫茶店 ふる里の匂いを連れて秋が来る 藤井寺市 鴨谷瑠美子 鳥取市 鳥取市 豊中市 海南市 唐津市 山口 京都市 鳥取市 熊本県 ili 高浜 小谷 松山 西川 村上 富田 高島 岩切 石橋 奥村 土橋 大内 芳生 和子 玄也 小雪 高明 美義 啓子 康子 五月 朝子 優明 勇 螢 漁火をみている街の子がまじり 道草も楽しや古稀の好き勝手 高飛車を低い目線で迎え撃つ 孫帰り庭の片隅汽車ポッポ 控え目な人の気になる咳払い 倒れてる稲に無情の雨が降る 夜明けから蜘蛛の巣被るウォーキング 哺育器の中で赤ちゃんこぶし振る 国籍が気になる丑の日の鰻 仏壇のメロン匂って食べごろに 腸の味知ってサンマが好きになる 大漁旗沖のカモメも岸で待つ 鈍行で狭いニホンを広く見る 豊の妻に因んで貯めている 岸和田市 藤井寺市 和歌山市 和歌山市 篠山市 鳥取市 大阪市 大阪府 鳥取県 唐津市 三田市 弘前市 吹田市 玉置 竹信 酒井 鈴木 津田シルク 坂 小栢こずる 樋口 石原 大竹 森元ふみよ 今 太田 古久保和子 真由 照彦 弘 裕之 **治代** 輝夫 歳子 愁女 一良 昭 川柳が独りの余生光らせる 下腹部に力を入れて目を開く ベテランの手抜きは元を掛けている 大島の生い立ち知ってから謙虚 食欲が体重計を呆れさせ 包丁もわたしも無休半世紀 もう神の視野から削除されている 新聞で包み長持ちさすバナナ お若いという最高の美辞麗句 温泉でもらったタオル使い良い 大根のヘタから育つ希望の芽 お裾分けゴーヤゴーヤで食べ切れぬ 宛先で切手の図柄使い分け スモールライト点いていますと隣から

集一

西宮市 泉水

冴子

柳伸

堺市

羽田野洋介

笠嶋

惠美

忠

鳥取市

有沢せつ子

大阪府

米澤

寝屋川市

平松かすみ

和歌山市

喜田

准

鳥取市

福西

茶子

豊橋市

藤田

千休

米子市

中原

章子

池田市

上山

堅坊

サウナ風呂がまん我慢の砂時計 駆け込んでゆっくり車内化粧する 向き合えば私は何時も伏し目勝ち 低金利年金基金四苦八苦 美しい別れだなんてあるのかな 枝豆を黙って食べる嫁姑 おいとまのつもりのとこへ酒が出た 季節感ぬるめの燗で取り戻す 仲間入りしたいちょっぴり飲むお酒 晩酌で体の調子よく分かる いい知恵が出るよう酒を飲んでいる 酒を飲む訳のひとつに今日の月 正直なカメラが暴く毛の薄さ 一杯目は一杯目より濃い湯割り 羽曳野市 藤井寺市 四條畷市 藤井寺市 弘前市 香南市 貝塚市 枚方市 高槻市 神戸市 大阪市 鳥取市 大阪府 市 安田 井丸 若松 永田 石田ひろ子 桑名 小林 出 加島 福士 桑田ゆきの 吉岡 鈴木いさお 春木圭一郎 慕情 昌紀 章司 忠子 由 雅枝 孝雄 わこ 光久 修 復興の足を引っぱるあげあし党 切りたいが切るに切れないご親族 本当の歳を知ってる影法師 先生の赤エンピツが気に食わぬ 私を飾る言葉が無いのです 秋だから少し口紅替えてみる ためこんでも役には立たぬ乳酸値 掛稲を絵にする里の夕茜 天高し杖を頼りの万歩計 想定を越えるきびしい生きる道 身軽さとローン嫌いで借家とす 会心の句が没だったナンマイダ 山門をくぐれば現世忘れさせ した事よりしなかったことへ失望 東かがわ市 富田林市 大阪市 鳥取県 明石市 西宮市 大阪市 尼崎市 米子市 大阪市 米子市 大洲市 大塚美代子 佐藤 成田 中居 糀谷 片岡智恵子 藤本 後藤 津村志華子 小池 都倉 榎本日の出 木村あきら 小泉ひさ乃 善信 忠昭 和郎 幸子 公 宏之 求芽 直 見ては泣き話しても泣く災害地 昼寝して脳味噌オフに切り替える 原発に包囲されてる日本国 看護師の親切愚妻及ぶまい ストレス解消畑で草の山を焼く 臨終の脈は心電図がとった 究極のプランは神の手の中に 風鈴もあついあついと鳴っている 朗報が何もない日を熱くする 歯間ブラシ無理じいするとへそ曲げる 自分史の余白が目立ち諦める 人込みに紛れて消えた夏帽子 ゴミ出し日からす朝から急き立てる 妻に恥かかせないため見る鏡

生駒市 飛水ふりこ

三田市 福田

好文

京都市 米子市 桝本 加藤 正 宏子

池田 純子

大洲市 花岡 順子

高槻市

左右田泰雄

豊中市 江見 見清

鳥取県 佐伯 やえ

武史

高槻市 乙倉

八尾市 前田 紀雄

大阪市 鳥取県 榎本 吉野いさお

大阪市 西川 冷子

### 誹風柳多留一 篇研究 75

清 Ш 伊 吹 和 由 男 昭

夫 吾

博

美

Ш

585 腰をもむうち秋の野を馬ハ喰イ

増田 を食んでいる。 した遍昭が腰をもむ間、馬はただ野辺の秋草 正遍昭)古歌に対する川柳一流の鑑賞。落馬 し我おちにきと人にかたるな」(「古今集」僧 名にめでて折れるばかりぞをみなへ

小栗 とき」(「古今集」)も踏まえると思う。 しょう。 清 二つの哥を踏まえての作句ということで きたてるをみなへしあなかしかまし花もひと 腰をもむうち馬の喰ふ女郎 賛。同じ 遍昭の作、 「秋の野になまめ 九 21

586

官女の時も飛鳥をおとすなり

増田 殺した。 されたのちも、殺生石となって辺りの鳥虫を 落とす威勢、金毛の正体顕れて那須野に射殺 伝説。官女の時も鳥羽院の寵をえて飛ぶ鳥を 三国の王宮を渡り歩いたとされる玉藻

清 賛

石になつても飛鳥ハ落る也

17 17

589

けんとんハ代イ物の場を箱といひ

587 切れ文のおくへ飯盛様と書き

増田 書いている。腹に据えかねてのことだろうが、 告する手紙で、ここは客から馴染んできた品 綺麗な別れ方ともいえない。 の遊女への文。最後の宛名に「飯盛様」と 切れ文は男女の一方から交際中止を通

八29

払う)際、の意であろう。けんどんの出前は、

出 り品川がふさわしい。 賛。嫌味な切文だ。 賛。 新宿・板橋・千住もあるが、やは

なぜ舌を出したと禿こそぐられ

れたのなら、もっときついお仕置きをされそ にぺろりと舌を出し、「どうして舌なんか出 増田 まだ子どもの禿が、なにかのひょうし たりからであろう。遊女や遺手に見とがめら すんだ」と、くすぐられている。客や太鼓あ

くすぐれば禿ちひ、と笑ふなり 九4

清

当などもあった。慳貪箱に入れ、上の取っ手 をさげて出前する。…」(「角川古語」) けんどんめし・けんどん奈良茶・けんどん弁 けないことで、安直簡便なことのたとえ。… 増田 けんどんは、「盛り切りの蕎麦切・饂 給仕もなく、膳・煙草盆・茶などの提供も受 **鈍などで、出前で商われたもの。慳貪とは、** 代物(だいもつ)の場は、代金を取る(支

あろうに、その決まり口調がちょっとおかし きにきました」という。金を取りにきたので あとから代金を取りにきた際、「箱をいただ けんどん箱に入れてきて、箱ごと置いてゆく。

うで、少し不審。 が、左の例句はいずれもうどんを暗示するよ 右の辞典の説明で、一番に蕎麦切をあげる

うれる程地団駄を踏むけんどんや 明四桜3

道光庵腕立てなぞとけんどんや 明五宮3 - うどんは足力、道光庵のそばは腕力 たのみだとそねむ。

そバ切ハ嫌イけんどんハ五ッ六ツ

ていたのだろうか。 山口 賛。仲間内では商売上の符丁にもなっ けんどんか喰たいといふ蕎麦嫌ひ傍 五4

の如く、隠語説も捨て切れない。保留 けんどんな箱へやさしひ蕎麦の銘 六一38 礎説のようなことと思うが、山口兄説

### 600 母をあやなす事神ンの如くなり

増田 あやなすは、「巧みにあつかう。うま

増田

取る。」(「日国」) くあしらう。まるめこむ。あやつる。だまし

やなし金を引き出すことにかけては神業のご とくである。 どら息子対甘い母親。口先一つで母親をあ

用される。柳二十一篇の輪講で、小栗氏が 「神(しん)のごとし」の語句は川柳に多

されている。川柳の種にふさわしい典拠がほ 如神」(中庸)「其智如神」(史記)の句を示 かにありましょうか。 文句取」ではと指摘され、伊吹氏は「至誠

母おやハもつたいないがだましよい 初36

母をだまさせては神シの如く也 賛。普通は「カミの如し」でよさそう

故か、と疑問に思っています。(歌舞伎の なものなのに「シンの如し」というのは、何 「外郎売」も「カミの如し」でしたか?) 薬の効能書にも出て来る語のようだが…。

601

と身近な文章があるかも知れない。一応保留

も考えられるが、この漢文を典拠にしたもっ

「神ンのごとし」は、伊吹氏指摘の漢文

としておく。

### 越前屋元ト姫糊もうつたやつ

姫糊は、洗張りなどに使った粥で作っ

だ。番太郎とも蔑称された番所の雇われ番人 た糊。番所の小遣い稼ぎに並ぶ商品の一つ。 れた番人の職は株で. 売買されたともされ、 は越前出の者が多かった。また、立地に恵ま あの越前屋は以前番所で姫糊を売っていた奴 真面目に貯めこんで見世を構えたという立身

姫糊をにながらあごであめをうり

番太郎おはぐろかぶをつけてうり 賛。やっかんでいる連中の言葉。 安四亀2

小栗 賛。作った句 出

賛

### 602 いしくをたべて明石へ書キかゝり

(「田国」) おいしい物からきた女房詞で団子をいう」 増田 いしいしは、「いし (美) を重ねた語。

それに明石と「いし(石)」の結び。 書きか、る式部へ団子和尚出シ

巻を書いたのだろう。句では隠し詞の石山寺、

紫式部は石山寺で団子などを食べて明石の

小栗 賛。「私は誰でしょう」。 賛

出

川柳的発想。

K. K

薫風書、カットとも)

投句 738句)

ライバルの見えぬ支えがあってこそ

コスモスの支えもなくて強かに

年金が僕の酒代支えてる 日本人以外で支えてる国技

百選の水が支える酒作り

東かがわ市

川西市 灰木市 弘前市 枚方市 神戸市 鳥取市 明石市 出雲市 吹田市

年寄と学生でもつ路線バス

スカイツリー見えぬボルトが支え合う

糀谷

竹治ちかし

九条を支える核の傘の中 支えになる第九条を太く書く もうあかん地球がさじを投げそうだ

被災地の暮し支えるボランティア

赤い羽根福祉国家の見栄支え

大和郡山市

坊農

大阪市 鳥取市

古今堂蕉子

支え合い槌音響く被災の地

支え甲斐失せる遅配の義援金

岸和田市 寝屋川市

富山ルイ子

「支える」

福

士:

慕

情

選

時刻表過疎を支えるバスを消す

伊勢田

有沢せつ子

「支える」

池

森

子

選

また変る日本支える屋台骨

スクラムを組んで勇気を支えてる 支え合い槌音響く被災の地 支え合う信ひと文字の底力

> 寝屋川市 尼崎市

富山ルイ子

鳥取市 奈良県

支給まで時間がかかる義援金 天災に負けじと人は支え合う

枚方市 箕面市

丹後屋 広島

巴子 勝弘

町工場支えてくれる釘一本

長男の就職を待つ子沢山 後継ぎをさがしています村祭り 本の藁を支えに起き上がる

年金と薬で持っている命

大丈夫医師の支えがあるカルテ

百歳の母に六十路が支えられ 支えてる棒も傘寿が近くなり 居てくれるだけで支えになった人

> 佐渡市 松山市 枚方市 海老池 神野きっこ 不二

和歌山市 和歌山市 三田市 田中 上垣キヨミ

岸和田市

大丈夫医師の支えがあるカルテ	足腰の衰え口が支えてる	丸い背に一家支えた自負がある	細腕で銃後支えた頃もあり	限界を知っているから支え合う	老介護支えられたり支えたり	響き合う形で支え合う暮し	成功を裏で支える人がいる	人生の支えとなった師の助言	ひと言が支えになって脱皮する	どっこいしょ杖にすがって立ち上がる	華やかな舞台支えている黒子	心より欲しい支えは諭吉さん	私の右脳支える広辞苑	へそくりは我が家支える隠し玉	補助輪もいつか取られて風となる	両親の未来支える母子手帳	夢売りがつっかい棒を立て掛ける	夢を追う人が支える宝くじ	肥満体支える脚が悲鳴あげ	頼りない足だが地球支えてる	生活を支えてくれる全自動	紙すきで祖父が支えた和紙の里
和歌山市	鳥取市	札幌市	尼崎市	和歌山市	鳥取市	高槻市	鳥取市	東大阪市	和歌山市	池田市	藤井寺市	大阪市	和歌山市	枚方市	弘前市	大阪市	大阪府	豊中市	堺市	羽曳野市	池田市	府中市
田中	高浜	三浦	春城	喜田	土橋	砻	春木	佐々	福井	栗田	鈴木	鶴田	古久	寺川	稲見	津守	籾山	水野	近藤	福田	上山	馬場
みね	勇	強	年代	准一	螢	左右田泰雄	春木圭一郎	佐々木満作	福井 菜摘	栗田 久子	鈴木いさお	鶴田 遠野	古久保和子	<b>計</b> 弘一	則彦	柳伸	隆盛	黒兎	淳	悦子	堅坊	利子

支えにはならないけれど邪魔しない ぐらついたこともある我が家の柱 ありがとうの一言支えにいたします 酔うてよし酔わんでもよし支えあい 支柱にも支えが欲しい実もたわわ ニッポンを支える孫を育ててる 両親の未来支える母子手帳 家を支えている後期高齢者 老々の喜劇二人で一人前 左手が支えてくれている右手 まな板の音が暮らしを支えてる 支えてる私の骨の折れる音 妻というつっかい棒で生きている 逆らった人に支えてもろている 共倒れもありそう支えあう夫婦 八十路いま支える足の悲鳴聞く 五十年飯風呂寝るを支えてる 人の字を支える棒が朽ちてきた 亭王ではなく<br />
年金が支えです 人生の余白で運に支えられ **大黒柱揺れて母さん釘を打ち** 一度三度補強重ねてきた支柱 一人居を支える朝の合言葉 富田林市 和歌山市 富田林市 藤井寺市 寝屋川市 寝屋川市 神戸市 吹田市 米子市 三田市 米子市 犬山市 鳥取市 鳥取市 大阪市 大阪市 静岡県 八尾市 大阪市 橿原市 出雲市 豊中市 鳥取県 柏原 太田 津守 福田 谷口 倉益 岡本 安土 江見 森田 山本ふみ子 太田扶美代 片岡智恵子 新保登美子 政岡未延子 金子美千代 古今堂蕉子 小白金房子

支え合う人と言う字の良い角度	窮地にはいつも笑顔で居てくれる	添え木にも杖にもなってくれる妻	秀句	生きてさえ居れば支えてあげられる	躓いた石であふれるぼくの蔵	たくさんの笑顔にいつも支えられ	振り向けば何時も貴方が居てくれる	後方支援妻が大きな旗を振る	トンネルの長さを支え合う夫婦	母と妻居てくれてこそ今の僕	生き下手を支え合ってる尉と媼	両の掌に溢れる愛に支えられ	父の釘錆びてもちゃんと支えてる	不器用に支えてくれる手が温い	日々好日君の支えがあればこそ	偕老の支えに医師のお世辞聞く	石垣に城を支えている誇り	二度三度補強重ねてきた支柱	わたくしが支えるつもりスクワット	試歩の杖支えてくれる花の風	花柄の杖に託している余命	用心をなさいと杖を持たされる
iii di	青森県	枚方市		神戸市	弘前市	八尾市	唐津市	松江市	阿波市	河内長野市	大阪市	八尾市	大阪市	雲南市	尼崎市	唐津市	神戸市	藤井寺市	寝屋川市	大和高田市	柏原市	高槻市
北野 哲男	松山 芳生	海老池 洋		山田婦美子	髙瀬 霜石	村上ミツ子	山口高明	石橋 芳山	三浦千津子	坂上 淳司	升成 好	髙杉 千歩	<b>詩</b> 一風	菅田かつ子	長浜 美籠	仁部 四郎	出 光久	太田扶美代	籠島 恵子	鍛原 千里	森吉留里恵	片山かずお

美しい距離で支える蛍籠	支えねば倒れる三日月よ星よ	支え合う人と言う字の良い角度	秀句	間一髪支えてくれた見えざる手	花一輪支えるだけの愛はある	ニュートン力吾も宇宙を支えてる	響き合う形で支え合うくらし	心根に打たれ共鳴板になる	どんな時も支えてくれる天の声	意地っ張りだけどねそれが支えてる	歳月と雲の流れに支えられ	トンネルの長さを支え合う夫婦	間歩するモデル支えるピンヒール	七光り親の支えで風を切り	突っ支い棒外して風になるという	思春期の支えを拒む一輪車	自助共助国を支えるのはあなた	天職と決めた夫婦の支え合い	揺さぶりも太い根っこがある安堵	言ったかなあなたの杖になるなんて	後方支援妻が大きな旗を振る	生きてゆく支えに夢を忍ばせる
今治市	松江市	三田市		寝屋川市	西脇市	奈良県	高槻市	弘前市	富田林市	鳥取県	松山市	阿波市	豊中市	大洲市	和歌山市	大阪市	宝塚市	鳥取県	富田林市	香南市	松江市	橋本市
渡邉伊津志	松本 文子	北野 哲男		森茜	七反田順子	谷川憲	左右田泰雄	髙瀬 霜石	中崎 深雪	斉尾くにこ	髙橋 宏臣	三浦千津子	池田 純子	花岡 順子	古久保和子	栃尾 奏子	丸山 孔一	石谷美恵子	関よしみ	桑名 孝雄	石橋 芳山	石田 隆彦

# エッセー枚の写真

る。 大が仲睦まじく写っている珍しい写真である。 本が関夫人の菊澤スミ、つまり私の母の三 の古今堂蕉子氏のご母堂)、そして右側に菊 の古今堂蕉子氏のご母堂)、そして右側に菊 の古今堂蕉子氏のご母堂)、そして右側に菊 の古の薫風先生を真ん中にして左 らっしゃった頃の薫風先生を真ん中にして左 らっしゃった頃の薫風先生を真ん中にして左 の古の世まじく写っている珍しい写真である。

平成十三年三月、まだ春浅く寒い風の吹く 中、当時九十三歳の母を西宮の自宅まで姉と のしゃった美與子さんが、仮住まいされていられていらい。 日、当時九十三歳の母を西宮の自宅まで姉と で入尾のホテルをお訪ねした。

動した。そこに薫風先生や宮西弥生さんも加顔をくしゃくしゃにしてうれし涙を流していで今まで生きてこられた年月に感謝しつつ、三歳と八十七歳が、しっかり抱きあって元気三歳と八十七歳が、しっかり抱きあって元気

そもそもこの会は美奥子さんのたっての希そもそもこの会は美奥子さんのたっての希との話だった。と、いうのも私が突然川柳のとの話だった。と、いうのも私が突然川柳の世界を覗いてみようと、西宮北口句会へ参加世界を覗いてみようと、西宮北口句会へ参加世界を聞いてみようと、西宮北口句会へ参加地のたのが平成十一年の事。小松園の四女が川地の台場へわざわざ訪ねてきてくださっれり華やかな再会パーティーになった。

母が九十を過ぎて元気であることを話す と、栞氏夫婦と小松園夫婦は良くあちこちの と、栞氏夫婦と小松園夫婦は良くあちこちの 等與子さんも幸いお元気だから一度お食事で もと話が進んだらしい。有り難いことである。 もと話が進んだらしい。有り難いことである。 もと話が進んだらしい。有り難いことである。 おは、父を亡くした後は、川柳の句報すら い、たんたんと日々を過ごしている人であっい、たんたんと日々を過ごしている人であっい、たんたんと日々を過ごしている人であっい、たんたんと日々を過ごしている人であっい、たんたんと日々を過ごしている人であることを話す とも逢えずにいた。

感謝した。

感謝した。

感謝した。

感謝した。

感謝した。

の心の中にも、こんなに深く根差して

にて母の心の中にも、こんなに深く根差して

美與子さんは、蕉子さんからも想像できるを知れぬ。栞氏と父は体格的にも性格も異なっていたらしいが、それでも面白可笑しく弥っていたらしいが、それでも面白可笑しく弥ったりであったそうだ。そんな川柳生活だっふたりであったそうだ。そんな川柳生活だったことを知り、家庭以外の父の姿に触れることができ新鮮な気持ちになった。

川柳との結びつきの強い意義ある時間をたて、私も川柳を少しかじって良かったと思って、私も川柳を少しかじって良かったと思って、私も川柳を少しかじって良かったと思った。子供時代の私はずっと、気がつけば働いた。子供時代の私はずっと、気がつけば働いた。子供時代の私はずっと、気がつけば働いた。子供時代の私はずっと、気がつけば働いた。子供時代の私にずった。

私にとって大切な一枚の写真である。から姿から、想い出が瞬時に私の胸に蘇る。この写真をみると、当時の三人三様の表情

もっと良く知りたいと始めた川柳が、父を通趣味であった川柳の勉強をして、父のことをやっと落ち着いた頃、父の十代からの唯一の

に選んだ兵庫県三田市に十三回目引っ越しで

主人の定年に際し、私たち一家は永住の地

渋

13

### ふみ選



渋いねとスーツばっかりほめられる ことさらに渋いスーツの面接日 渋い喉河内音頭がよく似合う 出し渋りしていませんか生きた金 金の要る話は渋い顔で聞く さすが老舗渋い暖簾にうそがな 行きたくない渋い課長と三次会 私の齢に母はとっても渋かった 併かずお

シマ子

ばっは

好

渋いけどあっさり通す妻が好き 渋い顔してますけれど女です この先を思えば渋くなる財布 出す時は出す渋ちんの義捐金 渋い男にしては似合わぬ軽い口

みつこ

ちかし

美千代

渋渋のはずが弾んでいる見合い

のり子

秋茄子の味噌汁渋い母の味

螢

地

渋抜いて毒気払って好々爺

イケメンの主役奪った渋い役

渋い喉昔遊んだ人らしい いい男にみえてしまった渋い声

絶頂は越えたが見せるいぶし銀

渋い茶も似合う金婚とうに過ぎ 渋柿の色につられてかぶりつく しかめっ面君に伝わりにくい愛 お義父さんになるかも知れぬ渋いお茶 渋い茶をゆっくり飲んでいる余裕 渋柿が意地張り切れず甘くなる 泡消えて渋さばかりが増すビール 生涯を渋渋就いた職で終え 心音を乱す電話の渋い声 カクテルの恋が渋茶になりました 柿の渋あっという間の秋である お陽さまとたっぷり話す吊し柿 手の届くところの柿はみな渋い 渋柿と書いてないからよく盗られ (宮) (古) 幸

くにこ

渋団扇昭和は遠くなりました 後期です目立たぬように生きてます あんた誰息子はもっと渋い声 ご自慢のロマンスグレーも薄くなり 人間の苦味渋味は六十路から

宏

定年に近いな渋くなりはった

(吉)

修

退屈をしても掃除はする気無く

あなたあーと言ってたいくつさせぬ妻 退屈な話ものってやる介護

時雄

退屈だったのだろうか流れ星 雨の日は一人退屈小鶴折る ケータイは退屈しのぐ物ですか 婦人服売場でいつも待たされる

渋少しあって私らしい味 東京で渋皮とれて帰らない

渋いお茶飲んで読書の秋夜長 ささやかな抵抗渋い茶を入れる 渋い役一度やりたい三枚目

鈴いさお

退

屈

いが栗を足で割ってる秋の音

松本知恵子報

扶美代

キヨミ

川柳は退屈しのぐ特薬だ 退屈も呆けぬ程度にならいいな 退屈をしてる暇ない草むしり 大っぴらに退屈言えぬ農繁期 退屈の顔がそぞろに午後の街 退屈が細かいとこに目が届く 退屈な日を幸せと書く日記 川柳道退屈してるヒマがない 退屈を知らぬ女のお針箱 退屈を絵に表わせば僕になる 妻の留守生姜煎餅からになる 大欠伸移し合ってる老い二人 退屈を忘れる赤子の七変化 雨続き将棋碁盤も湿りがち 退屈で薬袋を整理する 高道 衍 美 恵子 シマ子 みつこ

退屈な時アイディアを練るチャンス 退屈はしてない

蕾咲く

鼓動 文楽のS席で聞く大鼾 退屈な人退屈が好きらしい 雨の日の蟻は退屈するだろう 退屈な金魚に監視されている ギプス外れ全快近い一人部屋 診て貰うのに一時間待っている 退屈になる凡人の持つ聖書

子

酔生夢死心に染みてきた加齢

生誠司丘

退屈がふっと寂しさ連れてくる 菜園の土壌退屈にはさせぬ 退屈な時には詩人にはならぬ 退屈を探す暇無し日が暮れる

退屈で噂の火種吹いてみる 夕顔が咲くまで待ってくれという 退屈がすべて焦りになる仮設 退屈はしないキッチン南向き 農家には退屈という二字はない

宮弥

客 秋

星

路

退屈もいいさ乎和な駐在所

退屈の先に退院日が見える 退屈はなかった親の終戦後

かつ子

つくづくと言葉は宝だと思う

つくづくと夫婦茶碗の罅を見る

退屈なとき湖沿いの美術館 平木公子

家族皆揃って達者ありがたし

原発の恐さつくづく思い知る

評論家つくづくよくも無駄並

公

洋

嘱託で邪魔ばかりする元上司 デイケアへ風呂と食事に老い二人

### 加川 靖鬼選

ちかし

リストラの風は風力3のまま 欠点をつくづく悟る自己嫌悪 寝込まれてつくづく妻の有難み 雲流れつくづく仮の宿と知る 生きてきた証つくづく顔のしわ 亡き母の小言つくづく身にしみる 断捨離が出来ぬ五欲に惑わされ 戦中が身に染みているもったいない つくづくとなでしこジャパン見事だえ 治らない癖がつくづくイヤになる 生きているだけで幸せつくづくと つくづくと見る亡妻の顔いい女 つくづくと反省多い子育て期

ばっは

円高も株安だって他人事 口開けて笑う母似を笑われる つくづくと人の絆のありがたさ

子

小正賢 和霜 美津子 宝だとつくづく思う子の寝顔 成し遂げた顔だ一分の隙もない

この国はつくづく支えあう心 辛口の意見つくづく身にしみる 子育ての苦労つくづく亡母想う 国愁う人をつくづく待ち焦がれ 冬がくるつくづく被災地を思う つくづくと思い出します母の味

ミツ子 登美子 添寝してつくづくと見る児の寝顔 回るのをつくづく思案する地球 プライドがつくづく枷になるあなた 鏡見てつくづく歳だなと思う 今更につくづく親のありがたさ 父さんとそっくりな鼻変えられ つくづくと見たことがない妻の顔

幸せと思うことこそ幸せだ 同じ轍血はつくづくと濃ゆきもの 今更につくづく偲ぶ母の恩 つくづくと優しと思う両陛下 伊津志

麻酔から醒めて命の有難み 忠千

裕 之

巴 子

時雄

退院しつくづく旨い家の酒

一家団欒支えた腕を慰める

併かず お

飾いさお

俶子

修

キヨミ 靖庸 セツ子

玄也

富士山の雄姿見飽きることはない 失ってつくづくしみる母の愛

# 和步数室

### 題一にぶい 鈴木公

りを勉強するための出題でした。 たら、相手に思いが伝わりません。そのあた から手をつけたらよいか分からない句になっ に陥ったような、間口が広がりすぎて、どこ と読者に思わせるのも作品ですが、多重債務 むことが求められます。こういうことかなっ 過大の性格上、「何が」をコンパクトに詠

### 【配慮にやや欠けた句】

添 蛇が出ると言ってもにぶい顔のまま 原こんなにも言って分からぬにぶい奴 こんなにもとは「どれくらい」でしょう 明

原自慢する人の前では鈍いふり 場合には言葉で示すほかありません。 か?話の中ではよく使いますが、 不可視の 志 延

添にぶい顔して場の空気やわらげる 添 自慢する人より鈍い耳を持ち もあるということを意識してください。 ではありませんので、抑えて生まれる余韻 意地悪さが感じられます。突きだけが手法 鈍い人ひとりいて場が和んでる ふみ子

> 原 にぶくなり時間ばかりが過ぎてゆく 田久 原展開がにぶくて氷溶けてくる 原膝叩くにぶい音たて知らんぷり なくなってきている嘆きですよね。具体例 なんとなく理解できます。物事に対応出来 知らんぷりは「誰」でしょうか。 を使えばさらに力強く響くはずです。 一般論として、なんとなく理解できる句で 安 幹 子 子

原 気付かずに淋みしい思いさせごめん 淑 添 何遍も切れぬ刀に助けられ…でしょ? 原何遍も切れぬ刃に助けられ さっていたら、良い句になったと思います。 に…淋しい思いをさせたのかを描いてくだ てください。句では誰に、いつ、どのよう かったですね。 すが、「何」の展開であるかを描いてほし 「淋しい」です。うっかりミスに気をつけ 子

原百八つ煩悩を断つにぶい音 私が助けられたのですから、切れぬ刀(比 すよね。「秋」を描いてください。 しかし、それにしても、まだ時季が早いで います。除夜の鐘を書いても構いません。 季語を必要としないのが川柳、と言われて の目線から上に頂くよう心がけてください。 対象はできるだけ卑下しないことーご自分 手の「にぶさ」を描いたことになります。 の持ち主は相手方です。そうすれば相

> 原 思いやりあれば空気は読めるはず 楽 原予想外去りて気がつくにぶい指示 勝 られるのか判然としません。相手を責める ご自分の配慮の足りなさを言っておられる 外ということで」 外」と、東電・行政府などの指示の甘さに 東日本大震災の際によく用いられた「想定 す。嫌味になりますので気をつけましょう。 句であったとすれば目線が高いと思いま のか、「あなたは鈍い」と相手を責めてお ついての句でしょうか。「にぶい指示想定

原切れる姑で馬が合うてるにぶい嫁 を言っておられるとは感じられますが、か 作者は姑?嫁?…突っ込みとボケとの関係 なり違和感のある仕上がりです。 ひろ子

原私の遺伝子継いで鈍い感 添年とともににぶさが増してこわくなる 添遺伝子を継いで鈍さを抱く子孫 原 年齢とともにぶくもなるが冴えもする 冷 松 風

添 運動不足の体がにぶい音を出す 原運動の不足で体にぶってる 七七五の形でもいいですからリズムよく描 解とは言えなくなってしまいます。 葉を一句に入れると二重焦点になって、正 ①年齢は「ねんれい」と読みますので「年」 にしました。②にぶいと冴えの対立する言 太

夏バテの頭がにぶりすぐ忘れ 時代劇渋い役者もにぶく見え 萩の庭鈍器にもなる花鋏 スクイズがにぶい音して不発です にぶい痛み前ぶれ知らず見逃した 添 老いたのか勘も聞こえもにぶくなる 原 高齢者勘もにぶいし遠い耳 添 年毎ににぶい歩みの亀になる 原年毎に歩みののろい亀になる 原のびる芽摘んだ過保護に気づかない 添 想定外の危機だとにぶいことを言う 原危機意識にぶい言い訳想定外 ヘルペスのにぶい痛みに耐えた夏 目打球がにぶい痛さで跳ね返る 五時迄は鈍い男が夜はしゃぎ 刃物切れにぶく自慢のとぎ披露 三回もお茶代えられるにぶい人 復興の鈍さに亀がお辞儀して 原 情熱を消す歳月ににぶくなる 【入選まで一歩ー感情を入れて】 歳月がにぶくなるのですから情熱は残り続 ければなりませんでした。 添削するまでもなく「のびる芽を」にしな けます。よいことです。 にぶい刃を研いで自慢をする役者 替えられる」がいいと思います。 夏バテの頭にぶくて頼りない」 記久乃 智加恵 宏之 こずえ 真砂子 ミヨノ 妙 律 ひとみ 由 生 子 摘

> 鈍感な返事に熱も冷めてくる 親子してにぶいしぐさが似ています にぶくても口はしっかりして困る にぶい陽が秋の訪れ伝えてる 簡単な字ほどうっかり間違える 年重ね体の切れがにぶくなる できるだけ気にも留めずに嫁と居る 【入選まで一歩ー思いを前面に】 ご自分のことですか?「にぶくても口はし っかりしています 仙久 高弥 畑節 ちづる きつこ I

にぶり関が形の言れ行えてる 信労 生 かい糸草食系に通じない としてもよかっでしょうが、「届かない」としてもよかったかと思います。

### 入選句】

年相応の脳なら先ずはお目出度い のり子この味を褒めてくれないにぶい舌 起世子にぶいから人の欠点気にならず 利子にぶいから人の欠点気にならず オ子にぶいから人より多く櫂を漕ぐ 孝代にぶいけど大物に見え得な人 武臣にぶいけど大物に見え得な人 武臣にぶいけど大物に見え得な人 武臣にぶいけど大物に見え得な人 武臣にぶいけど大物に見え得な人 武臣にぶいけど大物に見え得な人 武臣にぶいけど大物に見え得な人 武臣 と 世子

開洋子一

被災地ににぶい政治が届かない甘えても拗ねても思い通じない甘えても拗ねても思い通じない街りの光も鈍い千鳥足

後美恵子

老夫婦阿吽の呼吸にぶくなり古傷のにぶい審きで気が紛れ釣鐘のにぶい響きで気が紛れ相談もにぶい返事に腹が立ち相談もにぶい返事に腹が立ち相談もにぶいる事に腹が立ちればのといいでいる。

(株) 中 子 兆

オン押すとしばらく待たすテレビジョン【今月の推せん句】

にぶいからよかった怪我をせずすんだ気は強く感性ばかり鈍くなり 小谷 滋近藤 仏

### 【私の句】

黒崎美紗子

(登載漏れの方は役員が添削して返却します)竹林の騒ぎがにぶくなって秋内緒とは違う手足が出てしまう

塩分は控えたはずと妻の舌キラリよりにぶい光を持つ男にぶい勘酷い暑さも加担する

被災地を死の町と言うお大臣

### 同 人吟 Ш 本 蛙 城

―10月号から

ご苦労を察しつつ鑑賞。次のように揚げ数多 の感銘句を洩らさざるを得なかった。 の機会を賜わってゲラの校正マークに編集の 一歳となり一句一句に愛しさ一入。秀句鑑賞 川柳始めの二十六歳からお迎えの近い九十

巷間、川柳まがいの言葉遊びが芸能人や有

ものである。 柳だと範示して諸子ともども啓蒙に努めたい 現にならぬかと危惧する。本欄の句が真の川 川柳の歴史の中の一時期堕ちた狂句時代の再 力なマスメディアさえも加わって公開され、

### 達筆のハガキ誤字まで美しい

字まで美しい」と皮肉に隠した穿ちの妙技。 誤字は自惚れからだろう。その自惚れを「誤 字句の確認を怠っている。達筆は美しいが、 達筆のハガキの発信者が達筆を誇るあまり 柿花 和 夫

# 被災地へ議事堂移転しませんか

山みつこ

を覚える。為政者にかく物申す。 にも遅い。瓦礫の山の惨状を見るにつけ憤り 今回の東北大震災復興策、以前と比べ余り

### 揺すらないで下さい火種抱いてます 木本朱 夏

の人。レコードホルダーであった。宜なる哉 去一年登場した人を調べた。総勢一五四。一 種」の暗喩に詩が光る。因みに秀句鑑賞に過 回登場一〇二。最高登場回数は七回。一人こ いつも美しい句を見せる作者である。「火

### 復興増税ならば我慢を致します

しかし天災後の復興なら大いにどうぞの気持 た。納税側には税金の使い方に腹立ちがある。 会計検査院は例年無駄な支出を報告してき 政治家諸君何を躊躇している。 丸ごとの西瓜を買ったことがない 坂 部 紀久子

西瓜の完熟度は割らないと確かめられな 方保 和

> は無駄遣いしない。核家族、少子の背景暗示。 い。それを承知で買うには勇気が要る。女性

### 心根を素直に書いている余生

和

かさは余生を感じさせず、心根の素直さもそ 遠方にもまめに出掛けるバイタリティーの豊 の力があってこそ。 日川協大会最多出席表彰者で周知の作者。

### 論評も実体験に押切られ

見掛ける。しかしリポーターが現地で責任者 の談話を報告するや評論は一たまりもない。 んで、まことしやかに評論を展開する場面を ズラリ並んだ評論家が、得意分野と信じ込 邦 昭

# バランスのとれた夫婦になる喧嘩

がら角がとれ円満な夫婦になってゆく。 夫婦は元他人。争いあって当然。喧嘩しな 中村金

### 九分九厘人間の顔して生きる

鬼かも知れぬ仏かも知れぬ。それが人間。 厘はどんな顔か。いろいろ想像させる句。 足し算と掛け算だけで生きたいの

粋

・運は望まない。末尾の「の」が優しく求めて運は望まない。末尾の「の」が優しく求めて

# 非常時には使えぬだろう縄梯子

練にシナリオを読みながら行ったのを外国人ま常置しても所在さえ忘れられるだろう。訓れのであり易い。訓練を終えた縄梯子をそのまま常時は想定外の事が起き、人心もパニッ非常時は想定外の事が起き、人心もパニッ

### 個人ってなんだ理科系・文化系

髙 瀬 霜 石

記者が報告していたのを先般報道された。

○系△△派などと一括りにされるのは何故か。民主主義は個人尊重が基本。その個人が○

# お守りの中には神が居なかった

勝

にび方の気に入らないとまた揉める 心に神は居ずお守りは布と板と紙になった。 心に神は居ずお守りは布と板と紙になった。 以来 じ切っていた。その国が敗れ国土灰燼。以来

バーコードの頭を低くしたり、土下座までしろだが。企業などの責任者の詫び方で見ると家庭の中の詫び方、夫婦間の詫び方いろい家 井 弘 子

思うだけかと怒りたい。…」までは許すが「…たいと思います」とはて見せるが、「心から深くお詫び申し上げ…

# 野の花はみんな自分の色で咲く

## 答まだ出ずに観覧車は下降

い意志を見た。 い意志を見た。

人生の峠に差し掛ってふと思う。これとい

# ポイントを稼いだあとの水たまり

姿にも重なる。 位事上の成果を上げたのに何の反響もない。水たまりの静寂。不満。買物のポイントい。水たまりの静寂。不満。買物のポイント

### 幸せの真ん中辺に穴を掘る

を掘って誤って二人が落ちて命を失くした事先般、若い夫婦の仲良しが戯れに落とし穴 伊 達 郁 夫

いの渦の中に居る。お節介より役人も川柳を。

戒とも、水府作の句とも重なる。 発力面に名を馳せる作者の自

### 尖った波も丸く返している老後

海老池

いたが今、平穏に居る安堵。 大生、顧みると、自我確立の時代、反抗の

### 家計簿の中に潜んでいた頭痛

不意に赤字が顔を出す。不意に赤字が顔を出す。

# 役所から介護予防の誘いくる

### 水 煙 抄

-10月号から 本

碧

### やさしさへあっさり抜けた胸の刺 田中由美子

までのこだわりは何だったのだろうと爽やか な気分になります。 言ですんなり溶けていくものですね。さっき 胸の奥へささっていた刺も、やさしいひと

### 口に出す言葉は一度噛み殺す

後の祭、後悔せぬよう一呼吸置きましょう。 元に戻りません。しまったと思った時はもう で追い込まれたりします。一度吐いた言葉は 近頃とみに政治家の失言が多く、辞任にま

### 一人ぐらしの私をコケシの目が笑う 森下よりこ

くれるのです。 てきます。そんな時コケシが話相手になって と目覚めると、いい知れぬ淋しさが込み上げ 一人暮らしも気楽で良いけれど、夜中にふ

# 真四角に生きて秘密のない両手

りのない両手を少しだけリラックスさせてあ 作者はやさしくて几帳面なお方、その嘘偽 摘

### 花鋏多弁なバラの首を斬る

げて下さいね。

挟にかかっては一溜りもありません。 少しかわいそうな気もしますが… 自己主張の激しいバラの花も、容赦ない花 幹 子

# 濾過された言葉すとんと腑に落ちる

似て心に沁みるのです。 納得できるのですね。母からの無償の愛にも 飾り気も衒いもない素直な言葉だからこそ 小谷小雪

### 片方の耳で噂は聞いておく

聞いておくのが丁度いいのかも知れません。 噂とは所詮信じられないもの。片方の耳で 花岡順

る日本人の底力に世界の人々も驚いています。 した。危機に瀕した時、ひるまずに立ち上が このたびの東北大震災は未曽有の出来事で 人間って強いな瓦礫から熱意 坂 上 のり子

泥臭くてもいい、どじょう内閣に願いを託

日も早い復興を祈るばかりです。

### 節電か熱中症か熱い夏

らぬ程度に節電をせよという、その兼合いが むずかしいのです。 今年の夏も格別の暑さでした。熱中症にな Ш

# 息抜きはいいが手抜きは許せない

手抜きの私には耳が痛い気がします。 ご自分に厳しい方とお察ししますが、日々 羽田野 洋

### 叫んでも語りついでも八月忌

き出すのです。 戦中派はやはり八月になると昭和の記憶が疼 戦争を知らない世代が多くなりましたが、

### 上品な魔女が忘れぬほめことば

させてくれますから。 誰でも弱いものです。魔法のようにわくわく お世辞とは分かっていても、ほめ言葉には

# ドアチェーンの距離で仲良くお付き合い

石田 ひろ子

# ありのまま言われ腹立つ自尊心

ラストダンスまだ諦めた訳じゃない

三句とも共感を覚える句です。

子

106

## 竹原 記念川柳大会に参加して JII 柳会創立55周年

### Ш 本 希久子

ができ、竹原産の食材を使ったフレンチレス でもある。歴史ある街並みにも近年、道の駅 品評会で最優秀賞となった美酒の造られる街 る。海の幸、山の幸に恵まれ、特に全国清酒 やかな瀬戸内海に面した風光明媚の地であ トランもあり、新しいものと古いものが融合 らと輝いていた。 であると来賓の竹原市長の挨拶にもあった。 した竹原の魅力を全国に発信しているところ 安芸の小京都と言われる広島県竹原市は穏 8月28日はまだ真夏のような太陽がきらき

見えて一層なごやかな雰囲気となる。 可愛い盛りの蘭幸氏のお孫さん二人のお顔も 友が集いはじめる。熱い一日のはじまりであ 幸会長のご家族が総出で活躍をされていた。 る。大広間は24名の参加者で埋め尽くされた。 午前10時、大会の会場大広苑には続々と柳 受付では竹原川柳会会員の方と一緒に、蘭 ロビーの一隅には会の創始者山内静水氏の

> 写真、句の色紙、短冊などが展示されている。 定刻の1時大会は始まった。

みたところ38名という多数の投句者があり、 れた山内静水氏の没後20年となり竹原川柳会 蘭幸氏の挨拶があり、次のように述べられた。 のまごころと一緒にこれからもこつこつと歩 ただきました。小さな会ですがご出席の皆様 被災地の福島県からの投句もあって元気をい は55周年を迎えました。初めて事前投句を試 川柳大好きという情熱の焔で会を育ててく 川柳塔社主幹であり竹原川柳会会長の小島

時原刊都会创立五十五因生 記念川柳大会《場

竹原川柳会創立55周年記念川柳大会(

作の句を披露、川柳への関心を示され、会へ 誌面発表とされた。 87句のうち30句が読み上げられ残りの57句は の祝辞を述べられた。 んでいきたいと思います。 「川柳はすべて心のサプリメント」という自 市長の挨拶に続き文化団体連盟会長からは 披講は事前投句の3題からはじまる。

れた。 介し、 晩年の「生かされて未完のままのやすらぎよ」 世の句「ようようしてもろて幸せでした」や 命ふわふわ五七五になりませぬ」の句を紹 天笑名誉主幹は披講の前に山内静水氏の辞 静水氏の温かいお人柄や思い出話をさ

迎えた。 は過ぎ、予定より少し早目という終了の刻を りと会場ならではの醍醐味を味わううちに時 れた句を聞いて味わう至福の時をすごした。 続いて当日投句五題の披講が行われ、 なるほどとうなずいたり、くすっと笑った 選ば

に楽しい1ページを加えることとなった。 ある竹原駅ホームにはかすかに竹の風が吹き により竹原駅へとお送りいただく。竹の里で の祝宴を催していただき、川柳の旅の思い出 小さな小さな秋を感じて竹原をあとにした。 陽もまだ高い3時半送迎車のピストン運転 前日宿泊の湯坂温泉かんぽの宿では前夜祭

#### 新家完司のせんりゅう飛行船



はありません。もちろん、その減少速度も「じりじり」で

友の減少という形で現れており、我が川柳塔社も例外で



## じ り 谷

乏または欠乏の状態になること」となっていました。ら念のために広辞苑を開きますと、「じりじりと少しずつ貧らうな略語など辞書には載っていないだろう、と思いながような略語など辞書には載っていないだろう、と思いなが

ただ、一般的には経済的なことに限らず、個人や集団がただ、一般的には経済的なことに限らず、個人や集団がれている立場などについてもしばしば使用されています。私が気になりだしたのも、自分の体力や知力がそのような状態に陥っているからでしょう。疲れやすくなり、疲れが取れにくくなってきました。また、記憶力が低下したことに加えて、うっかりミスが多くなってきました。このようなことは老化現象であり誰でも多少はあるでしょう。私が気になりだしたのも、自分の体力や知力がそのようなに加えて、うっかり高さいのでありませんが、「じり貧」になっているのは間違いありません。

柳結社でも同じです。結社の場合の「じり貧」は、同人や削るのは不可能です。じり貧」は、全国的に展開している川とかし、「じりじり」の速度を遅らせることは可能です。散まなどの軽い運動を継続して筋力の低下を抑え、作句や読歩などの軽い運動を継続して筋力の低下を抑え、作句や読歩などの軽い運動を継続して筋力の低下を抑え、作句や読むなどの軽い運動を継続して筋力の低下を抑え、作句や読むなどの軽い運動を継続して筋力の低下を抑え、作句や読むなどの軽い運動を継続している。

似たちことってよ削乍が最ら重要なことでたが、ぬまたせんが、確実に減っているのは間違いありません。あり、いきなり半減、などという危機的な状況ではありま

不可能ですが、結社のじり貧は防ぐことができます。 は、大切です。作品を発表し続けることができるのも、 は全に経営し、次世代に受け継いでゆくのは、同人一人一 は全に経営し、次世代に受け継いでゆくのは、同人一人一 は全に経営し、次世代に受け継いでゆくのは、同人一人一 は全に経営し、次世代に受け継いでゆくのは、同人一人一 は、次世代に受け継いでゆくのは、同人一人一 は、次世代に受け継いでゆくのは、同人一人一 は、次世代に受け継いでゆくのは、同人一人一 は、かせにとっては創作が最も重要なことですが、発表す

に、まているとはずっとして、「こと」では、どのようにすれば、結社をじり貧から脱出させるの要因は死亡と退会です。亡くなられるのは防ぎようがあの要因は死亡と退会です。亡くなられるのは防ぎようがあの要因は死亡と退会です。亡くなられるのは防ぎようがあの要因は死亡と退会です。亡くなられるのは防ぎようがあの要因は死亡と退会です。亡くなられるのは防ぎようがあいませんが、高齢によるとは、どのようにすれば、結社をじり貧から脱出させるでは、どのようにすれば、結社をじり貧から脱出させる

大しましょう。じり貧からの脱出は、そのような地道な努力の積み重ねによってのみ可能になります。 話友の輪を広げることも不可欠です。同人一人がまた、誌友の輪を広げることも不可欠です。同人一人がまた、 
また、 
、 
はない目玉は、投句欄が充実していること。 
ま友でしたらはない目玉は、投句欄が充実していること。 
ま友でしたらはない目玉は、投句欄が充実していること。 
ま友でしたらい煙抄」「愛染帖」「檸檬抄」「一路集」そして「初歩教室」「水煙抄」「愛染帖」「檸檬抄」「一路集」そして「初歩教室」や「本社句会」への投句も可能です。このような特徴を説や「本社句会」への投句も可能です。 
また、誌友の輪を広げることも不可欠です。 
同人一人がまた、 
また、 
また、

#### 景色 髙: 源 朝 輕點 0 \* 70

奇数月の連載にな

# 6

というと、世間ではすぐ真面目な人とか、清廉潔白人と思う ンだとは言わないようにしている。何故なら、クリスチャン 教会(聖公会系列)に籍をおくものだからだ。啓虔なるクリ でしょ。私はそうじゃないもの。とても不真面目でふしだら スチャンである曽野綾子が「自分からはなるたけクリスチャ なりそんなことと思うだろうが、何を隠そう僕も、弘前昇天 な人間だもの」と言っている。 国国教会〈聖公会〉といって、フツーとチト違う。何故いき ム王子とケイト妃の結婚。英国はキリスト教圏の中でも《英 暗いニュースばかりの中、唯一明るい話題だったウィリア

にしないのは分かって戴けますよね。 あの曽野綾子ですらそうなのだから、僕がおおっぴらに口 一口にキリスト教といっても、いろいろ宗教があるので、

(法王) を最高首長とする世界最大のキリスト教会。 ここで簡単に説明しておきましょう。 キリスト教のメジャーは、カトリック教会。ローマ教皇

が、離婚問題で教皇と対立しーなにせカトリックでは離婚は ある。この2つには比べれば、聖公会はマイナー。 ト教会。カトリックに抗議する(プロテスト)という意味で 妃を6人かえたことで有名な英国王へンリー8世(16世紀) 一方、十六世紀の宗教改革で生まれたのが、プロテスタン ―ローマと絶縁。自らが首長となり、新しく設立し

> リ引き継がれていることは、ダイアナファンでなくとも、み んなが知っていることだ。 たのがその英国国教会(聖公会)なのだ。 この英国王室の浮気の虫は、チャールズ皇太子にもバッチ

も結構真面目に教会に行くようになり、僕も驚いた。 僕のせいで(?)、僕の息子も系列の幼稚園に入り、

そんなある日の我が家での会話

そう人を責めるものではないよ。お父さんが忙しいのは知っ 「それはそうだが、息子よ。まず、クリスチャンたるもの、 「お父さんも、たまには教会さ来ればいいんでないか」

会もあるべさ。とてもそんな余裕ないべさ」 待ったる日曜日は、大好きな映画館だべさ。時々は、川柳大 「それはそうだけど…」

ているべさ。ウィークデーは仕事。土曜も仕事。さあ待ちに

ていれば、それでいーんでないか?」 「でもさ、教会に行かなくても、自分でちゃーんとお祈りし

り浸かるだろ」(息子頷く) 一エッ?知らない?一日の仕事が終わるだろ。風呂にゆった 「それでいいと思うけど、そんな姿見たことないから」

で、おもむろに、お父さん大きな声でいつも言うべさ。『アー いない。次の日から、しっかりと大人になった。 →うめえ→めえ→めと変化した省略・短縮形。 メ(ン)』ってさあ」――《メ》は津軽弁で美味の意。 「食卓に付いて、しゃっこい(冷たい)ビールをクーッと飲ん 息子は、こんなアホな親には金輪際頼れないと思ったに違



## 掲載は原稿到着順となります。 毎月24日締切・35句以内厳守

**只都塔の会** 

求芽報

編集部

咲くことも散ることも知り喜寿の坂 きっと咲く花と信じて手を尽くす 風下の藁が内臓に突き刺さる 罪のない農家と牛の行く末は バラもボタンも花咲ききっていさぎよし 比ろ志 インコまでチデジチデジと小うるさい ナデシコが咲いた世界の頂点に カタカナの四股名始まるかもしれぬ 合歓の花咲いて初孫ふわり抱く 静脈の透ける白さよ夏を病む 石けりを孫に教えてやりたいが 気まぐれの雲と気が合う我が暮らし 能里子 則 延

川柳塔打吹(鳥取)

野口

節子報

説明が下手でいつでも誤解され あけすけに暮しの悩み言われても あけすけにお喋り過ぎて悔い残す 可も不可もないとあけすけ評価され 山猿のままあけすけのクラス会 説明文解らず機械叩いてる 機械オンチ説明さえも飲み込めず 弘 ふりこ 代

説曲げて即席だしに頼ってる 説教と父の鉄拳恐かった こ高説ですが急場の間に合わず

ちびっ子の発見定説くつがえす 説明もきかず許している絆

説教は横隔膜で聞いておく 伝説の女優が僕の町にいる かずお 旺 子 昭 夫

> 後釜の総理を決めるコンテスト デパ地下で試食の舌が味くらべ ひげづらの父さんかがし一等賞 爺さんをなだめてくれるキリギリス 六年間一位通した背の順

> > 久芽代

石花菜

盆踊りさながら浴衣コンテスト 柴犬の顔と尻尾で名犬賞

紀の治

鬼太郎の下駄が空飛ぶコンテスト

シミシワのコンテストなら出れるかな

**芙美子** 

敬老会我慢くらべのコンテスト

三津子

みち子

美代子

ひかり

ブランコに乗ってる沈黙の五秒 蜘蛛の糸でぶらんこしてる蜥蜴の子

くにこ

重

忠

見栄捨てて横断歩道手を上げて 家計簿を渡して楽になった肩 遊ぶのが好きな女と渡し舟 花から花渡る蝶々になる私 男と女の間を渡るこうのとり 平成の目玉節約コンテスト あちこちの診察券のコンテスト

人では渡れなくても二人なら

ブランコで孫に落され苦笑い ブランコをこいだ少女もすでに老い

太虚報

山を越え海を渡って花となれ あの橋を渡れば我が家温い風

富

惠

足して二で割った夫婦の半世紀 比呂子

遅咲きで良いよ元気なやんちゃくれ

何もかもアナタのお陰咲いてます こんや咲く蕾しずかな息づかい

公

子

あけすけな子供の問いにまいったなあ

オルゴールに心の闇をなだめられ 大家族怒鳴りあってもなだめない 拗ね気味のクーラーなだめ夏を越す 好勝負なだめられても気が重い ブランコは目が廻る程忙しい

> 継ぎ足したズボンはかせた頃もあり 足し合ってなんとか夫婦やってます 竹原川柳会(広島)

公

-110

足して二で割るとおもろうなくなった 四歳になれば出来ると暗示かけ 幸せのおすそ分けですプチトマト 口角を上げて生きようさあ古希だ ヒロシマの鳩には見える平和の灯 あれは山鳩修身の本読んでいる さみしさに鳩抱いていた少年期 もう余生この句も一つ足しておく 扇風機それぞれ一機持ち移動 寺の屋根鳩も読経を聞きたがる 先行きを<br />
思う今日<br />
一日とも<br />
思う 千代美 さち子 碧報 路 子 始まりは温度差のある嘘一つ やることが一ぱいあって良い目覚め 飼い犬に噛まれた疵がまだ疼く 謝れば意外呼吸が楽になる きつね雨意外な人の計が届く 種からは想像出来ぬ彩で咲く 山折り谷折り意外なことを喋り出す 友達はどう射止めたか美人妻 手の中の毬は意外な方へ飛ぶ 御忍びの高貴な方と露知らず 蛍飛ぶむかし昔を追いかける まず飛ぼう昨日の謎が解けるかも 飛んできた噂の種を蒔いている 鳥になったか片方のイヤリング ロゼワイン飲んで一気に飛んでみる 苦い水のんで明日を飛ぶ蛍 飛んでいるうちは見えない水溜り 飛ぶ前にもう決めている着地点 万人が認めるケチの寄付の額 意外性買ったつもりが只の人 生き死にの意外に軽く済む経過 カント読むインテリだった青テント 香典は故人の遺志でもらいます 被災地に成仏出来ぬ蛍飛ぶ 意外にもクイズの力脳きたえ 起世子 かずみ

教会の屋根の祈りよ鳩の二羽

先の先読むには少し若過ぎる つま先の不覚畳のその高さ 化のある十年日記埋めていく 庭先へ山椒一株生えて来た

親よりも先に逝くのも親不孝 予報士が洗たく物まで先走る もう少し足せば今より光る靴

## 佳句地十選 (10月号から

虹一つ足して余生を朗朗と

一に一足して三にもさせる技

おしゃべりをちょっと節約本を読む 手を抜いて素材生かした料理です どれにしよう閻魔の前で脱ぐ仮面 ふり仮名のように貴方に添うた運 すんなりと聞けない耳を持ち歩く 老人の役だ煽てと知ってても シマ子

折ってみたいあの人の鼻ポッキリと 昼寝して夜もしっかり寝ています 夫の介護出来る余力を溜めておく おだやかに行こうそんなに尖らずに

青空へカルテが躍る異常なし 青空をバックに蝶のランデブー 初めまして仮面を脱いだ原発炉 四季の彩混ざり始めている日本 遡上始める私も鮎も生きるため 炎天に始まる脳の液状化 八重子 登美代

よくもまああの手この手のいいのがれ 岸和田川柳会(大阪) 仲谷 青空が見ているボランティアの汗 オペ終り青空に翔ぶ天女見る

昭

蛍には源氏平家もない平和

和歌山三幸川柳会

まだ秘めた力を持っている私

くちばしに卵の殻のつく意見

## 柳塔みちのく(青森) 小寺

うとうととまどろむ人生走馬灯

猛暑にも耐えて走り穂目を覚ます 夕立に良いタイミング手を握る

うたた寝へははの小言が夢の中 夕立が大きな虹を従えて 添え寝祖母うとうと眠るが孫守る

幸せはバラー輪で世間並み 助かった自分を責める生き残り 次々と愚痴が飛び出す妻の酒 生きるって次次恥を重ねぬり 辛酸を乗り越えさせた応援歌 拉致家族見上げる空を雁帰る

孫よりも先にうとうとする添え寝 水撒きをていねいにして雨に遭う

ダン吉

耐えるのが義務だと言った過去を持つ アル中にならない様に飲んでいる 企みに耐えて抜け出す僕の脳 中毒と思うコーラのラッパ飲み

うとうとは決してできぬ蟻の列 中毒に鯖が嫌疑をかけられる 夕立が悪友誘う縄暖簾

世が世なら彬にノーベル平和賞

いさお ひろ子 楢 珠

螺子一つ世界を駆けるノーベル賞

ルパーの助けを借りて生きている

メカ音痴孫の助けが心地良い

中毒の怖さを知らぬ酒豪たち 中毒になりそうママのほつれ髪 ポカポカの陽気を食べる亡母の貌 夕立でひと息ついたダムの底 台風の目の中にいて眠くなる

封印を解くと次々湧く想い

**参金箱持って何度も立ちました** 

ーベル賞もらった人の名は忘れ

枝

蹴られても笑顔で耐える土筆ん坊 言を耐えて胡坐にこぶし乗せ

金と地位捨てて世間を丸く生き 世間など気にせず真ん中を歩く 遠回りして帰りたい家庭不和 次次と焼香に笑む師の遺影 目転車を助けるための歩道橋 幾度の挫折支えてきた絆

叶うなら欲しいノーベル平和賞 義援金遅配に善意泣いている

則 ひとし 生 彦

ふさゑ

義理と恩にけっぱなづいてばかりいる 川柳ふうもん吟社(鳥取)

夏目

つとむ 訂正の出来ぬ返事をしてしまう けっぱなづくと恋しくなってくる故郷

訂正をすればするほど悪くなる 特攻へ落ちこぼれたよ今がある 人生の最後に出そう正誤表

きよし

篩の目替えれば光る玉もある 忘れじとまた鐘を突く夏が来た

回春子

けっぱなづいて初めて気付く初老の身 団塊の世代へ継がんヒロシマ忌

間違いを素直に直すのも勇気

サルスベリ盛夏に耐えて美し

ヒロシマは遠い平和の一里塚

節

けっぱなづくつい口車乗りすぎて 出なおそうけっぱなづいた事忘れ

落ちこぼれだけど雑学博士です 復興はしてもヒロシマ染みのまま

とも湖

-112-

けっぱなづくふりして君の肩を抱く 消しゴムを捨て訂正はせぬ覚悟 傷跡が私の過去に恥かかす 広島をヒロシマにした放射能 責婦人がけっぱなづくと拍手する

夕立の蜻蛉は里の母を恋う

駅のホーム次次人が駆け込んで 迎え火に母の合図か風通る Fukushimaでなく福島へ帰りたい

竜之介

全没の句会むなしい落ちこぼれ

平凡でいいとつくづく思う日々 節電をすれば汗疹と不眠症 節電も長く生き抜くアクセント 節電も熱中症のおとし穴 節電はライフワークにして生きる クーラーは予備にゴーヤの簾植え 節電へこの機に遍路仏の灯 節電の夏親も子も裸んほ エアコンを消せば原発など要らぬ 賞味期限切れても旨い落ちこぼれ スリッパで叩かれている落ちこぼれ 落ちこぼれの花にもあった嫉妬心 朝令暮改いつもの事か菅総理 ヒロシマは日本に勇気くれました ヒロシマ忌核廃絶はまだ成らず 落ちこぼれ季節はずれの花が咲く 終戦日迎えヒロシマ語りつぐ 子守りしていつも学校落ちこぼれ 落ちこぼれでも孝行はしています ヒロシマの夏には千の風が吹く 八月六日ヒマワリは見たきのこ雪 川柳らくだの会(鳥取) 高知川柳社 小川てるみ報 宏章報 てるみ 茂登子 はつ江 和 K 郎 史 鳥 暑い夏若い美脚が長くなる 風評が無策の陰で乱れ飛ぶ 風船の割れるのを見て竹とんぼ 看板がないと香港とは言わぬ 剛の手がひらりと柔になる介護 なにくそと生きるしかないこの乱世 入れすぎて非常袋が担げない 戦争を知らぬ子供が疎開する 沈んでも浮き輪をくれた友がいた 菜園を荒らす獣にもう懲りた 渋々と右へならえで挙手をする 退屈でつけたテレビはコマーシャル 晩酌をはじめるまでの間がもたぬ 退屈な人が集まるパチンコ屋 大型店に食われ看板だけ残る 大小の輪幾重もくぐり今がある 看板はなくても味で勝負する 予定表今日も笑顔に会いに行く 責任を取るとは言わぬ評論家 栗ごはん少しの渋が旨み出す さよならの渋いヒットで校歌聴く 一枚目に招きが上がり海老が反る 八はみな支えがあって生きている 城北川柳会(大阪) 伊達 郁夫報 佐津乃 富貴子 せつ子 満 正 千恵子 美智子 子 眉唾もニコニコと聞く妻と居る 前に出ぬ様に時時立泳ぎ 青空にひびけ宣誓甲子園 不整脈止まらなければいいんだよ ここまでの地球の乱れ見ただろか 仁丹の看板残る里の辻 真っ新の看板夢のてんこ盛り 生臭い風がまだ吹く原爆忌 輪の中で居場所見付けた深呼吸 うなぎ屋の看板かざるいの一字 輪になっていま復興を語らんか 骨壺の中で乱れる遺産分け 輪をかけた呆れるほどのお人好し 鎮魂の大輪花火天燃やす 刃より腰に団扇の白浴衣 心臓に悪いことなど求めるな 口惜しさを呑むと心が乱れ出す この猛暑箍のゆるみに耐えている 原子村利権が事故で乱れだす 形状記憶すっといつもの縄のれ マスゲーム一糸乱れぬのが怖い 看板を降ろし言いたいことを言う 一日酔いの返事だ論旨乱れとる 川柳塔唐津(佐賀) 仁部 四郎報 志華子 たもつ ルイ子 とし子

朗

やかましかった母の躾が生きている ああ言えば更にこう言う妻と母 静かにと言うてるあんたがやかましい 熱中症やかましく子が見張り番 巣立つんだ姦し障子に舞うつばめ 遠慮ない仲にもほしい車間距離 良い事があったか足が地に着かず 蝉時雨よそに昼寝の高イビキ 足腰のかなわぬままにまだ車 節電の図書館で会う久し振り 爺ちゃんはハイドウドウの孫の馬 神様も年に一度のミーティング お静かに壊さんといてこのムード 5人目が産まれやかましい外野 エコエコと日頃のけちがやかましい やかましく噂花咲くゴミ出し日 敵の矢を受けてかばってくれた母 憲法の矢面ならば喜んで 忍術を使ったように逝った友 メモ帳に今も生きてる亡母の味 しなやかに生きよとさとす窓の月 川柳塔おっぱこ吟社(香川) 川﨑ひかり報 前 たもつ報 志華子 タカ子 はつ恵 放 いさむ ひかり よしみ 高 八重子 明 とりあえず手の鳴る方へ駆けて行く 上向いてはしゃいで見たい災害地 本当は喝にうえてる子供たち 短気です和解の度でまた喧嘩 和解にも積まれた金が効いている トラブルは阿吽の呼吸妻と俺 笹の葉に園児の夢は駆けめぐる 駆けっこが好きで兄弟競ってる 風評がメタボになって駆け抜ける 裏道を必死に駆けた土踏まず 最後まで聞かずに駆けたのが不覚 駆けつけた美人にバスも待ってくれ 行間に父の一喝埋めて秋 熱燗で五臓六腑へ喝入れる 気が弱い一喝なんてできません 父の一喝心の殼を割って出る 三方が一両損なら和解する 爪楊枝くわえて駆ける終列車 喝をすれば明日から独りぼち 喝を悔いて見上げる丸い月 喝の後はやさしい部下思い 喝の後はやさしく道を説く 喝は私のためと感謝する (中) 勝 柳弘報 とし子 百合字 シマ子 たもつ ルイ子 ひさ乃 弘 はしゃごうじゃないか東北夏まつり 励ましのメールで心地よい眠り 眠るまであなたをみとる里の夜 はしゃぎたい男の耳に笛太鼓 子守唄ソプラノ聞いて眠れない 人間にもどりはしゃぎの縄のれん 指切りの力強さを疑わず 清貧を貫く靴がちびている 熱帯夜平気で眠る子の育ち 逃げ腰の裾をしっかり掴まれる なでしこにはしゃぐ日本の濃い夜明け 信念が恋とお金に試される 男一匹こうと決めたらやり遂げる にんげんの底で信念折り曲げぬ やかましいはしゃぎすぎたよ蝉しぐれ 被災地の眠りはきっと浅かろう 大笑いした日の鬼はよく眠る 信念は決して曲げぬ蟻の列 ミニスカの癖が出ている裾捌き レアアース眠る資源は海の底 信念で明るく生きる柴田トヨ 節電で不眠が続く熱帯夜 裾野からやさしい風につつまれて なんとなく居心地がよい裾の席 再建へ残った樽のもろみから 江勝

あかり

のりこ

とし子

やさしさについ恋心寄せているをしたまえ後輩よりぬ時に憶えた恋の文字	ぶり易寄きとできてもが夫人 川柳塔まつえ吟社(島根) 相見 柳	旅帰り土産の数が足りないナァ クイズかもまだ着地点定まらず	いい年令でとけましたクイズ今いのち店先でやはり気になる放射能地球儀を回し飛んでる一人旅	一泊の旅だからこそありがたい いわーズ川柳会(兵庫) 木村貴代子報	初恋がひそかにはしゃぐ胸の内転生の衣の裾にまだ藻屑	だんじりの屋根で男は華になる信念を通した人に影はない	信念を曲げぬ女の肩の凝り 志し抱いて火の輪をくぐり抜け ぎざぎざのこころ眠らすシューベルト
禮孝政子流子	<b>柳</b> <b>歩</b> 年 <b>報</b>	2	て貴代を	いわる	惠 真理子	良太一一郎風	朝隆富子盛子
又秋だ心の隅にダイエット・ディー弾く君の指から秋になる	大で上へ美っト月上まれで上妻の心はやっぱりそうだ秋の空勢の心はやっぱりそうだ秋の空	秋夜長宇部みゆきの本を積む	水たまりここにも秋の月があるうろうろしてもダイヤモンド落ちてない	うろうろとしているうちに犬になるパトカーがうろうろ邪魔でしょうがない溜めてみてもどうにもならぬ老いの坂	新ダムが里の涙も溜めはじめ折々の笑顔こころに溜めておく	自分史にセーラー服の溜まり場所溜め込んだ智恵を生かしている細工模造紙のような女で手きびしい	再生紙過去は忘れた顔になる引き出しにありがとうなと置き手紙紙袋何を入れても笑わない
芳美ゆう恵子きま	茂 弘 民 長 美 充 子 吉	博ちえこ枝	桂 寿 千子 代 里	柳 芳 叮 歩 生 紅	注凇すみこ	幸左畔子余	知幸 久惠子代 枝
震災後とても多い絆婚を見えたり隠れたりの嘘をしたけ納め芳名帳にのる	断派の馬で一時帰宅の亡夫を待つ 胡瓜の馬で一時帰宅の亡夫を待つ 川柳塔鹿野みか月(鳥取) 土橋	いい笑顔母百歳へもう一歩人生もいろいろあって飽き来ない人生もいろいろあって飽き来ない	戦時中いろいろあって耐えてきたいろいろとあったが蛸焼焼いてます勢いをつける朝食かかさない	駆足で辿った過去を振り返るホオズキを抱くと童女に皆戻る大変な勢い私貝になる	いろいろな人との出会い大切に百の鬼百の仏が住むこの世	百華咲く中で撫子群を抜き丸い背な数え切れないドラマあと物言わぬ土にもあった好き嫌い	川柳ささやま(兵庫) <b>遠山</b> II
弘 照 小 學子 彦 鹿 郎	選彩 <b>螢報</b>	美照幸 代子	か 可 開る 住 子	多 啓 真 美 子 由	稠 哲 美紗民 男子	純 美 久 子 子 子	可住 蘭 水

愛国心に燃えたる兄の日誌読む	まみ子	十七己親の法事の最終か	螢	折角の節電被災地を思う
めまぐるしい世相に民は目をまた	かつ子	本性が見えてガッカリするお酒	稔	円高は山だ山だとどこが山
やせたいと思いながらのうなぎな	百合江	固かぼちゃ爺切り婆煮生きて行く	京	うたた寝の顔に涙の跡がある
スケジュール気まぐれ天気振り何	遡行	国産牛食べてないから安心だ	露子	婚活の会くっきりと紅を引き
お隣りも花粉症らし大クシャミ	雅美	泥の中凛と咲いてる蓮の花	惣子	月光に素肌くっきり露天風呂
季はうつるあの日のことがめぐりが	美千代	誘惑を振り切り帰路につく財布	いさお	鮮明な感情線が揺れている
今を刻む時計が過去を語り出す	み子報	川柳茶ばしら(愛知) 板山まみ子報		くっきりと見えるこの眼に感謝する
川柳培さ・らにく(鳥耶) 大き			かおる	折角の挑戦もまだ実が成らぬ
一叩をなっている。	正 子	満月がおもちに見えた下校どき	はるお	折角だどぶろく飲んで帰れいや
合格の笑みがこぼれる電話口	黒兎	無の境地知らずとうとう古稀過ぎる	重忠	沖釣りに折角出たが船に酔う
つい一言こぼした言葉拾えない	契子	貯金額とうとう達成ダイエット	富久江	折角のご縁ひまわり咲き誇る
沈黙の見合いに笑顔こぼれてる	順子	敬老のハガキとうとう私にも	忠良	火も風も掴む真実みんな嘘
あふれ出るジョッキ片手に暑気な	桂子	とうとうの流れに日日を置いてくる	くに子	長男へ嫁ぐ勇気はとてもいる
とっととこぼれる酒がまたうまい	扶美代	四角四面凝り固まっている意見	孔美子	膝に抱く姫の羽化まで見えようか
なでしこジャパン笑顔こぼれる味	春代	ままごとの御馳走ならぶ泥ダンゴ	節子	逃げたのはとても大きな鯉でした
心無くこぼした言葉は戻せない	幹治	たまに喧嘩愛を固める夫婦仲	<b>画和</b>	代理出席とても気まずい椅子になる
夏休み虫かごならぶ孫の部屋	久子	四隅から固めゆとりは真ん中へ	みさ子	衰えの自覚とっても寒くなる
もう飼わぬ言いつつ三度犬供養	公子	印象に残った人の名が出ない	実満	山が呼ぶ姥捨山も呼んでいる
飼っている犬より遅い俺の飯	柳童	印肉のいらぬシャチハタ愛用し	八重	動かした山の話が嵐呼ぶ
腹で飼うぜいたく虫も夏ばてし	勝	待ち合わせ友目印は縞のシャツ	汲香	布団の中に一番の山がある
貴重品初めて羽化したカブト虫	郁子	旗印復興はまだまだ遠い	永 子	山のぼり足とこころの戦する
取ったメモそのメモ何処に置いため	長一	丸い背に老いたしるしの詩がある	久 枝	八十の道大きな山を越えてきた
ポケットのあちこち押さえて探する	美智代	みとめ印ほどの気さくなお付き合い	満	俺たちの生きざま見てるゴミの山
川柳花の輪(大阪) 妻祭	黒兎報	ほたる川柳同好会(大阪)水野	諷 :	盛り場に小さな山の護り神
			美ッ千	折角のチャンスを掴めないでいる

ジュール気まぐれ天気振り廻す

ぐるしい世相に民は目をまわす たいと思いながらのうなぎ丼 うつるあの日のことがめぐりだす 刻む時計が過去を語り出す 川柳塔きゃらぼく(鳥取) 大塚

寿々子

き

恵子報

の見合いに笑顔こぼれてる れ出るジョッキ片手に暑気払い ととこぼれる酒がまたうまい しこジャパン笑顔こぼれる晴姿 くこぼした言葉は戻せない

勇太朗

みちる

やすの

ミヨノ

風

ットのあちこち押さえて探すメモ

重風報

たメモそのメモ何処に置いたやら

昭

のんびりとさせてあげたい父の靴 足音がのんびりしてる日のゆとり 退職金懐にして天下り 年金でのんびり老後とはいかぬ いつの日もどんな時でもマイペース 秋風にのんびり揺れる猫じゃらし かたつむりピッチを上げた事がない 去り難いみ霊を乗せて茄子の牛 恐い物見たさに心霊スポットへ 私にはきっと良い霊ついている お静かにいま芋虫が蝶になる 収穫の喜び知ったお芋掘り 遺体無き霊に無力の詫びを言う 霊域を巡りすがすがしい気持 水族館夏の宿題追い立てる 病魔とのいくさに勝った傷二つ 少しずつ草を引けよと盆が云う ゆくゆくは極楽浄土へ行くつもり 暮らしのリズム嬰児に学ぶこと多し 日にち薬動く右手に礼を言う 新薬といたちごっこの仮名うつ 霊界に会いたい人がたんといる 大きなことは出来ずに妻の乱終わる はびきの市民川柳会(大阪) 徳山みつこ報 ちづる 久仁子 喜久子 ヨシ枝 みつこ 未延子 アヤ子 いさお 佳代子 富美子 恵子 鶴 敏 司 代 子 大粒の汗だけが知るこの苦労 男まさりも切羽詰って泣いた夜 蝉の声止んで小鍋は重くなる 世渡りが上手と思う両手足 職人の孤独ないのち玉の汗 迫り来るたそがれの先読み切れず 炎天を味方のつけて百日紅 良妻と言われてどっと汗が出る 夕闇が迫りこけしが語りだす そんな事浮いた気持じゃ言えません 真白なノートへ知的好奇心 わたくしを好きだと迫る秋の風 団扇持つ左手いつも空けてある 空日を埋める回転椅子の私語 この汗がいつか花咲き実をつける 群青の海に浮んだ鎮魂歌 哀愁の指たおやかに風の盆 高らかに笑って終わる良いジョーク ポンポンとジョークも出ない夏疲れ 透明になれぬ誤解を抱いたまま つくり笑顔に濁点が打ってある ふと或る日罪なジョークが走り出す 人だけ場にそぐわない笑い声 会大阪 苗 千華報 よしみ 七 登 田鶴子 登志子 美代子 りつえ + 子 鷲 朗 子 Ż 雪 子 出世した夫の陰に妻が居る あこがれの歌はいつでも愛讃歌 古希ですがまだ純愛のサユリスト 神様の仕打ち許せぬこともある あの山を越すには歩く外にない 若いなア いつも何かに挑む人 険しい山越えて可憐な花を見る 乗り越しを知らず機械に召し捕られ 好奇心が境界線を越えさせる うかうかと恩師の歳を越えている 観覧車宇宙巡りをしたつもり 嘘でしょう言われて妻の目が迫る 眼の底に浮いた貴男と睦み合う カツカツと追い越されてる歩道橋 自分越えすると一歩の軽い足 幾山河越してくじけぬ老骨だ 足元まで迫る老いの一里塚 結論を迫るとひざがくずせない 海原をさまよい旅をするクラゲ カヌー漕ぐ切ないほどの新樹色 最終章わが階段を振り返る 柳会大阪

淳司報

司

みつ子

美智代

久仁雄

たけし

岩美川柳会(鳥取)
石谷美恵子報
川柳同友会みらい(鳥取)吉田
陽子如

神の手と呼ばれる名医きゃしゃな腕

蟹

郎

臓器提供惜しくはないが勇気なし

久美子 三和子 けい子 弘 弘 ササユリ作りの腕には自負がある 子だくさん喰わせた父の力瘤 腕の鳴る音を静かに聴いている 握手してそろそろ探る腹の中 膨れたら妻が敬語になってくる 北方の島へ思いが届かない 宝島探して旅はまだ続く 眠るときベッドは無人島になる 面接の敬語が舌をもつれさせ 緊張しお国なまりのある敬語 妻の敬語何か波瀾の前ぶれだ やわらかな敬語で人を刺しにくる 愛国心天皇陛下万歳を 腕のいい大工だったと夫の父 鍬を振る腕は夕日も気付かない なでしこが島根性を見せて咲き カミさんの腕の太さに惚れなおす みちのくの海で腕利き漁師待つ 右腕がライバルになる明日の闇 念入れて言葉の角をとる敬語 **人間が嫌いで無人島に行く** 圭 郎 はるお 司 子 良 忠 男 苦の中に楽がちょっぴりあればいい 勝負の日ラッキーカラー身にまとい 留守番はインスタントな昼にする 花束の中にやっぱり薔薇ほしい 風評に耐えて農家の光る汗 度忘れも度重なるとうろたえる 苦労した分だけ神に認められ 晴れ渡る空に伸ばした首の皺 同居でも玄関二つ平和なり 冷奴今日の暑さを慰める お荷物になりたくなくて虚勢張る 雷になって尻尾を掴まれる ひと言に宇宙酔いする時がある 幸せは曇り空からおりてくる 原発はいらぬがほしいエネルギ たくさんの出会いの中の彼と居る 左から総理の椅子に手が群れる 独り暮らし四苦八苦する貼り薬 ほろ酔いにブレーキかける奥の声 お借りした本の書き込み楽しんで エレベーター出来て階段上がれない 雨の日が三日続けばかごの鳥

出世無縁汗する父の日焼け顔 出世魚回る寿司なら百五円 栄転に嬉しい朝の靴光る 弱い者苛めがすぎるタバコ税 脳ドック歳相応に不満顔 突き放す心の奥の深い愛 愛の辞書脳がだんだん錆びて行く どうしても夫の茶碗よく割れる

逆さ富士鏡のように凪いだ朝 子ども手当なくなり腹の子が怒る 出世するたんびに帰宅遅くなり

人生勝負土壇場まではわからない フラ食器投げても怒り治まらず

出世払いせずに遺影が笑ってる

割り切って生きる前向きの笑顔 大ナマズふいに目覚めて大地割る

口下手は何処の席でも割を食う

徹な父は出世に遠くいる

薬傘連れて気ままな一人旅

芳

群青の海が育てた出世魚 割り箸を置かれ娘の客となる 山を割り神がヒト科へホイッスル 子の出世親は遠くで畏まる ずん胴になって女は強くなり 割り切れぬ奇数のような世に生きる

ふみ子

ちず子 くにこ

みち子

勢津子 かずこ 千恵子

ひとみ

背伸びして生きると老いて縮み出す 痒くなったそろそろしよう仲直り 良い方に誤解をされて落ち着けず 信号の変わりが遅い待合せ 名も知らぬ虫鳴き始めて秋巡る 春夏秋冬暦が少し狂いだす 百円で孫の手雇う痒い背な 身を捨てて内部告発する勇気 姿勢悪いよ言われた時にだけ直 残暑のせい松茸山に異常あり 相談もされずに孫の名が決まる 出発の合図茶碗を砕く音 直すほど愛着の湧く鳩時計 よたよたを気がせく青の信号燈 インターホン待たせて髪を整える 眼鏡掛け替え約款を読み直す にんげんの臭いに耐えて人となり 本物の握手が出来ぬ左利き 助手席から後部座席へ出世する 左手のリングが指に溶けている 長生きをしてねと孫のにくい口 戦いもほどほどにしな蝉時雨 豊中もくせい川柳会(大阪) 藤井 (永) 則彦報 行兵衛 知恵子 佐和子 美津子 歌留多 公 遊 雀 恵 弘 佑 眸 黒髪のアップ姿に恋心 叶うはずない音のせぬお賽銭 竹踏んで明日へ希望持ち直す 笹舟に幼き恋を積み残し 心の荷積んでは降ろしのくり返し 成績がアップの秘密誉め上手 アップしてうなじの黒子日の目見る バージョンアップ古希の頭が追いつかず ギブアップしないで次の波を待つ 撮らないでアップに耐える歳じゃない 妻の酌幸せ感度アップする アップダウン耐えてきました太い足 わたし発今夜あそびに来ませんか 恋発作こころの鍵が狂いだす 踏切りの先にひろがる幼い日 始発から遅れてバスがやってくる 縫い直しするほど艶の出る紬 発火点妻と僕とに少し差が 金本の二発でつなぐ首の皮 愛というひと手間かけた母の味 母国語も消化出来ずに外国語 打身よりおっちょこちょいを先ず直す 六甲川柳会(兵庫) 伊勢田 (青) 千賀子 毅報 能 きらり 美智代 郎 朗 言 ワンカップ呑んで天下を取る度胸 百薬の長を信じてお付合い 半額を貼られ勢い削ぐ鮮魚 夕立に朝から来てよと頼みたい 呑み助の飼い犬珍味ばかり食べ 携帯のベル鳴るたびに胸騒ぎ 国会はどじょうと金魚雑魚ばかり 褒めるから叱る言葉も効いてくる ごめんねが素直に言える人が好き なでしこのあの勢いを政治にも まだ元気子等の直球受けて立つ 口紅を差してきれいな嘘をつき 水没し家も妻娘もレクイエム ティタイム噂話に味をつけ 逃げ道を残して叱る母の愛 約束を破った罪のひとり言 草食系勢いをます世の変化 雨風が狂う勢い世の中は 楽しさの勢い余りハメはずす 勢いでまかしといてと言ったけど 勢いがあって止まらぬ口八丁 勢いを少し落とせば合う歩幅 勢いに乗れず私はマイペース 孫と祖父積木あそびが意地になり 善徳を積んで来世の切符買う 武 康 弘

茂 子

# 八十田洞庵報

負け将棋雨が斜めに降りしきる 負け犬がついでに振っているシッポ

復興へ天まで届け大花火 子の野球負けるも勝つも泣いた仲 価値観が一緒で楽しい友が増え 居直りの総理もやっと観念す よくやった努力根性ナデシコジャパン 節電です冷たいお茶です仏様 美

川遊び際立って見ゆ白き足 汗流すシャワー幸せかみ締める 才能と人格合わぬ世の乱れ

地震雷豪雨にあった里帰り

棒グラフ背にして歩く炎天下 雨続き雲を耕し畝作り 子育てをはき違えてる平和ボケ

川柳藤井寺(大阪) 鴨谷瑠美子報

言い負けてしばらく妻と口きかぬ いさお

> 思いきりジャンプ昨日の負け払う 品格ののれん代代負け知らず 最中の餡金貨になった夢を見る 大根にサンマー匹ついていた お負けしてくれる店に足が向く

中身ないおしゃべりをして昼下がり 紙風船愛情込めてふくらます 中身ないポテトチップスのような僕 人相見わたしの中身あててみて

明日逢う約束をしたシルエット 髪抜けて変わり果てたるシルエット しくじった自分を責めるシルエット

シルエットでも夫なら確実に当てる シルエット皺もたれ目もみな消える シルエットの影から人の心見え 旅に出て元気になったシルエット みつこ シルク

しっかりとどじょう研究いたします

○はチラホラ×がどっさりあるテスト

研究が続くおんなの台所 研究を身近に思う癌治療

信じてるその一言で心晴れ

西宮北口川柳会(兵庫)

小林

わこ報

喜代子 あかり

美代子 みよ子 婦美枝

立ち上るたんびに視野広くなり 真っすぐに立つ青竹の頼もしさ 風評に心痛めて立つ案山子

彦弘 ちづる 瑠美子 フジ子

扶美代 登志子

積んでは崩し崩しては積み塔が立つ 立って歩けるなんと嬉しいことだろう

手の内は全部知ってる影法師

ライバルの悩みへ知恵を貸す余裕 先祖から女性上位で来た家訓

ここは何処はっきり酔いが醒めた朝 ばあちゃんが学生時代という昔 日本中が晴れねばならぬ日本晴 五杯目まではっきり覚えていましたが

ŋ

平

枝 温度計外出禁止令を出し

負けないぞ諦めないぞこの暑さ 千円で映画見られる歳となり

史

エッセイの中身にそっと少年期

むつかしい心に薬を持てという

権力者一人で国が浮沈とは 大文字小指が絡む高瀬川

負けてくれ銀座でねばり笑われた 負け知らずこわい爆弾かかえてる

富美子 琴

玉手箱の蓋を開けてはなりませぬ

外形が中身写すと父の声

断崖に立つと煩悩消えて行く 棒立ちで津波の跡を見る嗚暇

芍薬ともう競えない立ち姿 筋道を立てて男は蛇行せぬ

受けて立つ度量少しは持ち合わせ

-120

嘉代子

比ろ志

浩司

どっさりの苦労を妻と仕分けする 名月を団子供えて待っている 父の背にどっさり生きる知恵がある 捨てきれず古着どっさり場所を占め

り火で	盆さんもあっとゆう間に送り火で	耀 美代子	清濁を飲んでも深い海の青	第 他 子	秋茄子は日差しで実り嫁にやる 断りのメール動画が頭さけ
	令まし方よく知うないで然やしてた大文字セシウムやはり嫌らしい	<b>義明</b> <b>報</b>	西川	美 あか 茂	近いでは、 がいるなどのとかかるさ白い雲 がいまれず今がある
	お付き合い八方美人はやめにする	美籠	することない一日なんて夢のゆめ		我慢にも限度があると腹の虫
	米子住吉川柳会(鳥取) 渡辺多美子報	ヨ 初シェ 音	告告」満月急すものまない愛情も限度越えると怖くなる	五京月江	あって「折)きにな子をよりあー暑い言いたくないけど言ってもた
	明日のため今日をしっかり生きてます	耕治	十二時まで起きてましたとメモ残す	雪菜	すっきりと気分を変える美容院
	憎い海だけどやっぱり海が好き	ひとみ	母さんはゆるさないよと抱きしめる	洋子	上り下り手すりさがして老いを知る
	蛇口から水出ない日が三月とは	哲男	まだ十時もう陽炎が立っている	泰子	秋近し日差しの強さ夏もどり
-	聞かないで黙って握らす母の札	かずお	割り切って捨てて押入れ空にする	こはな	引き返す勇気がなくてペダル踏む
	蛙でもとんぼでもいい元気なら	菜々子	木漏れ日のバックミラーで引くルージュ	対	川柳あまかさき(兵庫) 加川 対
	一世代遅れた暮ししています	キヨミ	熱烈な愛の限度に火消壷	3	ì
	ハンドルさばき巧い女房が居る安堵	美代子	ブレーキをすべて壊して老の恋	弘子	明日がある思うゆとりで楽になり
,	夫婦箸揃うと歴史話し出す	りこ	目覚めすっきり昨夜のうちの仲直り	わこ	区切り良し冷えたビールを持っていく
4 344	初恋のひと見ていまだ心揺れ	比ろ志	秋落暉日差しに溶けてゆく虚影	千代	噂にはならない人と喫茶店
. =	被災地にいやな余震がまだ揺れる	奮水	ご馳走も限度弁当腹八分	ひとみ	少しだけおこっていると美人です
Second .	帰省ごと竹馬の友とうまい酒	朋月	猛犬に注意と門に貼ってある	折抗	散る日まで花は笑顔を絶やさない
: 77	厚塗りで河内音頭の輪に溶ける	祐康	暴力としつけの境知らぬ親	忠	絶好調今朝も自分に言い聞かす
-1-	ハイ何と心に響くいい言葉	勝巳	名月も被災地に目を丸くする	哲夫	拷問が続く地の底海の底
-	我は行く楽しき道の夢を追い	靖鬼	省エネのゴーヤ日差しに立ち向う	盛夫	人生は下りの方がよく見える
19.7	上り下り握る手摺に老いの影	野薫	東北の民は蘇生の舞いを舞う	順子	赤ん坊をどっさり産んでほしい日本
	犠牲者の冥福祈り護摩木焚く	里江	トライする脈があろうと無かろうと	淑子	夏休み昆虫博士鱼学者
	みどり児の握りこぶしにある未来	純	かたずけてすっきりしたが落着かず	キヨミ	なでしこにどっさり元気ありがとう
-	本場から今年も届くクール便	よしひさ	黒い服日差しに文句言うカラス	正和	転勤がないので溜まる粗大コミ

塔婆の字囁きあっている法事 沙羅の花亡母に詫びたいことばかり 黄砂吸いフーと吐き出す鯉のぼり

未延子 ふみ すみえ 聞いてるのふむふむだけでわかったの うんうんと舌癌の友Vサイン

## 柳ねやがわ(大阪) 籠島 恵子報

賀寿恵

石花菜

七十年水潜りした事はない

けいこ

吉川柳会(鳥取

照彦報

枝豆で一杯やろかうれしい日 チェックした手帳絵文字が多過ぎる 幸せにつかりすぎてる物忘れ ガス栓と施錠チエックに舞い戻る 優しさに心傾けられる友 男です四の五の言わず払います 弱点のある友がいて安らげる パレットに何色出そう青い空 弘 ルイ子 じゅんこ 風 風 籠

やさしさにふれて明日も生きられる 上水道漏れて恐怖の大出費 暑い時ごちそうよりも欲しい水 時々はお墓に水を飲ませてる 鉄砲水ブルドーザーが溺れとる

優しさは釣るためまいた餌だった

喜美子 由紀子

兄弟の心一つにした津波 兄弟に違い過ぎてる伴侶たち 部下誘いおごるとみせて割り勘で 傾いた柱支える家族愛 日日写経心の余裕追いかける

日出子

優しさでどじょう支えるドラエモン 失言の尻尾はいつも狙われる 夜にて変わるふむふむ仲の良さ 貞 恭 智恵子

重

とし子

向き合って笑えば笑う母が居る 孫帰るそっと財布をのぞく爺 熱中症防止の水で太る秋 ギススキこの世の愁いためながら

姉妹逢えばお金と死ぬ話 傾くのに理由はいらぬ好きは好き 三本の矢を引き合いに出す父の喝

弘

江

## 大山滝句座(鳥取) 完司報

銀

杏

来年も鉛筆削る意欲ある 豊かだった胸毛写真に撮ってある 来年のことは親鸞さまに訊け 仏さんになった後でも金が要る 神さまが多忙を理由留守にする 用事などないが時どき寺参り 格安卵財布豊かにしてくれた 定位置に眼鏡と辞書が待っている 透明になるまで秋の本を読む 天災さえなければ四季が彩られ ヘルペスが残暑見舞いにやって来た 美ッチ 重 石花菜

ずるくないので政治家はできません パプリカの兄弟一個色づかぬ お互いの度忘れチェックけんか種 兄弟がみな老人になりました プロポーズしているように花が咲く 鈍甲 かすみ 暑かったせいかな夫婦よくもめた 託された用事果たせぬままで病む 豊かではないがふつうの暮らしです 娘から老年整理参考書 はかどります腹立ち紛れする用事 雑用のために生まれてきたような

すみる

Œ

髭剃ってふむふむこんなもんかいな コロンボの背中ふむふむ推理する ふむふむと西瓜の種を吐き捨てる 失言は頭を下げて舌が出る

失言を聞き笑う人怒る人 失言も笑って流す歳になり 大臣の失言癖に染まる国 失言が恐怖になって貝になる 吾が家にはいつも優しい山の神 突っ張りが消えた優しくなれるかも 老い二人たまに優しい語り口 優しさに出合うふる里夏祭り

傾いた影たずさえて日は落ちる

美智子

けいこ

いらぬ口出して老人うとまれる

酔芙蓉 美代子

-122 -

### 第 回 存 0 ]]] 柳塔ま つり誌上 大 会募集

く機会として誌上大会を企画いたしました。参加要領は左 ない方々を含め、結社を越えて広く川柳をお楽しみいただ 記のとおりです。是非皆様のご参加をお待ち申し上げます。 このたび川柳塔社では、 日頃句会などにお出掛けになれ

### 課題と選者 課題吟 (各題二句 共選)

S 5 < III Э III

新 社 社

Ш 社

雑

詠

旅

西

投 投句要領 句 きない場合は便箋などご使用いただいても結構です。 規定の用紙(コピー可) 000円 (切手は不可) または、 用紙の入手で

送 投句締切 付先 平成二十四年二月二十日 (月) T543-0052 消印有効

大阪市天王寺区大道一—

四一一七一二〇一

TEL 川柳塔社 誌上大会係 宛 ―三四九〇

賞及び発表 各題秀句に賞呈 柳塔誌を購読されていない方には発表誌呈 /FAX (○六) 六七七九 発表は川柳塔誌五月号誌上











### テーマ III 柳 لح

私

- 川柳をはじめたきっかけ
- 句を書くのはいつ? どんな時?

・川柳と出会えてよかったと思うこと

- 川柳に対する思い入れ、好きな句
- あなたにとって川柳とは?

など、 何でも結構です。 (同人のみ)

締 切 12月24日

行20字・

65 行

(原稿

用

紙3・3枚

☆原稿の採否は編集部に一任願います。 また原稿は編集の都合上添削する場合があり

☆掲載は不定期です。

ます。

句会名	日 時 と 題	会場と投句先
川柳さんだ	15日(火) 13時から 内緒・酌・辞書・しっとり 自由吟	三田市中央公民館 〒669-1546 三田市弥生が丘5-2-4 堀 正和
岸和田川柳会	19日(土) 13時30分締切 是非・畳む・常常・バーゲン	岸和田市立福祉総合センター 〒596-0076 岸和田市野田町2丁目13-19 中岡香代
川 柳 塔みちのく	19日(土) 17時締切 脱出・楽天家・ちらちら	弘前市桶屋町4-7 居酒屋とんぼ1階「川柳道場」 〒036-0161 平川市杉館宮元53-1 小寺花峯
川 柳藤井寺	20日(日) 14時締切 ドクター・森・席題は共選	藤井寺市立生涯学習センター・シュラホール 3 F 近鉄南大阪線藤井寺駅下車南徒歩10分 〒583-0023 藤井寺市さくら町2-2-201 高田美代子
岬川柳会	20日(日) 14時締切 近い・所・迷路	淡輪17区集会所 南海みさき公園駅・徒歩6分 〒599-0301 大阪府泉南郡岬町淡輪3592 八十田洞庵
豊 中もくせい 川 柳 会	21日(月) 13時40分締切 外れる・相談・そっと・自由吟	豊中市中央公民館 阪急曽根駅南東・徒歩5分 〒561-0801 豊中市曽根西町2-8-4 江見見清
南大阪川柳会	21日(月) 18時から 漏らす・野菜・ハズレ・雑詠	大阪市立住まい情報センター 5F 研修室 地下鉄谷町線・堺筋線天神橋6丁目駅③号出口 〒540-0004 大阪市中央区玉造1-16-13-304 前たもつ
川柳クラブ わたの花	25日(金) 午前 9 時30分から 犬・紅葉・狩り・自由吟	八尾市生涯学習センター 〒581-0012 八尾市小阪合町1-4-8 西川義明
川 柳 塔 すみよし	26日(土) 14時30分締切 毬・促す・凄い	住吉区民センター 南海高野線沢之町下車 3 分 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉3-16-8-206 鶴田遠野
和三川 柳 会	26日(土) 12時30分開場 まさか・反省・人柄	和歌山商工会議所 4 階 第 2 会議室 和歌山三幸川柳会事務局 〒640-8111 和歌山市新通7-17 古久保和子
はびきの 市 民 川 柳 会	27日(日) 14時締切 柿・謝る・レジャー・川	綾南の森 公民館 近鉄高鷲駅北東・徒歩10分 〒583-0882 羽曳野市高鷲8─31─11 塩満 敏
川 柳 ふうもん 吟 社	27日(日) 13時30分締切 逆算・コスト・目ざわりだ	鳥取駅 2 F シャミネホール 〒680-0872 鳥取市宮長205-45 萩原美雪
京 都 塔の会	28日(月) 吟 行 冴える・あさはか・船(舟)	寿長生の郷・叶匠寿庵 集合: JR石山駅北側 9 時40分 〒600-8428 京都市下京区諏訪町通松原下ル 弁財天町328-202 都倉求芽
松 露川柳会	28日(月) 19時30分締切 みかん・腹・雑詠	溝口五区集会所 〒689-4201 鳥取県西伯郡伯耆町溝口757-3 小西雄々

<sup>★</sup>日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所 (06-6779-3490) へご連絡ください。

句会名	日時と題	会場と投句先
川柳塔ら	2日(水) 吟 行 試す・法・老舗	太景園 けいはんな公園内 集合:11時 近鉄奈良駅前(商工会議所ビル前)
川 柳 ねやがわ	3日(木) 市民川柳大会 決済・やりがい・道草・留守 パレード・儲ける	寝屋川市市民会館 第一会議室 14時締切 〒572-0063 寝屋川市春日町 9 - 9 高田博泉
城 北川柳会	5日(土) 13時開場 余白・節目・したたか・自由吟	旭区老人福祉センター 3 F 地下鉄千林大宮③番出口 〒535-0002 大阪市旭区大宮4-10-18 神夏磯典子
富柳会	5日(土) 13時開場 癖・その時・自由吟	富田林市中央公民館 近鉄南大阪線富田林駅下車南へ200m 〒584-0043 富田林市南大伴町4-1-10 TEL 0721-25-0603 池 森子
倉 吉 川 柳 会	5日(土) 14時締切 珊瑚・忘れる・盛る	倉吉市 明倫公民館 〒689-2221 鳥取県東伯郡北栄町由良宿2072-17 谷口次男
川 柳 あまがさき	8日(火) 14時締切 言い訳・痛む・もしや・自由吟	尼崎女性センター トレビエ 阪急武庫之荘駅南へ200m 〒661-0953 尼崎市東園田町2-45-8 山田耕治
ほ た る 川 柳 同 好 会	8日(火) 13時30分締切 腰・通る・○外	豊中市立蛍池公民館 阪急・モノレール 蛍池駅駅前ビル5 F 〒561-0813 豊中市小曽根2-4-1 水野黒兎
あかつき 川 柳 会	11日(金) 14時締切 破る・森・御飯・時事吟	大阪保育運動センター(新谷町第1ビル2階) 地下鉄「谷町6丁目」駅③番出口から3分・道路向い側 〒599-0232 阪南市箱作1586-14-102 森村美花
川柳塔さかい	11日(金) 13時から ちぐはぐ・迎える・ざくろ	堺市総合福祉会館 〒593-8305 堺市西区堀上緑町2-16-3 河内天笑
川柳大阪	12日(土) 14時締切 沈む・絆・優先	地下鉄・長堀鶴見緑地線 京橋駅「研修室」 〒533-0004 大阪市東淀川区小松1-18-24-14 長井善純
川柳塔まつえ	12日(土) 14時締切 しずく・スイッチ・担ぐ・点	松江市雑賀町 雑賀公民館 〒690-0056 松江市雑賀町366 錦織禮子
川柳塔打吹	12日(土) 14時締切 ブランド・露・回る	倉吉市上灘町 9 上灘公民館 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光
八尾市民 川 柳 会	13日(日) 13時30分締切 記憶・駅・聞く・雑詠	八尾神社内 西郷会館 3 F 近鉄八尾駅西口徒歩 5 分 〒581-0831 八尾市山本北5-9-3 土谷罐-
川 柳 塔 わかやま 吟 社	13日(日) 13時40分締切 損・養虫・ぬるぬる こそ(助詞)	和歌山ビッグ愛 〒640-8319 和歌山市手平2-1-2 川上大輪
西宮北口川 柳 会	14日(月) 13時45分締切 乱れる・四角・パラパラ 自由吟	西宮市立中央公民館 阪急西宮北口駅南出口歩3分 プレラにしのみや 〒662-0062 西宮市木津山町 3 ―15 亀岡哲子

## H

は8月 センターで開催。参加者174 ★第55回愛媛 普通列車にしよう夕陽に 同人の天位次の通り。 21日大洲市社会教育 夏 の川

加者130名。同人の天位。 性総合センターで開催。 柳大会は9月4日、 ★第43回新居浜峠社近県川 泡食った顔をカメラにキ 遭えるから 宮尾みのり 同市女

11日、 162名。同人天位次の学ホールにて開催。 鶴彬忌記念川柳大会は9月 ★あかつき川柳会創立10年 総合成績で9位。 彬 多喜二の が笑った ヤッチされ 黒田 大阪健康福祉短期大 同人天位次の通り。 一の時代の母は 挑むヒマワリ 徳山みつこ 。参加者 茂代 1

★富柳会第61回川 人秀句は次の通り。 月17日開催、参加者93名。 アニメより 楓楽

社同人の秀句。 所で開催。参加者21名。 は9月25日和歌山商工会議 ★第19回和歌山県川柳大会 ん思わない 岩佐ダン吉 潔よく散ったなどと母さ

和歌 和歌山県知事賞 植える 百年の紀州見越し 山市長 喜田 て樹を

は9月25日吹田メイシアタ ★第44回吹田市民川柳大会 大内 朝子 落胆を救う真っ赤っ赤の

参加第39回市民川柳大会は ★第45回東大阪市民文化祭 88名。 育センターで開催、 同人の秀句は次の通り。 観覧車しばし浮世の外に 月2日、 欲全て捨てますいただい 同人秀句次の通り。 東大阪市社会教 参加者

夕べ」は9月15日、

兵庫県

★第8回美と川

柳「観月の

掲載された。 家完司副主幹のコメントも か」が紹介された。 10月1日に「川 ☆朝日新 初めての川 開朝刊55 柳しません プラス欄 また新 として

ては」を発表した。 231号に、随想「あまりの 事・和歌山市) は川柳杜人

ました。享年74歳。御家族 田市)は9月12日逝去され の日井二英さん(同人・三 のみに見送られました。  $\nabla$ 御芳志御礼△

藤井寺市)から御厚志拝受。 尾市)から金一封拝受。 ○内海幸生さん(参与・八 )髙田美代子さん(参与・ ▽出 版△

にて開催、参加者13名。

人三脚』を上梓。 A6 槻市)は夫婦句集『続・二 西出楓楽。 を上梓。A5判21頁。序文・ 阪市)は句文集『紙つぶて』 ○川端一歩さん(参与・大 ○富田美義さん 序文·松尾一笑。 (同人・ 判 261 高

▼10月号=P5下段2行 の給料→社

果 理 ▼10月号=P26上段16行 ▼満10点 旦 と忘れてた→ころりと 風·月 号= 楓楽 P 83 E. 段

9

行

同人総会・記念句会・懇親

柳塔まつり

の最終確認

会) ②第1

回春の川柳塔ま

常任理事·

会=9月26日月①

紹介者

完司弘

☆木本朱夏さん(常

任

10月号=P126中段2行10月号=P26中段2行

30分~ 次回=10月24日月 PM

PM 13 時

地句会代表者·役員拡大会 つり誌上大会について③各

▽新誌友紹介 藤原

羽曳野市 紹介者 飛永ふりこ 大子

かかわらず投句できます。

cm

·長さ25 cm)

の用紙に

裏面に姓名

案内に同人総会の記述が洩 び申し上げます。 け致しました。謹んでお詫 係者各位にはご迷惑をおかれておりました。同人・関 10月号表紙裏川柳塔まつり

#### 本社句会投句のご案内 ★同 ★句 ★句会開催 よう本社 各題一句ずつ楷書で記入。 人 ・誌友に (幅 4.5 を記入のこと

9月号=P9上段4 お詫びして訂正△ ★問合わ ★投句料 せ・本社事務所 . 五百円 あてお送りください。 日の一週間前までに到着する 六一六七七九 (切手可 1 兀 九

0

-126

## 第31回 Ш 柳塔 鹿野みか月川柳大会

場 В 所 時 鳥取 12月 市鹿野町総合福祉センター 11 日 0 午前9時開場

題 席題なし、 鳥取県鹿野町今市650 『和泉荘』大広間 TEL 0857-84-2453 各題2句 締切11時半

課

たましい 一歳 雲 月 森 出 惠美子

슾 費 繕 財 2000円(昼食・発表誌・記念品呈 かず お 選 選

認

知

完計

選

器

浜 家

選 選

森

風

欠席投句 応募締切 1 11 月 25 日 000円(発表誌呈:切手不可 金

IE.

体

加賀田

志延

選

投句締切

12 月 24 日 10

欠席投句

00円

(小為替·発表誌呈

応募先 F689-0405 鳥取市鹿野町鹿野1279 中 原 諷人

TEL 0 8 5 7 | 柳塔鹿野みか月事務局 方 84-210 0

懇

親

会

3

00円

会

主

川柳塔鹿野みか月

#### お 第30回 か げ さま 鳥取県没句川柳供養大会 で30 周 年

第3回

・新春たましま川柳大会

٢

き

 $\pm$ 

۲ き 12 月 18 日  $\widehat{\mathbb{B}}$ 

ところ 新日本海新聞本社ビル

JR鳥取駅南

題 各題2句 席題なし

兼

Ξ 敗者復活吟 度 目 両川 土. 田 欣之 洋々 謝選

仰 尻 光久 選

1) 償 11 1 + 3 ル 春木圭 藤原 鬼桜 郎 選 選

投句締切 費 2000 11 時厳守 円 (昼食·作品集呈

主 催 川柳ふうもん吟社 9時開 場

5階大ホール

参加費

2000円

昼食・記念品・

ところ

浅口市民会館金光 10時開場・11時半締切 平成24年1月7日

旧金光町民会館

徒歩3分

兼 題

各題2句

笛 I 藤 千代子

当日席題 恋 砂 飾 都 西 新 嶋 福 田 村 村 みなみ ねえね 完 司 良 選 選 選 選

投句先 T719-010 浅口市金光町占見新田 北 TEL 0865-42-6039 1325-1

Ō

主 柳たましま社

-127 -

### 編 後 記

興のシナリオも読めない日 から七ケ月になる。まだ復 ★3月11日の東日本大震災 かたすみと てくることを祈る。 らせる日が一日も早く戻っ ら笑える日が、安心して暮 しなかった私たちにも心か の山の一丁目」は石巻市で と書く便り」「現住所瓦礫 んの川柳。被災地にも被災 震災に遭われた渋谷

ع ت

いう名の茶房

★待ちやすし

勝浦の世界遺産の熊野古道 あったが、紀伊半島の那智 山市内は幸いにして無傷で 者を出した。私の住む和歌 12号、15号台風は和歌山県 ぐ連詩作品集』『英語俳句 ある。著書に『英詩につな 語俳句に魅せられた学究で 者の吉村侑久代先生は、英 お話のR・Hブライス研究 月10日開催された。今年の 本に、今度は台風である。

★第17回川柳塔まつりが10

も崩落したと聞く。かつて

人門」など多数。

にしても近年、世界的にも 今になって突きつけられて いるのではないか…。それ ★山を護らなかった付けが で聞くたびに胸が痛む。 置山などの惨状をニュース 訪れた奈良県十津川村や玉 である。「山茶花に心残して び、現地の関係者や研究者 にも取材された貴重な著作 たイギリスやアメリカに飛 は海外の資料を網羅し、ま ★先生から贈られた著書の R・Hブライスの生涯

のだろうか。 払い続けていくことになる 化の付けを、私たちは今後 災害が多すぎる。地球温暖 ★「もう笑うことはないよ と知って、こころにほっと ★渡辺隆夫氏の寄稿はお楽 響くものがあった。 日本語で書かれた辞世の句 旅立ちぬ」が、ブライスの

でも元気で過ごせる気がす

しれません。

役かってくれているのかも

ように努力しなければと思

川柳をしていると何時ま

に入れて頂きたい。 誌上川柳大会を今から予定

## 車の両輪

編集の傍ら、平成二十年十月会計 事かという事を悟りました。 りました。でも、 平成十九年十月から編集スタッ

یخ

ではなく、発想、着想がいかに大 だから自分の実力が上達するもの 接する事ができ、大いに勉強にな なりました。皆さんの佳句に多く 任命され正式に編集に携わる事に 月から常任理事として編集部員に 員に加えて頂き、二十年十 佳句を多く読ん

> を痛感している次第です。 管理を任されました。責任の重さ 部長に任命され、 川柳人口の減少や高齢化が川 川柳塔社の財

つける誌面が求められます。 魅力あるもので、読者の心を惹き なりません。それには川柳塔誌が 柳塔を逞しく育てて行かなくては 切な遺産を守り活かしながら、 塔社にも起きています。先人の大 編集長ほか新しい部員が知恵を

いいでしょう。 絞っておられますので、期待して

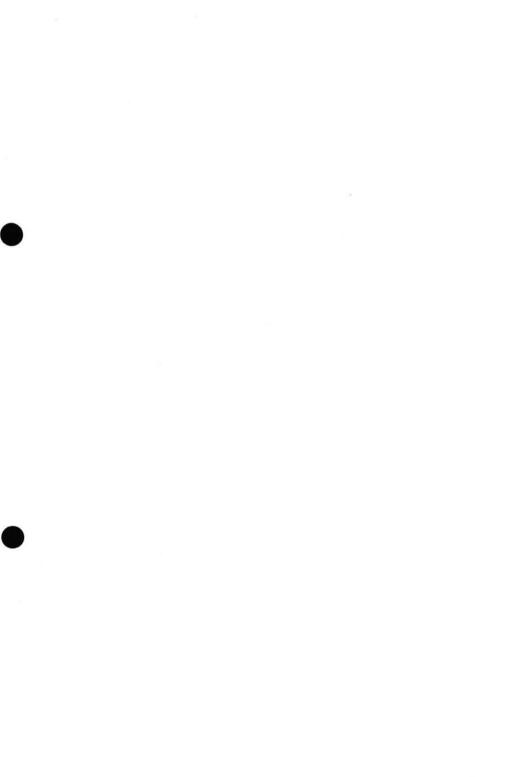
と、墨作二郎氏が耳打ちし ★第一回春の川柳塔まつり てくださった。 のもうひとつの顔である ョウ蝿の研究者」が渡辺氏 大学教授であり、ショウジ 書き、自分の句の披講をド くおしゃべりをし、 ることで運動になり、楽し しまうのですが。 ることで頭を使い、文字を ▼あちこちの句会にでかけ

士であり、かつては京都の ッセイでしたね。「理学博 んの川柳らしい、楽しいエ しみ頂けましたか。隆夫さ

は、みな若さを保つのに一 キドキしながら待つ緊張感 ぱり歳かなと思ったりして っかりミスが続くと、やっ います。でもその割にはう るのは私だけではないと思 作句す 嬉しいのですが。またその 味を持っていただけると、 とりわけ若い人たちにも興 楽しい川柳を、多くの人に 続けていくことでしょう。 す。私もきっとこれからも 方が大勢いらっしゃいま 続けていらっしゃる先輩 ません。三十年、四十年と 長く続けられるのかも分り ・上下のない横の繋がりの だからでしょうか川柳を

	川柳塔(同人)・水煙抄(誌友)投句用紙	<b>種</b> 目 「
◎8句を楷書で正確に書		」発表 <b>(1月号)</b> 地
◎8句を楷書で正確に書き、15日までに到着するようお送りください。		地名

同人・誌友 マルで囲んでください。



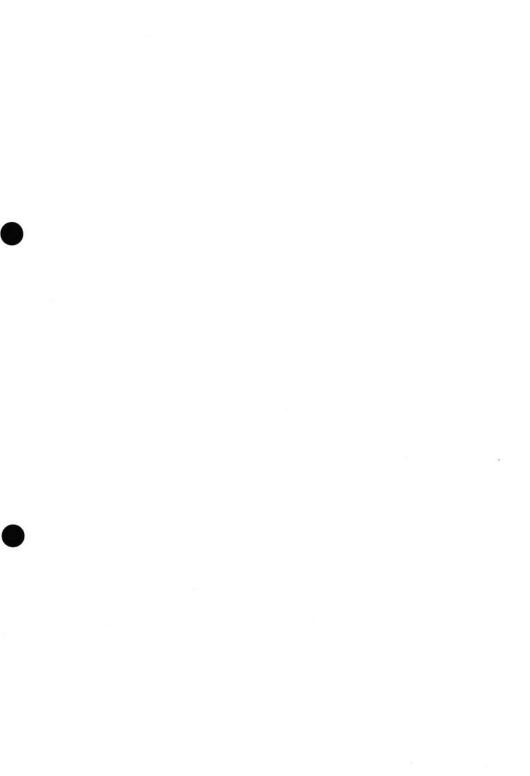
#### 檸檬炒投句用紙

「ぜいたく」 (11月15日締切)

1月号発表

池 森子選 — 共選 — 福士 慕情選

	В	Α			В	Α
地名				地名		
県府 姓雅号			切らないで下さい	県府 姓雅号		



1/9頁

1/6頁

1/3頁

2/3頁

1/2頁

1頁

(ご希望の大きさを○で囲んでください。

原稿を貼布される方は、 この位置に貼り付けて下さい

¥riπ ∐∐	電	話	住	所	姓・雅号
川柳など掲載希望事			∓		
事項	)	_			

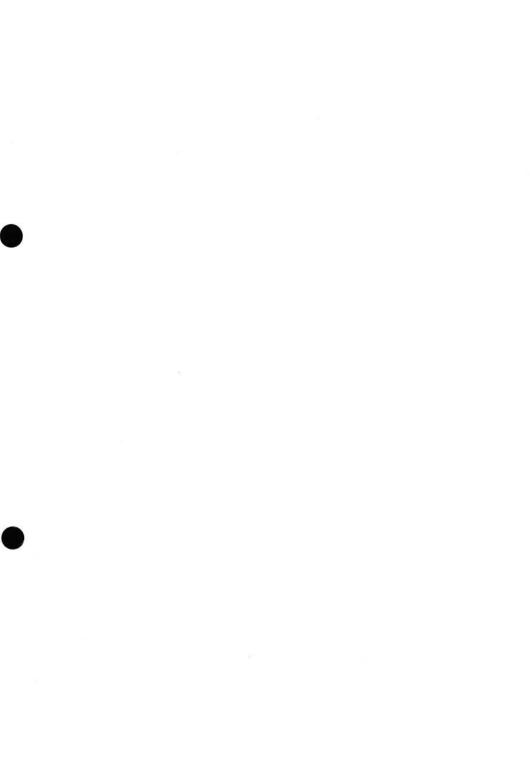
# 送付先 T543-0052

大阪市天王寺区大道1丁目14番17号

]] 花 野ビ 柳 ル 2 0

1

塔 社



川柳塔誌新規購読申込書

年

月

日

氏

名

電

話

紹介者

00

年

月から一年

9800円

該当の方に○をつけて下さい

₹543 -0052

Ш 柳 塔 社

(電話

06-6779-3490)

花野ビル201

振替 00980-4-298479

大阪市天王寺区大道1丁目14番17号

年

月から半年

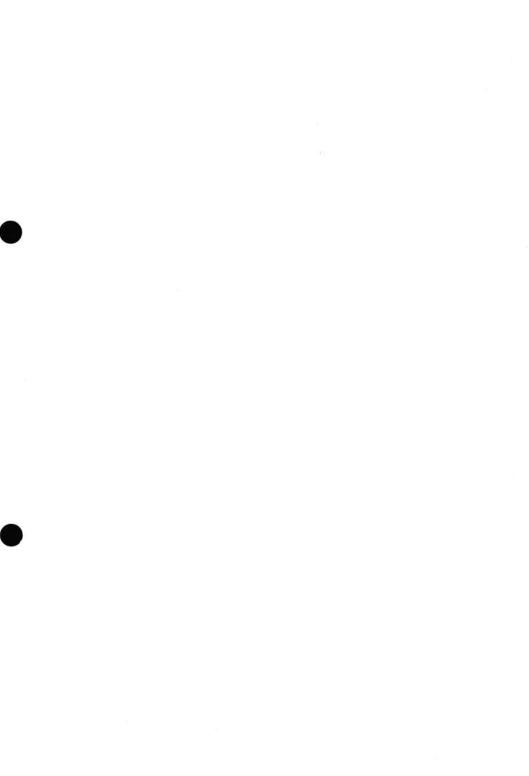
5000円

◎この用紙は新規購読申し込みのみにご使用下さい

=

所

住



#### 品 作 募 集

柳

塔

8

句

闌 切

1

月号発

表

11

月

15

締

初 檸 愛水川 一路集 歩 (3句) 檬 染 煙 2 抄 抄 句 3 8 い織 ぜ 、ったり ちば 脚 句 句 2 3 句 池福新川小 藤柿政 士家上 島 花岡 森慕 完 大

和未延子

選選

担

檸檬抄 「ゆがむ」 2月号 一路集 「冷たい」「 粒 「がたがた」

選 選

共

選

初歩教室 「潔 17

第6回「海 賊 H 選 ハガキに3句 11月末日締切

第30年度 夜市川柳募集

投句先 〒593-8305 堺市西区堀上緑町2-16-3

川柳塔さかい 河内天笑方

号室

t

半年分 振替○○九八○-四-二九八四七九 電話(○六)六七七九-三四九○ 大阪市天王寺区大道一 編集人 印 年(平成二十三年)十一 八百 五 九千八百円 JII 木小 花野ビル20 本島 円 送 月 料 (送料共 朱和 84

本社11月句会

おはなし 兼 席 題

茹 女 へ々し で る 1

会

費

0

0

0

円

投

旬

料

5

0

0 各題2句

円

手 以

可 内

天王寺区石ケ辻町19 アウィー 電06.6772.1 河西太江 内

句年川

Ш

投句につい

ところ

٢

き

7

13

時

14

時

tカ

切時間を変更しています。ご注意下さ

本社12月句会 7日(水) 午後1時から

島谷

勝 代

 $\mathbf{H}$ 

朋

子 月

選選選

兼題「不 足」「ゼ 口」「惜しむ」 力 「反 省

用紙 分以 を使 E 用し の定期 てく 、ださい 購読者) に限り、

②各欄への投句は、必ず氏名と住所(県・市名)を明檬抄は本紙綴込みの投句用紙を使用してください。集・初歩教室は川柳塔柳箋(本社事務所取り扱い)、集・初歩教室は誌友のみとします。愛染帖・一別要染帖・棒糠抄・一路集への投句は、同人・誌友に 煙抄欄へは誌 土・日曜、祝日を除く 本誌綴込みの投

ト夏

H 同

発行

円

川柳塔のホームページアドレス http://www.senryutou.com/

檸路 限

願

17

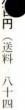
月月

几 号

塔

十一月号





円





締切 発 T543-0052 2012年1月31日(当日消印有効 本紙4月号にて発表いたします。 丁目14番17

応募要領

題

「ごま」 Ш

兼

柳塔社主幹 小島蘭

郵便八ガキに2句、郵便番号、住所、 氏名、電話番号を明記してください

人選20句、準特選2句、特選1句に賞品

0

〒862-0951 熊本市上水前寺1-6-41 OCOビルディング

ゴマ川柳係 花野ビル20号室 大阪市天王寺区

TEL 5 0120-30-5050

る

信頼され、社会に役立つ製品を作る

#### 高級封筒専業メーカ



### キ封筒株式会社

社 富田林市若松町東3丁目7番8号 〒584-0023 本

TEL 0721-25-7210 FAX 0721-25-9484

東京都中央区日本橋本石町4丁目5番8号 〒103-0021 東京営業所

(日本橋川村ビル4F)

TEL 03-5255-5158 FAX 03-5255-5159

http://www.koki-envelope.com